O‘ZBEKISTON RESPUBLIKASI
OLIY VA O‘RTA MAXSUS TA’LIM VAZIRLIGI
TOSHKENT DAVLAT SHARQSHUNOSLIK UNIVERSITETI
YAPONSHUNOSLIK FAKULTETI

MINISTRY OF HIGHER AND SECONDARY SPECIAL EDUCATION
TASHKENT STATE UNIVERSITY OF ORIENTAL STUDIES
FACULTY OF JAPANESE STUDIES

UZBEK-JAPAN STUDENT ACADEMIC FORUM II

“2-O‘ZBEK-YAPON TALABALAR FORUMI”

ILMIY TO’PLAM

論文集

Tashkolitchi: Toshkent davlat sharqshunoslik universiteti
主催：タシケント国立東洋学大学

TOSHKENT – 2022

Mas’ul muxarrir:
M.S. Nadjimxodjayev – Yaponshunoslik fakulteti Yoshlar masalalari va ma’naviy-ma’rifiy ishlari bo‘yicha dekan muovini. “Yapon filologiyasi kafedrasi” o‘qituvchisi

Tahrir hay’ati:
D.B. Sayfullayev – TDShU ilmiy ishlar va innovatsiyalar bo‘yicha prorektor, tarix fanlari doktori (DSc)
E.O.Matchanov – Yaponshunoslik fakulteti dekani
N.T.Xalmurzayeva – Yapon filologiyasi kafedrasi mudiri, PhD., dotsent
S.Reiko – Yapon filologiyasi kafedrasi dotsenti

Mazkur ilmiy to‘plamga 2022-yil 3-mart kuni Toshkent davlat sharqshunoslik universitetida o‘tkazilgan “O‘zbek-Yapon talabalar forumi” ning ilmiy maqolalari kiritilgan.

“O‘zbek-Yapon talabalar forumi” Toshkent: TDShU, 2022. – 167 b.

CONTENTS

ABDUJABBOROV Ibrohim
Degree of offendedness felt when refused in Japanese and Uzbek.....5

HIGURE Yasuharu
Collocations in a Textbook of Automobile Maintenance: *Toward Training Foreign Automobile Mechanics in Japan*.....11

MAKHMUDOVA Munisa
The history of the study of somatic phraseological units with the component "hand" in the Japanese and Uzbek languages.....22

MAGARA Yuki
Diverse Choices of Farmers toward Agricultural Policies: A Case Study of the Katayose Urushitachi District in Shiwa Town, Iwate.....27

AKHBAEVA Guzal
Study of modern approaches to the analysis of the language of fiction, a versatile theoretical substantiation of the problem under study in the works of foreign scientists is presented.....36

FUKUSAWA Mitsuki
Establishment and Transformation of Festivals: *A Case study of the Hanagasa Festival in Yamagata*.....40

JABRIEVA Nargiza
On the issue of Gender Stereotypes , their reflection in a literary tex.....50

TOKINO Kanako
Analysis of Japanese Language Learning Materials from the Perspectives of Nursing Care Technical Intern Trainees' needs - *Comparing the content of the learning materials to the results of Can do statements of the Japanese language that the nursing care technical intern trainees want to learn* -.....57

YUKARI Nishioka
Master's student, Cancer / Critical Nursing, Juntendo University Graduate School of Health Care and Nursing.....74

ERGASHOV Kholmirza
Graduate descriptıon on the subject " The use of compound adverbs in conversation between learners and native speakers of Japanese".....79

AKI Kanebako
A Study of Spanish-heritage language education to promote identity formation of Children with foreign backgrounds -focusing on the theory of educational objectives.....83

HUSANOVA Nilufar
The analyzes of scientific research on methods and techniques in expressing the color metaphors in linguistics.....94

AKHBAEVA Guzal
Existing approaches to the study of the relationship of sound and meaning in language and in a literary text.....100

ABDUKAYUMOVA Madina
"Yapon va o'zbek lingvomadaniyatida kishilik olmoshlarining funksional-stilistik xususiyatlari" 107

ESHONXO'JAYEVA Mukarramxon
Descriptıon on the subject "Semantic analysis of proverbs and phrases involving the lexeme "cat" in Japanese and Uzbek" 118

ORTIKBOEVA Visola
The subject of the article: The main factors of influencing the use of the Japanese verb "Kakeru"「掛ける」 in many different meanings.....124

RAVSHANOVA Aziza
Modality of the assumption and ways of its expression in the Uzbek and Japanese languages.....131

SOBITOVA Nargiza
Syntactic analysis of imitation words that represent the situation in Japanese and which parts of speech can occur in a sentence.....139

SOYIPBOYEVA Zilola
About the pronunciation of vowels and consonants in Uzbek and Japanese languages.....145

ALIMOVA Munisa
Background on the Functions of the Newest English loanwords of Youth Communication on Japanese Websites.....152

FORUM AGENDA.....99
PHOTOS……..……....10

日本語とウズベク語における断られた際に感じる不愉快さの度合

Degree of offendedness felt when refused in Japanese and Uzbek

Abdujabbarov Ibrohim

When a foreigner speaks in the second language, high tolerance for errors or mistakes in grammar and pronunciation is unexpectedly all too often shown. Misunderstanding or intolerance is, on the other hand, likely to occur in the case of sociocultural factors. There is no exception for Uzbek and Japanese even considering the fact that both linguistic systems are very much alike. Especially, we should take further and further caution concerning “the refusal act” given that this expression is against interlocutor's opinion. This article, in which regards the case of one whose proposal is rejected as a part of refusal act, touches on speech acts brought about and feelings of offendedness when rejected through cross-linguistic comparisons and analyses between Uzbek and Japanese。

キーワード：人間関係、断り、不愉快さ、能力不足、心理的、傷付く可能性、意味公式、コミュニケーション上の障害

外国人が第 2 言語で話す場合、発音・文法上の誤りは母語話者にとって「まだ学習言語を知らないからだ」と容認されやすいが、社会的文化的なルール上の誤りは、母語話者に「失礼である」、「不誠実である」などの誤解をもたらすおそれがある[1]。

さて、言語体系が非常に類似していると言われているウズベク語と日本語においては、そういったコミュニケーション上の障害が生じないだろうか。 無論、ウズベク人も日本人もお互いの言語でコミュニケーションを取る場合、トラブルが発生する。 つまり、いくら言語体系が類似していても、必ずしも言語行動のパターンまでもが一致するとはいえないと言えるだろう。

言語行動の中でも、特に「断り」は、相手の意向に添えないという点で相手のフェイスを侵しかねない行為である。 他の言語行動に比べ、断り行為に誤りがあった場合、人格上の欠点として見なされることになりやすい。[2]また、その後の人間関係まで危うくする可能性が高く、人間関係維持およびコミュニケーション上の障害になることも考えられる。 当然、言語が異ると、なおさらその可能性が大きくなる。

しかし、従来の研究では「断り」言語行動の分析範囲を断る際の表現のみに限定しており、どのような流れで「断り」が成り立っているのかまでには考察していない。 どんな場面で、どのように断るかももちろん重要であるが、断られた後の言語行動や反応も逃してはいけない部分だと思われる。 断る時の表現のみならず、断った後相手が取る反応も「断り」言語行動の一部として扱われるべきであろう。

そこで、本稿では断りの場面を設定し、ウズベク語と日本語両言語において断られた時に取る言語行動やその時感じる不愉快さの度合について考察を行う。

---

[1]西村史子（2007）「断りに用いられる言い訳の日英対象分析」『世界の日本語教育』17 号，pp.93
[2]河 正一・徐 明煥 （2014）「断り表現に関する日韓対照研究の動向」

本稿では、いくつかの場面を設定し、断られた時の不愉快さやその時に取る言語行動の分析を試みる。 調査[3]は 2022 年１～２月にかけて、ウズベキスタンと日本　で行った。以下の「表 1」は調査対象者の属性を示したものである。

「表１」調査対象者の属性　　（　）内は%を示す

属性別		ウズベク母語話者	日本人母語話者
全体（合計）		104 人　(100)	105 人(100)
性別	男性	59 人(56.7)	47 人(44.7)
	女性	45 人(43.3)	58 人(55.3)
年齢	10・20 代	35 人(33.6)	28 人(26.6)
	30・40 代	38 人 (36.5)	43 人(40.9)
	50・60 代以上	31 人 (29.9)	34 人(29.5)

調査場面は、断り行動が頻繁に行われると思われる「車を貸してほしいと頼んだ場合」と「お金を貸してほしいと頼んだ場合」の 2 つの場面を取り上げ、調査を行う。 また、断られる理由にも焦点を当て、各場面を「心理的な理由で断られる場合」と「自分の能力不足で断られる場合」に分ける。 場面設定を簡単に示すと以下の「表 2」のとおりである。

表２調査場面

内容		**場面**
依頼	**断られた理由**	
ドライブのために明日一日だけに車を貸してもらえないか	相手に「車を貸すのはちょっと。。」と断られた	心理・原則
	車が故障しているから無理だと断られた	能力不足
お金を貸してもらえないか	相手にお金の貸し借りはしないことを原則としていると断られた	心理・原則
	新しい家に引っ越しをし、お金がないと断られた	能力不足

[3] https://app.surveyplanet.com/results/61f7f79524abb57325b3748f

つまり、上記の「表 2」の総計 4 つの場面を分析場面とし、場面別・ 相手別により両国の相違点や類似点を明らかにした。 それから、不愉快の度合いは 4 段階に分けて回答してもらった。 質問項目は次のとおりである。

- あなたは次のような場面で、相手に断れました。「断れたらどのくらい気分 を 害しますか」

a. 非常に害する

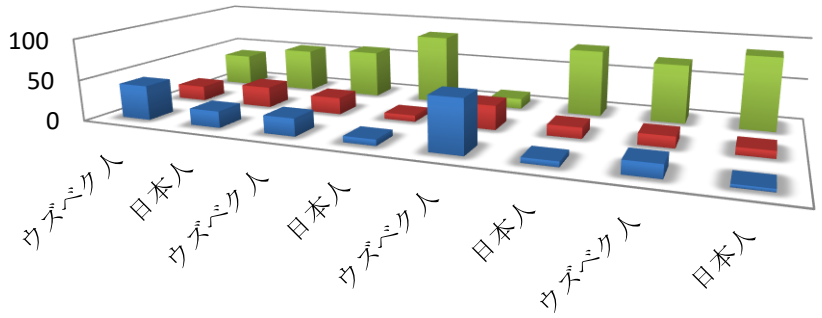
b. やや害する

c. どちらとも言えない

d. 全然気にしない

本節では、断られた際に感じる不愉快さを場面別に比較し、考察を行う。 まず、両国とも全体的に「平気である」あるいは「全然気にしない」と答えた割合が高く、断られた場合、それほど気分を害さないことがわかった。 しかしながら、両国の「非常に害する」や「やや害する」の割合を合わせて分析してみると、ウズベク人のほうが断られた際、日本人より気分を害する傾向があることがうかがえた。 以下の「図 1」はウズベク語・日本語の両言語話者が感じる不愉快の度合いを場面別に表したものである。

図 1　日本語・ウズベク語の両言語話者が感じる不愉快の度合



	ウズベク人	日本人	ウズベク人	日本人	ウズベク人	日本人	ウズベク人	日本人
やや害する・非常に害する	41,9	20	21,4	7,4	63,1	6,2	15,5	3,5
どちらとも言えない	18,3	25,4	20,4	7,7	29,3	13,2	13,6	8,8
全然気にしない	39,8	53,6	58,3	84,9	12,6	80,6	70,9	87,7

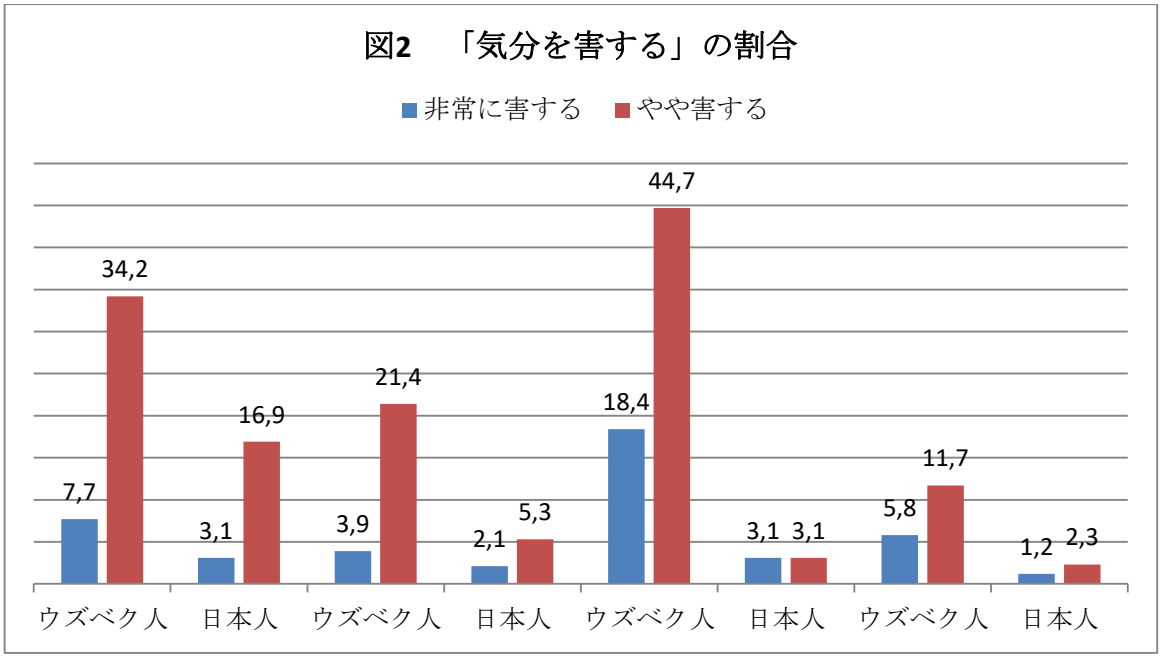
*1. 車（心理・原則）2. 車（能力不足）3. 金（心理・原則）4. 金（能力不足）

上記の「図 1」で示したように、全ての場面において断られても「全然気にしない」と答えた割合が高く現れ、断り場面で断られる立場になってもそれほど傷付かないこと

がわかった。 このことは、自分が相手の立場になったとしても断ったはずだから、断られても仕方ないと相手の立場について充分理解しているからだと言えよう。 また、ウズベキスタンと日本の場合を比べて見ると、全ての場面においてウズベク人が日本人より「気分を害する」傾向が高いことがうかがえた。 すなわち、同じ場面でものを断られたとすると、ウズベク人は傷付く可能性が高いのに対し、日本人はウズベク人よりそれほど気にしないことがわかった。

ところが、同じ素材のものを断るとしても、能力不足で断る場合より心理・原則の理由で断る場合に「気分を害する」と答えた割合が相対的に増加する傾向が見られた。逆に言えば、心理・原則の場合に負担をより強く感じるの」ということは、相手が「気分を害する」可能性が高いからであろう。

以下の「図 2」は上記の「図 1」の中から「非常に害する」、「やや害する」を合わせたものだけをグラフに示したものである。



*1. 車（心理・原則）2. 車（能力不足）3. 金（心理・原則）4. 金（能力不足）

上記の「図 2」からわかるように、ウズベク人は「車（能力不足）」=「お金（能力不足）」<「車心理・原則」<「お金心理・原則）」の場面の順で、気分を害することがわかる。 一方、日本人は「車（能力不足）」=「お金（能力不足）」<「車心理・原則」=「お金心理・原」の順で、ウズベク人との差が見られた。

つまり、日本の場合は、断られた理由が同じであったら、素材はそれほど問題にならない。 一方、ウズベク人は能力不足で断る場合には日本と類似した傾向が見られたが、心理・原則の理由で断られる場合には、断られる素材が車かお金かによって、不愉快さが大きく変わることがうかがえた。 このことは、同じ場面で立場だけ変えて断る者

になった時にウズベク人が用いる意味公式[4]と関係があると思われる。 ウズベク人はお金の素材に関して、状況および能力不足で断る場合に、単に断るのではなく、「急ぎだったら代わりに他の人に頼んでみようか」という積極的な代案提示の意味公式を用いる傾向があり、逆に断られる立場になってもそのような積極的な代案提示の姿を相手に期待するのである。 自分でお金を貸すことができない状況でも、このように相手の問題に対して積極的に誠意を見せているのに、なおさら、相手の能力の範囲内のことを努力もせずに断られたということで、ウズベク人は一層「気分を害する」という感だと考えられる。

その結果をまとめると以下のようである

まず、断られた際、ウズベク人のほうが日本人より傷付く傾向がうかがえた。

また、同じ素材のものを断るとしても能力不足で断る場合より、心理・原則の理由で断る場合に不愉快だと感じる割合が増加するため、断る際、断る理由に対しても注意が必要だと考えられる。

参考文献リスト

1. 高木美嘉（2003）「依頼に対する「受諾」と「断り」の方法」『早稲田大学日本語教育研究』第 2 号
2. 西村史子（2007）「断りに用いられる言い訳の日英対象分析」『世界の日本語教育』17 号，pp.93-112.
3. 李 海燕（2013） 「「断り」表現の日中対照研究」 学位規則第 4 条第 1 項該当
4. 河 正一・徐 明煥 （2014）「断り表現に関する日韓対照研究の動向」
5. 森山卓郎（1990）「断りの方略：対人関係調整とコミュニケーション」「言語」第 19 巻第 8 号，59—66.
6. 蒙・韞（2008）「中国人日本語上級学習者の語用論的転移の一考察—依頼に対する断り表現のポライトネスの表し方から」『国際開発研究フォーラム』36 号、241–254 .
7. 横山杉子（1993）「日本語における，日本人の日本人に対する断りと「日本人のアメリカ人に対する断りの比較—社会言語学のレベルでのフォリナートーク—」日本語教育 81 号、141－151.
8. 三溝・信（1986）「社会学講義」有信堂高文社、94－102
9. Brown,P. and Levinson,S.C.（1987）Politeness : Some Universals in Language Usage（Studies in Interactional Sociolinguistics）Cambridge University Press

[4]意味公式とは、「謝罪」「弁明「代案提示」なと、人がものを断る際に使う言葉をその意味内容によって分類したもののことである。（ Beebe。1990 ）

10. Beebe, L. M., Takahashi, T., & Uliss-Weltz, R. (1990). Pragmatic transfer in ESL refusals. In R.C.Scarcella, E. Anderson, & S. Krashen (Eds.), Developing Communicative Competence in a Second Language, Newbury House, New York, pp. 55-73

自動車整備士テキストにみられるコロケーション
—外国人自動車整備士養成に向けて—

Collocations in a Textbook of Automobile Maintenance:
Toward Training Foreign Automobile Mechanics in Japan

日暮康晴　HIGURE Yasuharu
修士（日本語教育学）
筑波大学大学院博士後期課程、日本

Abstract

This study investigated the collocations of Japanese nouns derived from verbs among the words appearing in a Japanese auto mechanic training textbook, “Class 3 Automobile Rolling Chassis”, commonly used in Japan. Furthermore, the collocations in the textbook were compared with the collocations found in a corpus of contemporary written general Japanese. As a result, we found that there are three types of collocations between Japanese in the textbook and general Japanese: (1) those in which the meaning of the target word is different and the frequent collocations are also different, (2) those in which the meaning of the target word is the same but the tendency of frequent collocations is different, and (3) those in which the meaning of the target word is the same but the tendency of frequent collocations is different. From the results of the study, we can conclude that it is important to show learners the words with different tendencies of meaning that are often used in general Japanese, along with their collocations, among the specialized words. Future work should include a survey of more target words, a quantitative survey of the entire textbooks, and a survey that focuses on language use in actual mechanic work in workplaces and trainings.

キーワード
専門日本語、コロケーション、コーパス、自動車整備、外国人労働者、特定技能、SDGs

１．はじめに

自動車整備業は、平成 28 年 4 月に外国人技能実習制度の受け入れ業種に追加され、平成 30 年には特定技能 1 号での受け入れが始まった。技能実習生として自動車整備業に携わる外国人の数は令和 2 年現在 2957 人[5]、特定技能 1 号によって自動車整備業に携わる外国人数は令和 3 年現在 434 人[6]と、どちらも受け入れ全体の 1%強程度を占めるにとどまっている。しかし、日本人の自動車整備士数は平成 24 年から令和元年に至るまで減少傾向が継続しており[7]、今後、日本社会全体の少子高齢化などの要因によって、日本国内にお

[5] 国籍･地域別　職種別　技能実習計画認定件数（構成比）（１－６）- 外国人技能実習機構
https://www.otit.go.jp/files/user/toukei/211001-1-6.pdf（2022 年 2 月 23 日 最終閲覧）

[6] 特定技能制度運用状況 – 出入国在留管理庁
https://www.mlit.go.jp/jidosha/content/001401686.pdf（2022 年 2 月 23 日 最終閲覧）

[7] 令和 2 年 1 月 23 日 平成 31 年度 自動車分解整備業実態調査
https://www.jaspa.or.jp/Portals/0/resources/jaspahp/member/data/pdf/H31jittaityousa.pdf
（2022 年 2 月 23 日 最終閲覧）

ける外国人整備士の需要の高まり及びそれに伴った就業者数の上昇が予想される。今後、日本語を母語としない自動車整備士およびそれを目指す日本語学習者（以下、学習者）の数が増加してゆく中で、自動車整備に必要な専門日本語の学習・教育のための準備は急務であると考えられる。そこで、本研究では現在一般的に使用されている自動車整備士教育用のテキストに含まれる語及びそのコロケーションに注目し、特徴的に観察されるパターンについての調査を通して、専門日本語教育における効果的な語彙指導・学習についての議論を行う。

２．先行研究

２．１　自動車整備に関する日本語の研究

専門日本語教育の観点から行われた自動車整備業に関わる研究の代表的なものとして、清水（2020）による自動車整備士養成テキストで登場する和語の抽出・整理がある。具体的には、自動車整備士養成において使用されるテキスト『三級自動車シャシ』（一般社団法人日本自動車整備振興会連合会編 2017）において確認された名詞・動詞・連用形名詞について、名詞は「具体物の名」、「状態や形状を表す語」（いずれも清水 2020; 54）といった意味別の分類、動詞は「人が主体である動詞」、「物が主体である動詞で、動詞の対象があるもの」（いずれも清水 2020; 55）といった「構文中での動詞の使われ方」（ibid.）による分類、連用形名詞については「単独の動詞が連用形名詞となるもの」、「複合動詞が連用形名詞となるもの」（いずれも清水 2020; 60）といった語構成による分類が行われた。さらに、分類された語について、旧日本語能力試験出題基準を用いた難易度判定を行った。

その結果、名詞・動詞・連用形名詞のいずれにおいても試験基準外と判定される語が多く、特に連用形名詞はその殆どが試験基準外の語であった。しかし、清水（2020）内でも言及されているように、同テキストにおける問題点は、登場する語そのものが学習者にとって難しいということだけに留まらない。連用形名詞は特殊・専門的な意味を持つことも少なくなく、たとえ元となる動詞が比較的よく知られている語であっても、そこからの類推では意味を取り違える可能性がある。清水（2020）で行われた整理は、それぞれの語の用法や難しさの分布を明らかにしたという点で大いに意義があるものの、実際の教育・学習現場での実践に活かすにあたって、効果的な方法を考える余地は未だ大いにあると推察される。

２．２　コロケーションとは

コロケーションの定義には、「2 つ以上の言葉の結びつきやすい表現」（小野・小林・長谷川 2009; iii）と広く捉える立場から、「語と語の間における、語彙、意味、文法などに関する習慣的な共起関係」（堀 2009; 27）と、より細分化した括りを視野に入れる立場など、様々な見方が存在する。本稿では、結びつく語との特定のパターンに注目するという点より、バックハウス（2006）の「ある構文パターンの中で、一定の頻度で使われる二つ以上の語彙的単語の組み合わせ」（バックハウス 2006; 125）に従う。

コロケーションの強さには 3 つの段階があるとされ（三好 2007）、最も強いものが「腹を＋立てる」のような慣用句であり、この結びつきによって初めて特定の意味（ここでは「怒る」）が表出される。次が、「ギターを＋弾く」のように、同じ意味内容を示すため

にそれ以外の表現は選ばれにくいものの、それぞれの語の情報によって意味が理解されるもの、最後が、「コーヒーを＋飲む」のような自由結合である。結びつきが弱いほどコロケーションとして覚える必要性は弱くなり、上掲の自由結合パターンに至ってはそれぞれの語の知識さえあれば理解の上で問題はない。しかし、言語使用の中で一定の頻度で使用される組み合わせであれば、それを覚えることによって理解の際の認知的処理、また、産出の際のスムーズさへの好影響が期待される。そのため、自由結合的なコロケーションであっても、学習者にとって覚える価値があると言える（バックハウス 2006、三好 2007）。

２．１に挙げた清水（2020）でまとめられた語をあらためて確認すると、たとえば連用形名詞とされる、動詞を元とした名詞の中には「遊び」、「曲がり」などがある。それらは旧日本語能力試験において 4 級レベルの語と判断される動詞「遊ぶ」、「曲がる」に由来する名詞である。例えば、「遊ぶ」の意味を辞書で確認すると、第一義には「自分のしたいと思う事をして、楽しみながら時間を過ごす」（『新明解国語辞典第八版』）という意味が挙げられる。一般日本語教育のための教科書における「遊ぶ」の用例は、「それからいっしょに公園へ*遊び*に行きます。」（『みんなの日本語　初級Ⅰ』p.117、強調は筆者）のように、辞書の第一義と同じ意味である。しかし、自動車整備士養成テキスト内での「遊び」の用例を確認すると、「クラッチ・ディスクの摩耗に伴ってプッシュ・ロッドが移動し、クラッチの*遊び*を一定に保つ無調整式のものである。」（p.23、強調は筆者）[8]のように、一般日本語教科書で主に学ぶ「遊ぶ」から連想される意味とは異なる「部品の噛み合い、又は動作におけるゆとり」を意味する用法が登場する。一般的に、日本で自動車整備教育を受ける学習者には、まず一般的な日本語教育を受け、ある程度の日本語能力を身に着けた後に専門日本語の学習を含む専門分野としての自動車整備についての教育を受けるという流れが想定される（大平 2015）。専門的な学習においてもそれまでの一般日本語教育を通して覚えた日本語の知識を用いて類推を働かせることが予想されるが、このような語彙については専門的な意味を新しく学ぶ必要がある。その際に、単にその語だけを覚えるのではなく、「クラッチの遊び」、「ブレーキ・ペダルの遊び」のように頻出するパターンで関連語とともに学習を行うことで、語義のイメージをより具体的に持つことができる。そのように、関連する意味概念を結びつけて学習を行うことで、専門日本語の習得の効率化に加え、専門知識としての理解にも好影響を得られることが期待される。本研究では、自動車整備士養成テキストの中でどのようなコロケーションが確認されるか、そしてそれが一般的な日本語において確認されるコロケーションとどのような異なりがあるのかという視点から調査を行う。

３．調査

３．１　調査テキスト

本調査では清水（2020）と同様に一般社団法人日本自動車整備振興会連合会編（2017）『三級自動車シャシ』（一般社団法人日本自動車整備振興会連合会）を調査対象とした。同書は自動車整備士養成機関において使用されるテキストであり、自動車整備業種の技

[8] 以下、特に記述がない限り引用は一般社団法人日本自動車整備振興会連合会編（2017）『三級自動車シャシ』（一般社団法人日本自動車整備振興会連合会）による。

能実習生に対し受験要件として定められている外国人自動車整備技能実習評価試験、また、特定技能受け入れ段階において自動車整備業に携わる外国人に対し、技能及び業務上必要な日本語の能力評価のための受験要件として定められている「自動車整備士技能検定試験 3 級」の参考書としても紹介されている[9][10]。加えて、自動車専門学校での教育課程でも使用されていることなどから、本書の内容が自動車整備士教育における日本語情報を整理・分析する上で適切であると判断した。以下、本稿において「テキスト」とする。

３．２　調査対象語

清水（2020）でまとめられた語の内、動詞連用形を元とする名詞語（清水（2020）における「連用形名詞」）であり、さらにその中で「単独の動詞の連用形名詞」に含まれ、かつ元の動詞のレベルが旧日本語能力試験 3 級以下とされる語を調査対象語とする。これらの語に限定した理由は、学習者が専門日本語学習の前段階として行う一般日本語学習の中で接する可能性が比較的高い語であり、優先して一般的な語の使用との異なりを教えることで専門日本語学習に効果的であると考えられるためである。表１に、対象語のリストを示す。

表１　調査語リスト（レベルは元となった動詞の旧日本語能力試験レベル）

４級	３級
遊び（遊ぶ）	滑り（滑る）
働き（働く）	やせ（やせる）
曲がり（曲がる）	汚れ（汚れる）
	割れ（割れる）

清水（2020）pp.66-67 より筆者作成

３．３　調査の手順

テキストにおける調査語の登場をすべて集計し、それぞれの語のコロケーションを出現頻度とともにまとめた。本研究では調査語の直前に前接する要素に注目して集計した。また、前接するパターンの中で多く確認された「名詞＋の＋調査語」というパターンについて、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（国立国語研究所）の検索ツールである NINJAL-LWP for BCCWJ（国立国語研究所）を使用して一般的な日本語書き言葉の中での同パターンとの比較を行った。

４．結果

４．１　テキストにおけるコロケーション

以下、調査語ごとのコロケーションパターンと前接語を 50 音順に示す。確認された実数をカッコに入れて付す。「なし」は「*遊び*が規定値を超えている場合は、スリーブ・ヨークとプロペラ・シャフトをセットで交換する。」（p.54、強調は筆者）のように前接要素が

[9] 外国人技能実習評価試験 - 一般社団法人日本自動車整備振興会連合会 https://www.jaspa.or.jp/mechanic/expat/（2022 年 2 月 20 日最終閲覧）

[10] 特定技能評価試験 - 一般社団法人日本自動車整備振興会連合会 https://www.jaspa.or.jp/mechanic/specific-skill/（2022 年 2 月 20 日最終閲覧）

ないものを表す。

表２　「遊び」前接コロケーションパターン

名詞＋の（20）	三つの（1） 回転方向の（1） 軸方向の（3） クラッチの（8） クラッチ・ペダルの（1） 軸方向及び直径方向の（1） ステアリング・ホイールの（2） ブレーキ・ペダルの（3）	遊び（30）
名詞＋での（1）	円周寸法での（1）	
連体詞（1）	この（1）	
なし（8）		

「遊び」は本研究の調査語の中で最も多く登場が確認されたが、すべての用例が「部品の噛み合い、又は動作におけるゆとり」を表す意味で使用されていた。前接する語は「三つの」を除いた全てが、遊びを備える部位や、遊びの生じている範囲を示す語である。また、前接要素のない例についても、「スプライン部にダイヤル・ゲージを当て、プロペラ・シャフトを静かに回転方向に動かして*遊び*を測定する。」（p.54、強調は筆者）のように何らかの部品の接合に関するものであり、何の遊びかという点に関しては文脈での判断が要求される。

表３　「滑り」前接コロケーションパターン

名詞＋の（2）	クラッチの（2）	滑り（9）
複合名詞（2）	横（2）	
なし（5）		

テキストにおいて「滑り」の指す意味は「機械の部品同士が噛み合わず空転を起こすこと」と「自動車のタイヤの空転による進行方向以外への動き」の 2 つに分けられる。前者と後者の異なりは、「クラッチの滑り」のように滑りを起こす部品が明示されていることで分かるものもあるが、「図 2-73 は、差動制限型ディファレンシャルのうち、粘性式クラッチ（ビスカス・カップリング）を使用したものの一例で、*滑り*が生じた場合には、回転の速い方から遅い方へとトルクの配分を行うことで、駆動力が確保される。」（p.49、強調は筆者）のように文脈で判断する必要のある例も確認された。

表４　「働き」前接コロケーションパターン

名詞＋の（3）	エレクトロニック・コントロール・ユニットの（1） グリップ力の（1） 同期作用の（1）	働き（8）
連体修飾節（5）	トルクを伝える（1）	

	クラッチに伝える（1） 防止する（1） タイヤを直進状態に戻そうとする（1） 次のような（1）	

「働き」はいずれも「作用」としての意味合いで用いられていた。「働き」に前接する要素の特徴として、他の調査語と比べて、連体修飾節による修飾が多く見られた。

表５　「曲がり」前接コロケーションパターン

名詞＋の（12）	接続部の（2） 各部の（1） シャフトの（2） 上下の（1） センタ・ボルトの（1） プロペラ・シャフトの（1） フロント・アクスルの（2） ラック・エンドの（1） ワイパ・アームの（1）	曲がり（20）
連体詞（1）	その（1）	
形容詞（1）	無理な（1）	
なし（6）		

「曲がり」によって表されるのはいずれも「*曲がり*の点検は、図 2-83 のように V ブロックに乗せて中央部にダイヤル・ゲージを当て、シャフトを静かに回して測定する。」（p.54、強調は筆者）のように「部品の異常としての予期せぬ形状変化」であり、動詞「曲がる」から想起され得る「自動車の旋回動作」を示すものはなかった。前接する要素の内、多くは「遊び」と同様に曲がりを起こす部品や部分を示す語であった。

表６　「やせ」前接コロケーションパターン

なし（1）	やせ（1）

「やせ」は「ねじ部につぶれや、*やせ*、かじりなどがないか点検する。」（p.229、強調は筆者）の 1 例のみ確認された。この用例における「やせ」は「ねじの山部分がすり減りを起こし、使用における許容範囲を超えた様子であること」を表すと考えられる。

表７　「汚れ」前接コロケーションパターン

なし（1）	汚れ（1）

「汚れ」は「錆や*汚れ*を落とし、ねじ部にエンジン・オイルを薄く塗布してホイール・ナットを手で回したとき、スムーズに回転しない場合は、ねじ部に異常がある。」（p.229、強調は筆者）の 1 例のみ確認された。この用例における「汚れ」は一般的な、「液体など

の付着が通常程度を超えた状態」を表すと考えられる。

表８　「割れ」前接コロケーションパターン

名詞＋の（2）	インナ・ライナの（1） 先端部の（1）	割れ（4）
複合名詞（2）	ゴム（2）	

「割れ」は 4 例とも「ラック及びピニオンの歯面の摩耗、打痕、剥離及び先端部の*割れ*の状態を点検し、不具合のあるものは交換する。」（p.98、強調は筆者）のように、「望ましくない破損」を表す用法である。「名詞＋の」の形で前接する 2 例はいずれも割れの起こる箇所を示すものであった。また、「ゴム」が直接前接した「ゴム割れ」が 2 例確認されたが、それは「トレッド部以外の部位にコードに達する損傷及び*ゴム割れ*があるもの」（p.120、強調は筆者）のようにゴム部分に生じた「割れ」を示す用語としての使用であった。

４．２　BCCWJ におけるコロケーション

表 9 に、BCCWJ に収録されているデータの中で、調査語において多く確認された「名詞＋の」というコロケーションの頻度上位 20 パターンを示す。「曲がり」、「やせ」については名詞としての検索結果が表示されなかったため、検索結果が得られた「遊び」、「滑り」、「働き」、「汚れ」、「割れ」の結果についてのみ示す。なお、同頻度のものが多数あることで 20 パターンを超えるものについては、共起関係の強さを表す LD 順の高いものを優先して掲載する。

以下、結果が得られた調査語それぞれについての結果をまとめる。

「遊び」は上述したように「楽しみのために行う活動」という、一般的に「遊ぶ」によって想起されやすい意味合いの用例が多く確認された。共起する語にはそれに対する連体修飾としての語がほぼ全てを占める。なお、4.1 節に挙げたような「部品の噛み合い、又は動作におけるゆとり」を表すと考えられる「遊び」は、表の範囲外に「クラッチの遊び」（頻度 2 回）、「レバーの遊び」（頻度 2 回）、「スプリングの遊び」（頻度 1 回）などが確認された。

「滑り」に共起する語は多くがスキー・スノーボードに関わる語であった。頻度で第 1 位であった「デモ」は一般名詞ではあるものの、その用例を確認すると「デモの*滑り*のように空中の段階でもうすでに次のターンのスキーの方向づけをつけていることがよく分かる。」（図・書籍 1991、強調は筆者）のように、7 例全てがスキーに関する書籍内でのスキーの描写における用例であった。その他に、「モデルの滑り」（頻度 6 回）、「パターンの滑

表９　BCCWJ におけるコロケーションパターン

遊び	**滑り**	**働き**	**汚れ**	**割れ**
子供の（86）	デモの（7）	脳の（71）	水の（20）	ガラスの（2）
昔の（16）	モデルの（6）	心の（57）	毛穴の（15）	プラズマ

				パネルの（1）
大人の（7）	モーグルの（5）	酵素の（53）	表面の（12）	三寸の（1）
言葉の（6）	クラッチの（3）	頭の（40）	体の（11）	カシの（1）
青少年の（6）	パターンの（3）	神経の（33）	空気の（9）	漆の（1）
児童の（5）	二つの（3）	胃腸の（22）	心の（8）	タイルの（1）
幼児の（5）	底の（3）	腸の（19）	海の（7）	珊瑚の（1）
ふだんの（4）	瘤の（3）	ホルモンの（17）	血液の（7）	出所の（1）
別の（4）	自分の（3）	インシュリンの（16）	罪の（6）	特有の（1）
同士の（4）	表面の（2）[11]	心臓の（16）	襟の（6）	コンクリートの（1）
正月の（4）	里いもの（2）[12]	神の（16）	手の（5）	木材の（1）
自分の（4）	ベルトの（2）	微生物の（15）	部分の（5）	パネルの（1）
萩の（4）	タイプの（2）	交感神経の（14）	髪の（5）	カバーの（1）
親子の（4）	段違いの（1）	細胞の（14）	オイルの（4）	本体の（1）
木製の（3）	スキーヤーの（1）	電気の（13）	フライパンの（4）	生地の（1）

り」（頻度 3 回）についても、一見するとスキー用語とわからないが、スキー関連書籍での使用であり、スキーに関する文脈で登場していた。「クラッチの滑り」、「ベルトの滑り」のように機械の動作に関するものも、それぞれ 3 例、2 例ずつ確認された。機械の動作における「滑り」と同様の意味を持つ「滑り」は「底の滑り」（頻度 3 回）、「表面の滑り」（頻度 2 回；うち 1 回は「ぬめり」）などがある。

「働き」は他の語に比べ前接名詞の種類・頻度数が多く確認された。そのコロケーションには、「脳の働き」や「心の働き」、「神経の働き」など、人体に関するものが多くみられる。一方で、出典は医学書など特定のジャンルに偏っておらず、「直接、脳の*働き*を見たい！この望みを叶えてくれたのが脳機能イメージングでした。」（出・書籍 2004、強調は筆者）、「神経を鎮め、脳の*働き*を高める効果があります。」（広報 2008、強調は筆者）のように、様々なジャンルにおいて登場する。

「汚れ」のコロケーションには「水の汚れ」（20 例）、「毛穴の汚れ」（15 例）など、自然環境・衛生関係のジャンルに関連するものが多く確認された。ただし、出典は「スト

[11] 1 例は「ぬめり」

[12] 2 例は「ぬめり」

レスや水の*汚れ*が早くなって魚へ負担を与えることもあります。」（Yahoo!知恵袋、誤字は原文ママ、強調は筆者）など、「働き」と同様特定のジャンルの書籍に限定されたものではない。また、意味的にはいずれも「あるべき状態に何らかの不純物やそれに準じるものが付着した状態」を表し、4.1 節で確認されたテキスト内での用法と大きな異なりはない。

「割れ」は全体的に用例が少なく、コロケーション例も「ガラスの割れ」が 2 例確認された以外は全て 1 例ずつと、特定のジャンルや分野への偏りは見られなかった。

５．考察

結果からは、調査対象語の自動車整備士テキストにおけるコロケーションと一般日本語において頻出するコロケーションの関係には、（１）調査対象語の用いられる意味が異なり、頻出するコロケーションにも異なりが見られるもの、（２）調査対象語の用いられる意味は同じだが頻出するコロケーションの傾向に異なりがあるもの、（３）調査対象語の意味が同じで、一般日本語とのコロケーションも同様のものの３つに大別できる。本研究での調査語のうち BCCWJ でのコロケーションが確認できたものは、それぞれ（１）には「遊び」、（２）には「働き」、「汚れ」、（３）には「割れ」が当てはまると考えられる。ただし、「滑り」については、一般日本語結果ではスキー・スノーボード関連の書籍での結果が上位を占めており、「滑り」の意味も「スキー・スノーボードを行う様子」といったように、意味がやや異なる。また、「クラッチの滑り」、「ベルトの滑り」のようにテキストと同様の用例も確認された。それらの点より「滑り」は（１）と（３）の両方に分かれて属するとも考えられる。

以上（１）～（３）の 3 パターンの中では、学習者がそれまで一般日本語学習の中で学んできた日本語の知識による類推が働かない、もしくは働きにくいという点で（１）に含まれる「遊び」が最も難しく、明示的な指導が必要であると言える。その際、4.1 節の結果で確認されたように、頻出するコロケーション、例えば、「クラッチの遊び」、「ブレーキ・ペダルの遊び」を取り入れた例文を示すことなどで、より効率的に専門日本語における語彙を身につけることができると考えられる。また、それを通じ、「遊び」という語の意味だけではなく、「遊び」が関わる対象としてクラッチやブレーキ・ペダル、ステアリング・ホイールがあるといったように、専門知識の学習にも好影響をもたらすことが期待される。これらの学習に向けた教育活動として、例えば学習者の既存知識を活用し、関連する語彙を結びつけて学習者自身で語彙マップを作成する活動[13]が挙げられるが、そのような活動を進める上でも、本研究で得られた結果は一定の指針となり得るだろう。

また、NINJAL-LWP で名詞としての検索結果が得られなかった「曲がり」、「やせ」については、名詞として独立した検索結果が得られないという程度には名詞としての使用が少ないという点から、注目して指導を行う必要性がある。その際、「曲がり」は「シャフトの曲がり」、「ラック・エンドの曲がり」のように様々なものに対して使用されるが、「やせ」はねじについてのみ使用されていたというように、コロケーションの結び付きの強さは語によって異なる。どのような語が、どのような対象と共に使用されるのか、

[13] 日本語教育通信　授業のヒント「語彙マップを作ってみよう！」- 国際交流基金 https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/teach/tsushin/hint/202003.html（2022 年 2 月 27 日最終閲覧）

そしてそれは特定分野内においてどのくらい一般化可能なのかという点は、今後の研究、また、その応用としての教育内容・教材制作等において考慮すべきである。

さらに、学習者の視点からテキスト内容を見ると、学習者の知識・類推とテキスト内の記述の不一致が予測される例も存在した。たとえば、「曲がる」という語は初級日本語教科書では「あの交差点を右へ*曲がる*と、左にあります。」（『みんなの日本語　初級Ⅰ』p.200、強調は筆者）のように移動を表す語として示される。一方で、整備士テキストにおいて自動車の左右方向への移動を示す語は「路面からの衝撃及び*旋回*時の遠心力や自動車が傾斜したときに働く力」（p.107、強調は筆者）のように、主に「旋回（する）」が使用される。このような、どのような動作がどのような語によって表現されるか、そしてそれがどのように一般日本語教科書と異なっているかに注目した調査を行うことも、今後の課題として注目すべきであろう。

６．まとめ

本研究では、自動車整備士養成テキストにおける語とそのコロケーションの調査、およびその一般日本語との異なりに注目して調査を行った。結果では、そもそもの語の意味が異なるものも確認され、一般日本語との異なりに注目して指導を行うことが学習者の専門知識習得に効果的であることが示唆された。本研究では調査対象語に前接する語のみを調査対象としたが、今後は後接するコロケーションに範囲を広げた調査を行いたい。また、テキスト全体の中での頻出語を対象とした調査や、実際の整備作業・訓練における言語使用の調査など、今後の研究発展には様々な可能性が考えられる。はじめにも述べたとおり、自動車整備業における専門日本語研究の重要性は今後一層の高まりが予想される。本研究がその一助となることを望み、また、関連研究のさらなる興隆を期待するものである。

〈参考文献〉

バックハウス、アンソニー・E（2006）「語彙教育の単位としてのコロケーション」『北海道大学留学生センター紀要』10, pp.125-134.
堀正広（2009）『英語コロケーション研究入門』研究社
一般社団法人日本自動車整備振興会連合会編（2017）『三級自動車シャシ』一般社団法人日本自動車整備振興会連合会
三好裕子（2007）「連語による語彙指導の有効性の検討」『日本語教育』134, pp.80-89.
小野正樹、小林典子、長谷川守寿（2009）『コロケーションで増やす表現　ほんきの日本語 vol.1』くろしお出版
大平幸（2015）「専門用語が生活において意味のあることばになっていく過程―ジャンルの獲得という視点からの分析―」『日本語教育』160, 79-93.
清水勝昭（2020）「自動車整備の教科書に見られる和語語彙　－外国人留学生への指導の観点から－」『論叢』50, pp.49-70.
スリーエーネットワーク編（2016）『みんなの日本語　初級Ⅰ　第２版』スリーエーネットワーク
山田忠雄、倉持保男、上野善道、山田明雄、井島正博、笹原宏之編（2020）『新明解国語辞典第八版　アプリ版』三省堂　Version 1.0.2

〈参考ページ〉
外国人技能実習評価試験 - 一般社団法人日本自動車整備振興会連合会
https://www.jaspa.or.jp/mechanic/expat/ （2022 年 2 月 20 日最終閲覧）
国籍・地域別 職種別 技能実習計画認定件数（構成比）（１－６）- 外国人技能実習機構
https://www.otit.go.jp/files/user/toukei/211001-1-6.pdf（2022 年 2 月 23 日 最終閲覧）
日本語教育通信　授業のヒント「語彙マップを作ってみよう！」 - 国際交流基金
https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/teach/tsushin/hint/202003.html
令和 2 年 1 月 23 日 平成 31 年度 自動車分解整備業実態調査
https://www.jaspa.or.jp/Portals/0/resources/jaspahp/member/data/pdf/H31jittaityousa.pdf
（2022 年 2 月 23 日 最終閲覧）
特定技能評価試験 - 一般社団法人日本自動車整備振興会連合会
https://www.jaspa.or.jp/mechanic/specific-skill/ （2022 年 2 月 20 日最終閲覧）
（2022 年 2 月 27 日最終閲覧）
特定技能制度運用状況 – 出入国在留管理庁
https://www.mlit.go.jp/jidosha/content/001401686.pdf（2022 年 2 月 23 日 最終閲覧）r
〈使用コーパス〉
NINJAL-LWP for BCCWJ ver.1.40　国立国語研究所
https://nlb.ninjal.ac.jp/　（2022.02.26 最終閲覧）
〈謝辞〉
本研究は、一般社団法人尚友倶楽部筑波大学日本語教育研究者育成奨学金の助成を受けています。

The history of the study of somatic phraseological units with the component "hand" in the Japanese and Uzbek languages

История изучения соматических фразеологизмов с компонентом «рука» в японском и узбекском языке

Tashkent State University of Oriental Studies. Faculty of Japanese Studies. Specialty Japanese linguistics 1st year undergraduate
Makhmudova Munisa

Ташкентский Государственный Университет Востоковедения.
Факультет японоведения. Специальность японская лингвистика. Магистрант 1-курса
Махмудова Муниса
E-mail: mahmudovamunisa74@gmail.com

Annotation

Key words: somatic phraseological units, comparative analysis, languages of different systems, “qo'l /手” (arm) component.

The article considers the history of the study of somatic phraseological units with the component "qo'l/ 手"(arm) in japanese and uzbek languages. And also the prerequisites for the study of somatic phraseological units in comparative terms are presented. As we know, the study of phraseology is a necessary link in the acquisition of the language, as well as in improving the culture of speech. The history of the study of phraseological units has rather deep roots. In particular, the development of phraseology was significantly influenced by the French linguist, who was a student of the founder of modern linguistics F.D. Saussure - C. Bally. In 1905, in his work "Precis de stylistique", in which he first introduced the term "phraseology".The study of somatic phraseological units began recently. For the first time, F. Vakk wrote about somatic phraseology in his scientific work “On Somatic Phraseology in the Modern Estonian Literary Language”, Tallinn, 1964.

The human factor plays a huge role in word formation. A person refers to his own body (arm, leg, eyes, head, ears, belly, hair, etc.) using it to form language units as forms of reflection of information about the world and about himself. Thus, somatic phraseology is a dynamically developing part of phraseology.It is indisputable that a rather rich data has been prepared for the study of somatic phraseological units. Somatic phraseological units have been studied in different aspects: structural, semantic, functional, stylistic. However, since the concept of somatic phraseological units covers a huge amount of information, so far many aspects remain unexplored. In particular, the question of studying somatic phraseological units with the “hand” component in Japanese and Uzbek in comparative terms is still open.

Ключевые слова: соматические фразеологизмы, сопоставительный анализ, разносистемные языки, компонент «рука- тэ»

План:

1. Исторические предпосылки по изучению соматических фразеологизмов.
2. Научные исследования по изучению узбекских и японских соматических фразеологизмов.
3. Вывод.

В статье рассмотрена история изучения соматических фразеологизмов с компонентом «рука/тэ» в японском и узбекском языке. А также представлены предпосылки к изучению соматических фразеологизмов в сопоставительном плане.

Как известно, изучение фразеологии составляет необходимое звено в усвоении языка, а также в повышении культуры речи. История изучения фразеологизмов имеет довольно глубокие корни. В частности, на развитие фразеологии существенное влияние оказал французский лингвист, который был учеником основателя современной лингвистики Ф.Д.Соссюра – Ш. Балли. В 1905 году в своём труде «Precis de stylistique», в котором он впервые ввел термин «фразеология».

Изучение соматических фразеологизмов началось сравнительно недавно. Впервые о соматической фразеологии заговорил Ф.Вакк в своей научной работе «О соматической фразеологии в современном эстонском литературном языке», Таллин,1964 год.

Человеческий фактор играет огромную роль в словообразовании. Человек обращается к собственному телу (рука,нога,глаза, голова,уши,живот,волосы и т.д.) используя его для формирования языковых единиц, как форм отражения информации о мире и о себе самом. Так, соматическая фразеология – динамически развивающаяся часть фразеологии. Соматические фразеологические единицы представляют собой средства номинации явлений окружающего мира своим собственным образом. В конце 20-го –начале 21-го века началось глубокое изучение соматических фразеологизмов. А также ставились проблемы по переводу соматических фразеологизмов с одного языка на другой.

Сопоставительным изучением соматических фразеологизмов в разносистемных языках занимались такие исследователи как: П.Исида, Ю.Щюкукей, Ю.Суренжав, М.Фарзане. Осуществлен сопоставительный анализ японских соматических фразеологизмов с аналогичными оборотами в английском, китайском, монгольском и персидском языках. Так, в научной работе Ю.Щукукей «Сравнительное исследование фразеологизмов японского и китайского языка(на примере соматических фразеологизмов)» Токио,2002; рассматриваются такие аспекты, как: основные отличия систем японского и китайского языка,типичные ошибки при употреблении японских соматических фразеологизмов китайскими учащимися. Так же следует отметить научную работу Ю. Суренжава «Сравнительное исследование соматических фразеологизмов в японском и монгольском языке (на примере глаз)» Хиросима,2014.

Следующая научная работа Гуревич.Т.М. «Лингвокультурологический анализ концептосферы человек в японской языковой картине мира», Москва,2006. В данной работе дается реконструкция представлений японцев о человеке по соматизмам (лицо, глаза, руки). Гуревич.Т.М. отмечает, что духовные, душевные, моральные качества и силы человека согласно представлениям японцев не концентрируются в каком- то определенном месте, а рассредоточены по различным органам и частям тела. В японской национальной традиции нет противопоставления души и тела, но есть единство — 心身- синсин, букв, «сердце / душа- тело». Таким образом, отмечает Гуревич, человек являет собой то, каковыми являются его сердце, печень, живот и кишки, понимаемые не просто как анатомический

орган, а как вместилище, а порой и синоним тех или иных душевных и моральных качеств. Подобная «раздробленность» термина, обозначающего душу, является еще одним свидетельством того, что в миропонимании японцев телесная и духовная составляющие человека не разделяются.

Также, как пишет Гуревич, японцы начали анатомировать человека значительно позднее, нежели китайцы или даже европейцы. Именно поэтому анатомическими названиями органов являются слова китайского происхождения — канго. Однако задолго до появления медицинских терминов в японской культуре проявилось внимание к неким внутренним человеческим субстанциям: сердцу, печени, кишкам и пр., которые имели исконно японские названия, и только потом, после более близкого знакомства с анатомией человека, были точно соотнесены с тем или иным анатомическим органом и получили терминологические определения. Эти внутренние субстанции связывались в сознании японцев с определенными качествами людей.

Касательно узбекских соматических фразеологизмов, первые исследования по их изучению были проведены А.Исаевым «Узбек тилида соматик фразеологизмлар»,Ташкент,1976. Он утверждал,что наиболее продуктивными соматизмами являются: бош – 158 фразеологических единиц, кўз – 144, қўл – 92 и тд. Также узбекские соматические фразеологизмы рассмотрены в научной работе Ш.Усмановой «Узбек ва турк тилларида соматик фразеологизмлар» Ташкент,1999.

Исследование фразеологизмов узбекского языка тесно связано с именем Ш. Рахматуллаева , положившим начало структурно-семантическому и функциональному изучению этих единиц, обоснованию принципов разграничения устойчивых и свободных словосочетаний. Безусловно, велика роль Ш.Рахматуллаева в изучении и развитии фразеологизмов в узбекском языке. Им был создан толковый фразеологический словарь узбекского языка, который служит основным источником многих диссертационных работ. Линия исследований, намеченная ученым, была продолжена работами Абдимурода Э. Маматова, Б. Юлдашева, А. Рафиева, Х.Шамсиддинова, Абдугафур Э. Маматова, К. Хакимова, Ш.Т. Алмаматовой, М.К.Халиковой, Ш.Ганиевой, и др. .

Поворот в изучении фразеологических единиц наметился в конце XX в., когда в узбекском языкознании усилилось внимание к структурному описанию языка, в частности к компонентному, дистрибутивному, а также к сопоставительному анализу фразеологических единиц..

В этой связи следует назвать работы К. Хакимова, изучившего облигаторную валентность фразеологических единиц узбекского языка, а также Ш. Т. Алмаматовой, посвятившую свое исследование определению активных лексем в формировании фразеологических единиц .

Структурное изучение фразеологических единиц узбекского языка предпринято Ш.Ганиевой. Автор рассмотрел категориальные, интегральные, аксиологические и градуационные признаки фразеологических единиц с компонентами «голова», «глаза», «рука», «шея», «рот», «сердце», а также их модели, парадигмы локализации, квантизации, темпорализации и т.д.

Также в научной статье Г.Умаржонова «О проблеме исследования функионального содержания фразеологических единиц с компонентом «hand» - «кул» в современных немецком и узбекском языках», Фергана,2019; рассматриваются фразеологические единицы с компонентом “hand“ – “қўл” на примере узбекского и немецкого языков, также даётся информация об их функциональном содержании. По мнению Г. Умаржоновой, из всех

методов исследования наиболее результативным является функциональный метод. Компонент «рука» в обоих языках ассоциируется с трудом, милосердием или с ленью.

-viele Hände machen der Arbeit schnell ein zu Ende - (чаққон),

- die Hände in der Tasche haben - (сахий),

- mit milder Hand verteilen (хайр-эҳсон бериш),

- eine offene Hand haben (очиққўл, саховатли бўлмоқ),

- j-m unter die Arme greifen (доим ёрдам бермоқ, қўллаб-қувватламоқ),

В следующей научной статье А. Кучибоева «Соматические фразеологизмы с компонентом «рука» в узбекском и французском языке как средство выражения качеств человека»,Самарканд,2012;изучены соматические фразеологические единицы французского и узбекского языков в сравнительно-сопоставительном аспекте в плане эквивалентности, способов выражения имплицитной информации со значением национальной специфики,

межъязыковых универсалий и определения тождества и различий в их семантической структуре. В данной научной работе А. Кучибоев применил когнитивный подход исследования, а также подразделил данные соматические фразеологизмы на две категории:

1) соматические фразеологизмы, выражающие человеческие качества, его физические способности, а также внешний вид.

2) Соматические фразеологизмы, выражающие поведение человека: речь, побуждения, интеллект.

В данной работе, было использовано 159 соматических фразеологических единиц с компонентом «рука» («Французско-русский фразеологический словарь,1963»). В процессе анализа было выявлено, что при переводе данных соматических фразеологизмов с французского на узбекский язык, в узбекском варианте слово «рука/ main» почти не используется:

de la main gauche – ноқонуний никоҳ;

sous main – яширинча, ҳеч кимга билдирмасдан;

faire des pieds et des mains – жон-жаҳди билан уринмоқ;

lever la main – қасам ичмоқ, қасамёд қилмоқ;

manqué dans la main – қулоқ солмаслик, бўйсунмаслик;

mettre la main au bon endrot – нақ нишонга урмоқ;

mettre la main à la pauche – сарф-харажат қилмоқ;

Одна из новейших научных работ по изучению соматических фразеологизмов – Турапова Н.А. «Сопоставительный анализ соматических фразеологизмов японского и узбекского языка(лингвокультурологический аспект)» Ташкент,2020. В данной работе выявлены семантические гнезда соматизмов группы атама/бош/голова, включающие по 16 лексем японского и узбекского языка. Также доказаны ключевые ассоциации соматических фразеологизмов с компонентом «мэ»(глаз). В японском языке- глаз- взгляд, вместилище жизни; а в узбекском языке «куз» - взгляд, человек.

Вывод

Неоспоримо то, что подготовлена довольно богатая почва для изучения соматических фразеологизмов. Комплексное изучение соматических фразеологизмов началось в конце 20 века. Соматические фразеологические единицы изучены в разных аспектах: структурном, семантическом, функциональном, стилистическом. Однако, так, как понятие соматические фразеологизмы- охватывает огромный объём информации, до настоящего времени многие аспекты остаются неизученными. В частности, вопрос об изучении соматических

фразеологизмов именно с компонентом «рука» в японском и узбекском языке в сопоставительном плане до сих пор остается открытым.

Литература

1) Гуревич.Т.М. «Лингвокультурологический анализ концептосферы человек в японской языковой картине мира», Москва,2006.

2) Ю.Щукукей «Сравнительное исследование фразеологизмов японского и китайского языка(на примере соматических фразеологизмов)» Токио,2002;

3) А.Исаев «Узбек тилида соматик фразеологизмлар»,Ташкент,1976.

4) Г.Умаржонова «О проблеме исследования функционального содержания фразеологических единиц с компонентом «hand» - «кул» в современных немецком и узбекском языках», Фергана,2019;

5) А. Кучибоева «Соматические фразеологизмы с компонентом «рука» в узбекском и французском языке как средство выражения качеств человека»,Самарканд,2012;

6) Турапова Н.А. «Сопоставительный анализ соматических фразеологизмов японского и узбекского языка(лингвокультурологический аспект)» Ташкент,2020.

農業政策と農家のさまざまな選択
—岩手県紫波郡紫波町片寄漆立の場合—

Diverse Choices of Farmers toward Agricultural Policies: A Case Study of the Katayose Urushitachi District in Shiwa Town, Iwate.

真柄　侑　Magara Yuki
修士　東北学院大学　文学研究科アジア文化史専攻　博士後期課程　日本

Abstract：

This paper focuses on Japan's agricultural policy in the past and the reactions from farmers, and examines the development of agriculture at present from the viewpoint of folklore.

In Japan, in the process of rapid economic growth since the 1950s, the Agricultural Basic Act (Nogyō kihon hō) was enacted in 1961. The law encouraged mechanization and large-scale farming; as a result, the "Single Management" of rice farming spread and established.

However, in the Katayose Urushitachi district in Shiwa town, Iwate, which is the target area of my research, a method called "Combined Management" was presented by the local Agricultural Cooperative (Nōgyō kyōdō kumiai, commonly known as Nōkyō). The method has a feature that each farmer grows several products such as mushroom, fruits, vegetable, and livestock, which is called the "Shiwa-type Combined Management." Traditionally, Ursitachi had lived in combining several means of livelihood throughout the year and flexibly switched them according to circumstances. Such a multiple lifestyle made it possible for them to incorporate the "Shiwa-type Combined Management."

On the other hand, the "Shiwa-type Combined Management" was actually accepted as "one option" for each farmer. My research clarified that, using the manpower, human relationships for livelihood, and application of knowledge as an important criterion, they choose a suitable style. Therefore, the "Shiwa-type Combined Management" established with individual diversity.

From the above, I conclude that the viewpoint to comprehensively analyze a large framework of policy and a development of individual livelihood is very important and useful to grasp the activities of people living in the present.

キーワード　　生業　仕事　農業　農家　近代化　農業協同組合　政策　単一経営　複合経営

はじめに

（1）問題の所在

今、日本に暮らすわれわれは、いわゆる「近代資本主義」という世界に生きている。仕事を効率良くかつ勤勉に行い、それによって収入を増やし、貯金に余裕をもたせることができる人は、将来も安泰であるということを誰に教わることもなく「知っている」。

1920 年、マックス・ヴェーバーは『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』の中で次のように述べていた。

今日の資本主義的経済組織は既成の巨大な秩序界（コスモス）であって、個々人は生まれながらにしてその中に入りこむのだし、個々人（少なくともばらばらな個人としての）にとっては事実上、その中で生きねばならぬ変革しがたい鉄の檻として与えられているものなのだ。（中略）製造業者は長時間この規範に反して行動すれば、必ず経済的淘汰を受けねばならないし、労働者もこの規範に適応できず、あるいは適応しようとしない場合には、必ず失業者として街頭に投げ出されるだろう。〔ヴェーバー、1989（1920）、51〕

ヴェーバーが説明するこの仕組みの中で作られる政策、市場、あるいは労働のあり方が、今の「当たり前」の一部を作っているといえる。

日本でこの「当たり前」が特に浸透したのは、1950 年代以降であった。1955～73 年の間で日本経済は急激な成長をみせ、第二次世界大戦を経て食糧増産を目指していた農業では、1955 年に米自給率 100%を達成した。その後、1961 年に「農業基本法（以下、旧農政法と表記）」が制定されると、大量生産を実現させる「単一経営」に向かって、農業構造改善事業に多額の補助金が支出されたのである。

現在日本で農業を仕事にする多くの人たちにとって、「当たり前」となった働き方―例えば、農業機械で効率的に植付けや収穫を行うこと、役場に勤めながら農業を行うことなど―の背景には、旧農政法とそれに伴う農業の変化が大きく関わっているのであり、農家自身の口からも、「昭和 30 年代（1955～1965）」という言葉が、農業が大きく変化した時代のキーワードとして語られる。

一方で、このように日本の農業が「単一経営」に向かっていた時代にもかかわらず、とある地域では一見真逆の経営方法である「複合経営」が実践され、現在においてもその定着がみられている。本稿の目的は、この現象の背景を民俗学の視点から考察することである。そしてこれを明らかにする方法として、戦後農業の動きに対する地域の農業協同組合（以下、農協と表記）の対応およびその根拠、そしてそうした農協の働きかけに対する農家の向き合い方について、個別事例をもとに捉えることを試みる。

さて、日本の民俗学では特に「生業」という分野において、人の働く行為や生計活動に関わる研究が蓄積されてきた。1980 年代までは「特定の生業をつぶさに見る視点」〔石垣、2010〕によって、稲作、狩猟、漁業、織物、手工業など、ひとつひとつの生業を分類し、観察し、その技術を詳細に記録するという研究が主流であったが、1990 年代になると、そのように生業を分断するのではなく、一軒の家、一人の人間を基準として「いかに生計活動が行われるか」〔安室、1992、2007、2012〕という視点から、人がどのように生業を組み合わせ、生計を維持しているのか、というような研究が行われてきた。

生業における先行研究は、多くが当時の「いま」を対象としたものであり、過去の日本の政策や、それによる生業の変化から、現在の生業の姿を捉えようとする研究は非常に少ない。しかし近年では、民俗学の歴史的視点は「私たちを取り巻く日常がいかにして当たり前の状態になったのか」、「『いま』の成り立ちを明らかにすること」〔門田、

2021、2〕にあるという指摘もされており、民俗学において地域の過去の経験を相対化させることの重要性が注目されはじめている。筆者はこのような門田の指摘を踏まえつつ、事例を通して農業政策と農家の関係性の一端を明らかにし、現在農業を営む人びとが、どのような過去の経験を通していまの働き方を定着させたのか、ということを捉えたいと考えている。

（2）調査地について

今回事例とするのは、岩手県紫波町片寄漆立（以下、漆立と表記）という地域である。戦後、日本の農業の中で中心的な位置を占めた「単一経営」という方法に対し、この地域では「複合経営」に取り組んでおり、かつ、農家はそれを全面的に受容するのではなくひとつの「選択肢」として受容している点で非常に興味深い。

漆立が属する紫波町は、東北地方である岩手県のほぼ中央に位置する町である。町の中央を通るように北上川が流れ、交通および物流の中心であった側面を持つ。漆立はその北上川の西側に位置する集落である。景観は、東側に奥羽山脈を背負い、西側に田圃の平地が広がっており、いわゆる「中山間地域」とされる農村で、戸数は 2020 年の時点で 42 戸となっている。

またこの集落は、県内有数の米産地帯のひとつであると同時に、全国的にも有名な「南部杜氏」を輩出する中心地として、古くから酒造出稼ぎが盛んに行われてきた。これについては後ほど詳述したい。

地図 1　岩手県の位置

地図 2　紫波町の位置

1. 漆立と複合経営―「志和型複合経営」について

漆立が実践していた複合経営は「志和型複合経営」と呼ばれており、米、畜産、野菜、果樹、茸類という複数の生産物を組み合わせて経営を行う方法である[14]。中でも漆立で多く採用されたのは、「米＋茸類（シイタケ）、畜産、野菜（キュウリ）」という組み合わせであった。各生産物が採用されたのには、それぞれ理由がある。

[14]「志和型複合経営」は、漆立 42 戸を含む周辺約 800 戸の農家で実践された。この 800 戸は「志和地区」とよばれ、農協の管轄の範囲と重なっている。

・シイタケ栽培

シイタケ栽培は、米の生産技術の変化を受けて始められた。どういうことかというと、それまで米は、収穫すると俵という藁を編んだ袋状のものに詰められて貯蔵や出荷が行われており、漆立では女性たちが冬場の仕事としてこれを編んでいたが、1950 年代半ばから 1960 年代半ばにかけて農業機械が導入されると、米を入れるのは 60 キログラム入りの麻袋に変ったのである。この変化は、女性たちの冬場の仕事がなくなることを意味した。そこで、もともと冬場の小遣い稼ぎとして栽培していたシイタケが、栽培方法もあまり複雑でないことから、代わりに現金収入になるとして、農業の事情に精通していたある男性が「シイタケを（産業として）やってみないか」と周辺の女性たちに持ちかけたのだという。

・畜産

畜産は、紫波町のみならず、岩手県全体で積極的に取り組まれた産業でもある。1929 年から始まった経済恐慌において、有畜農家の受けた打撃が比較的少なかったことを受けた県は、稲作生産のみに頼る経営方式から、家畜を入れた経営、とりわけ生産性および経済性の高い酪農を入れる動きが高まった。

紫波町では、盛岡市・安代町・岩手町とともにフジヤや岩中酪・雪印といったメーカーと契約した振興策が立てられたほか、繁殖牛の部門では県内の主要な産地としての地位を確立し、「紫波牛」というブランドの定着とともに、経営の安定と生産費の引下げを目指していくこととなる〔紫波町史編纂委員会、1984、569～570〕。漆立では、1950 年代半ばから集落の約 8 割が複合経営として牛や豚を飼い、肥育や子取りとして生産を行ない、その堆肥を農業に活用するなどしていた。中でも乳牛と肥育牛が盛んに生産されていたという。現在は 2 軒が畜産を続けており、うち 1 軒が肥育牛、もう 1 軒が繁殖牛を育てている。

・キュウリ栽培

キュウリを選択する背景には、米の生産調整による水田利用の変化と、畜産業の増加が大きく関係している。1969 年、日本では米の過剰生産を制限する、生産調整が始まった。米以外の作物を転作する面積が年々増加し、空けざるを得なくなった土地の活用と、その分減少した作付収入の問題が浮上した。その際に解決策として農協が注目したのが、野菜の生産である。米よりも多くの堆肥を必要とする野菜は、同時期に急増した畜産業による牛や豚の糞も活用することができたため、これによって収入源の補填と資源の循環を図ることができたのである。

一方数ある野菜の品目の中で、なぜキュウリが選ばれたのか。理由のひとつとして、現金収入への期待が大きかったことが聞かれた。漆立のある男性いわく、はじめ農協からは、ネギやニンジンが提案されたそうである。しかしこれらは一度引き抜けばそれきりである。ところがキュウリであれば、シーズン中は何度も収穫ができることから、より多くの収入が見込まれたのである。漆立のキュウリ農家は現在 42 軒中 7 軒であるが、一時期は集落の約半分がキュウリ農家であった。どの農家も少しでも多く出荷しようと選果を頑張り、家々からは夜中の十二時をまわっても灯りが煌々ともれていたという。

このように水田の基盤改善や技術革新によって、まず労働力に余剰が生まれた。そしてこの労働力農業内に再投下するべく導入された新たな産業として、シイタケ、畜産、キュウリが選択された。米の生産を取り巻く変化の影響を受けていることや、冬場にできる仕事を「現金収入」と「土地を循環的に活用する」というところから取り入れている点は特に興味深い。

2. 漆立に暮らす人と仕事

次には、漆立に暮らす人たちはこれまでどのように働いてきたのか、また現在どうのように働いているのかということについて、より具体的に個別事例から見ていきたい。A 家 T 氏（男性、1935 年生れ）からは、現在は息子に生計を立てる代を譲っているものの、自身の仕事のさまざまな経歴を聞くことができた。また、B 家 Y 氏（男性、1944 年生れ）は現役で農業を行っている。

（2）個別事例①―A 家 T 氏の仕事

T 氏は、1935 年に大規模農家である A 家の長男として生まれた。農業学校を卒業後、戸主となった T 氏は北海道の小樽へ 1 年間の酒屋働きに出た。もともと出稼ぎをすることは考えていなかった T 氏であるが、昔気質の祖母が「長男は、長男だというそれだけで甘やかされる。それではいけない。よそ様のご飯を食べなければ一人前ではないんだ」と彼に言い、そこで初めて一人立ちを経験することになった。

小樽から戻った 2、3 年後、T 氏は一緒に暮らしていた叔父を分家に出すこととしたが、その際に田圃の 4 割と畑および林の一部を譲ったため、収入を補うべく米の生産と並行して、乳牛を取り入れた複合経営を始める。乳牛は、1950 年代半ばから約 20 年間続けられた。乳牛の飼育には、T 氏の他に妻と T 氏の母親が携わった。早朝の仕事と夜の仕事に分担しており、例えば T 氏の母親が早朝の担当となって乳を温めるための湯を沸かし、その代わり、夫婦が遅くまで仕事に残り、T 氏の母親は夜早くに休むというふうに作業を分担していた。

牛の乳は、一日でも絞らない日を作ってしまうとすぐに病気になってしまうため、仕事は大変なものであったという。朝に乳搾りをして食事を済ませ、すぐに田仕事へ向かい、帰宅後夕方に二度目の乳搾りを行ない、ようやく夕食にありつくことができた。集落で飲み会のあった日などは、「あと一杯やりてえなあ」というところで泣く泣くその場を後にし、気合いを入れるためにハチマキをして乳を搾ったと T 氏は語る。それでも、共同で牧草刈りを行った後に「ご苦労さんだった。一杯やるべ」と声を掛け合い、皆と飲み食いすることは、乳牛の飼育を仕事とする T 氏の楽しみになっていた。

1970 年代半ば頃、T 氏の母親が他界した。この出来事により、夫婦二人で乳牛を続けることはできなくなったため、A 家は乳牛からより仕事の負担が軽い和牛へ切り替えることにした。和牛の飼育は、2010 年頃まで続け、T 氏は農協の和牛部門の部会長を 5 年間務めるなどの業績を残した。「自分で現物を見なければ」と研修旅行を立ち上げて、自らの足で淡路島まで赴き、肉質の良い牛を買い付けたこともあったという。

和牛へ切り替えた頃、T 氏は 50 代を迎えていたが、新たに 2 つの新しい仕事を始めた。ひとつはコンクリートの基礎工事で、知り合いから人手が足りないと声が掛かったとき

に働きに行くこと、もうひとつは紫波町内の酒蔵にて、小樽以来本格的に酒屋働きに行くことである。

特に酒屋働きに改めて就いた経緯について、T 氏は酒造りの面白さや達成感を感じたことだけでなく、漆立で暮らす中でのある気づきをそのきっかけとしていた。いわく集落内の特に男性たちは、当時現役で全国の酒屋働きに出ている人が多く、集落の春の総会で持ち切りになるのはいつも各々の酒屋働きの話であった。つまり、酒屋働きのことをよく知らなければ、話の輪に入ることが難しかったのである。話題に入っていけなければ、飲み会の酒も美味しく飲むことができなかった。このようなコミュニケーションの問題を経験した T 氏は、「酒造りっていうのはどういう流れで、みんなはどういう冬の過ごし方をしていたのか勉強したい」と思うようになり、酒屋働きの再スタートを切ったのだという。

（3）個別事例②―B 家 Y 氏の仕事

B 家は、戸主の Y 氏（1944 年生れ）、妻の N さん（1946 年生れ）、息子の A 氏（1970 生れ）の 3 人家族で農業を行っている。米の生産と並行し、3～4 四反歩の畑でキュウリ栽培をしており、漆立ではもっともキュウリの生産量が多い家である。Y 氏が高校を卒業する頃に「志和型複合経営」が導入され始め、農協の指導会などでやり方を教わりながらキュウリ栽培を行うようになった。B 家の生業は、以降現在に至るまで「米＋キュウリ」でほぼ一貫している。Y 氏は徐々に、自分自身で実験的に土壌の改善や苗木の伸ばし方など色々な方法を試行錯誤しながら栽培に取り組むようになり、今ではメーカーの職員もそのやり方に注目するようになったという。

B 家では、3 種類の異なる苗木を購入し、露地とハウスでそれぞれ異なる品種のキュウリを栽培している。収穫後は夫婦で選果を行い、朝 10 時の出荷時間に間に合うように箱詰めをし、JA いわて中央へ出荷している。選果の様子を筆者が見学させて頂いたとき、Y 氏の選果の基準は、農協が定めたそれよりも格段に厳しいものであることに気づいた。一見すると基準を十分にクリアしており、出荷用として問題なく箱に詰められそうなキュウリも、Y 氏は次々に規格外として外してしまう。この厳しい基準によって、捨てる（規格外と判断する）ことになるキュウリは、ほかの家よりも俄然多くなるため、周囲からはよく「もったいない」と言われるのだという。しかし、「（基準は）結局自己満足なんだよな」と話す Y 氏は、長年キュウリの色味やカスレ具合などをみていくうちに、自身の中で基準がどんどん厳しくなっていったという。

生産物に対し厳しい目を向けつつ、Y 氏はキュウリの生産に携わる人間関係を非常に大切にしている。B 家のキュウリ畑は、県内の農協の中でも試験場的な役割を担うようになり、苗市場の重役やメーカーの職員、キュウリ部会の役員などキュウリの生産に携わる東北のさまざまな人がこの家の畑を視察に来ている。それだけではなく、「次はこの方法でやってみてほしい」とメーカーの職員から実験の依頼もあるという。Y 氏はこうして訪れた人たちと必ず飲み会を設ける。時に自宅で、時に日詰の店で Y 氏は酒を振舞った。「金もかかるが、そうやってメーカーの人なんかも覚えてきた」と話す。集落を超えた仕事仲間と積極的にコミュニケーションをとりつつ、「試験的に栽培したものに高い値段がつくと嬉しい」と Y 氏は語る。

4.「志和型複合経営」はどのように立ち上がり、定着したのか？

以上、「志和型複合経営」で各産業がどのように導入されたか、そして漆立に暮らす人たちの仕事の中にはどのように反映されているのかを個別事例をもとに見てきた。

ここで最初の疑問に立ち返りたい。日本の農業が 1950 年代以降「単一経営」によって効率的に米を生産することを目指していた大きな流れの中、なぜ漆立や周辺地域では「志和型複合経営」というさまざまな産業を組み合わせる方法をとったのだろうか。これについては、旧農政法によって目指されていた農業の近代化と紫波町の農協が捉えていた地域の現状の対比の中と、漆立の過去の生業のあり方から見えてくるものがいくつかあったので次に論じていきたい。

(1) 日本の「農業の近代化」の中で

先に述べた通り、日本にとって「昭和 30 年代」は経済が急成長を遂げた時代であった。しかし、1950 年に急速に戦後復興しはじめると、工業化によって飛躍的な成長をみせた一方、工業と農業の間で所得格差が拡大するという問題が起こった。これを解決する施策として掲げられたのが、旧農政法である。農業を「近代化・合理化」することで、他の産業従事者との格差を解消しようとした。日本ではまさに農家の「暮らしの向上」を求めて「農業の近代化」が進められて来たのである。

紫波町でも他の地域と同様にダムの建設による水不足の解消や、農業機械化の導入、土地の基盤整備が次々と行われたが、農協は次のような判断を下した。以下に挙げるのは、1961 年に出された「志和地区農業近代化計画」の中の複合経営の展開方向・過程について述べられたものである[15]。

稲・畜産・青果の複合的な農業地帯にする．なぜなら水田面積はこれ以上拡大できな

い．それでも機械化が進めば労力が余ってしまう．そこで他の部門をまず入れる．そ

の上で機械化すれば機械の利用も牧草・果樹などに多面的に利用できる．

「農業の近代化」によって生産所得は上がる一方、高価な農業機械や生活費の上昇により、稲作生産の向上をはかるだけでは所得が追い付かないという問題が起こった。また、農協は当初、稲作生産の向上によって出稼ぎをしなくてよい生活を目標としていたが、思惑とは裏腹に、経済的理由から出稼ぎに赴く人は減らなかった〔新保、1983〕。そこで、人びとが出稼ぎに赴くことなく「農業（畜産・野菜・茸類）」で経営していく方法が「志和型複合経営」の提案であり、漆立の人の言葉を借りれば、「要は百姓だけで食べていきましょうっつうことなんだな」ということになる。この言葉に象徴されるように、志和農協はある意味「農業」という広い枠組みの経営単一を目指したといえる。

以上のように、紫波町の農協は日本の「農業の近代化」に対し、水田面積の拡大の限界と酒造出稼ぎの問題から「志和型複合経営」を提示したのである。

---

[15] なお元の資料は、役場等を当ったものの現在散逸していたため、唯一参照することのできた、浜田年騏「複合経営展開の実態と論理―岩手県志和地区の実践より―」（1976 年）から一部を抜粋した。

（2）漆立の生業の歴史が基盤となる「選択肢」としての「志和型複合経営」

このような複数の仕事を組み合わせるという働き方は、実は従来漆立が行ってきた働き方とも合致するところがある。

漆立は近世期より農業と酒造出稼ぎを組み合わせて生計を立てる方法を中心的に行ってきた。酒造出稼ぎは、稲作がひと段落する 10 月末に全国各地の酒蔵へ赴き、4 月までの約半年間、出稼ぎというかたちで仕事をする。酒造出稼ぎがおこる大きな要因に、この時も稲作技術の改善が大きな影響を及ぼしていることは非常に興味深い。『紫波町史』によればコキハシからセンバコキという道具の改善によって、脱穀作業の時間が短縮され、冬場の労働力を酒造出稼ぎに投下するようになったという。技術の発展によって、余剰労働力を別の「稼げる」生業へ転嫁する動きは、「志和型複合経営」に限らず、それ以前からみられていたことになる。「志和型複合経営」は、このように時代と状況に応じて柔軟にそれを切り替えるという、漆立や周辺地域の独自の生計の立て方を活かしたかたちで提示され、定着させることができたのではないかと考えられる。

一方、漆立の人びとは「志和型複合経営」を必ずしも全面的な受容はしなかった。A 家 T 氏の具体例でも出て来たが、漆立にとって酒造出稼ぎは単純に「稼ぎ」の機能だけではない。T 氏が直面したように、集落に戻った後で自身の蔵の酒を持ち寄り評価し合うことが人びとにとって重要なコミュニケーションツールとなっているだけでなく、酒蔵での最高役職にあたる「杜氏」に対する社会的評価は非常に強く、集落に帰った後も一目置かれる存在となった。酒造出稼ぎは経済的にも社会的にも漆立にとって重要な位置を占める生業であったことが、農協の思惑とは異なる結果を生み出した理由のひとつであろうと考えられる。

漆立の農家たちは、個々の経済状況だけではなく、過去の生業を踏まえた個人の人間関係や社会的評価、B 家 Y 氏のように技術に対する経験などを基準に「志和型複合経営」を「一選択肢」に位置づけたのではないだろうか。

おわりに

本稿は、農業の「単一経営」化が劇的に進んだ時代において、あえて「複合経営」を導入し、現在に至るまで定着させた地域の背景を明らかにすることを目的とし、農政とそれに向き合う人びとについての考察を試みた。

漆立では、従来、一年を通して常に生業を組み合わせ、かつ、状況に応じて柔軟にそれを切り替えるという独自の生業を行っていた。この生計の立て方を活かし、「志和型複合経営」を取り入れることができたということが考えられる。

一方で「志和型複合経営」は、実際には、農家それぞれの「一選択肢」としてこれらの生業が受け入れられていた。各家の労働力の問題はもちろん、その生業をめぐる人間関係の構築や、知識の応用などが重要な判断基準となり、個人による多様性をもって定着していたということが明らかとなった。

今の「当たり前」の働き方には政策があり、経済の大きな動向がある。しかしその一方で、集落が積み重ねてきた「当たり前」や農家個々人の「当たり前」もまた存在する。このような総体的な視点から、これからも「人はいかに働き生きているのか」＝生業を捉えていきたい。

《引用参考文献》

浜田年騏　1976　「複合経営展開の実態と論理―岩手県志和地区の実践より―」『島根大学農学部研究報告』10

岩本通弥・門田岳久・及川祥平・田村和彦・川松あかり　2021　『民俗学の思考法―〈いま・ここ〉の日常と文化を捉える』慶応義塾大学出版会

石垣悟　2010　「暮らし（あるいは生き方）を捉える糸口」『日本民俗学』262

マックス・ヴェーバー著、大塚久雄訳　1989　『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波書店

紫波町史編纂委員会　1972　『紫波町史　第一巻』紫波町

1984　『紫波町史　第二巻』紫波町

綱島不二雄　1995　「複合経営の展開条件に関する研究」『山形大学紀要　農学』12 巻 2 号

新保満　1983　『村が栄える条件―岩手県志和の変貌』日本放送出版協会

安室知　1992　「存在感なき生業研究のこれから―方法としての複合生業論―」『日本民俗学』190

2007　『複合生業論』国立歴史民俗博物館

《地図資料》

地図１　岩手県の位置

nihonchizu-hakuchizu-500x500.png（500×500）（japan-map.com）（2022．2．27 最終閲覧）

地図２　紫波町の位置

https://kotobank.jp/image/dictionary/nipponica/media/81306024006248.jpg（2022．2．27 最終閲覧）

ХУДОЖЕСТВЕННЫЙ ТЕКСТ КАК ОБЪЕКТ ИССЛЕДОВАНИЯ В СОВРЕМЕННОЙ ФИЛОЛОГИЧЕСКОЙ НАУКЕ

Ахбаева Гузаль Базарбаевна

кафедра японоведения Ташкентского государственного
университета востоковедения Ташкент, Узбекистан
+998998396649
axbayevaguzal@gmail.com

Аннотация: Статья посвящена изучению современных подходов к анализу языка художественной литературы, представлено разностороннее теоретическое обоснование исследуемой проблемы в трудах зарубежных ученых.

Ключевые слова: язык художественной литературы, лингвистика текста, филологический анализ текста, когнитивный подход, психолингвистический подход, прагматический подход, деривационное направление, коммуникативное направление.

Annotatsita: Maqolada badiiy adabiyot tilini tahlil qilishning zamonaviy yondashuvlarini o‘rganishga bag‘ishlangan bo‘lib, chet el olimlarining asarlarida o‘rganilayotgan muammoning ko‘p qirrali nazariy asoslanishi keltirilgan.

Kalit so'zlar: badiiy adabiyot tili, matn lingvistikasi, filologiya, matn tahlili, kognitiv yondashuv, psixolingvistik yondashuv, pragmatik yondashuv, derivativ yo'nalish, kommunikativ yo'nalish.

Annotation: The article is devoted to the study of modern approaches to the analysis of the language of fiction, a versatile theoretical substantiation of the problem under study in the works of foreign scientists is presented.

Key words: language of fiction, text linguistics, philological, text analysis, cognitive approach, psycholinguistic approach, pragmatic approach, derivational direction, communicative direction.

Прежде чем выявить направления в изучении художественного текста, считаем необходимым пояснить еще раз что такое художественный текст.

Текст, по определению М.М. Бахтина, — это «первичная данность» всех гуманитарных дисциплин и «вообще всего гуманитарно-филологического мышления... Текст является той непосредственной действительностью мысли и переживания, из которой только и могут исходить эти дисциплины и это мышление. Где нет текста, там нет и объекта для исследования и мышления»[16].

Художественный текст-отдельное в высшей степени индивидуальное произведение художественной речи, написанное на данном языке, а также целостная единица в системе подобных текстов[17].

В изучении художественного текста Л.Г. Бабенко выделяет следующие подходы:

1. Лингвоцентрический.
2. Текстоцентрический.
3. Антропоцентрический

– психолингвистическое направление;

– прагматическое направление;

[16] Бахтин М.М. Язык в художественной литературе // Собр. соч.: В 7 т. — М., 1997. – Т. 5. — С.306.
[17] Нелюбин Л.Л., Толковый словарь.-3 издание.-М:Флинта:Наука.2003.

– деривационное направление;

– коммуникативное направление;

– речеведческое (жанрово-стилевое) направление

4. Когнитивный[18].

5. Лингвопоэтический[19].

Лингвоцентрический подход (аспект соотнесенности «язык–текст») основан на изучении функционирования языковых единиц и категорий в условиях художественного текста. Многие ученые считают его наиболее традиционным в анализе текста. Этот подход тесно связан со стилистикой языковых единиц (Григорьев, 1979; Новиков, 1988; Долинин, 1985). Предметом изучения в рамках данного подхода являются как лексические, так и фонетические, грамматические, стилистические единицы и категории. Достоинство этого подхода заключается в том, что он выявляет функциональные свойства тех или иных единиц и описывает особенности идиостиля определенного писателя. Однако данный подход не позволяет в полной мере раскрыть текстовые функции изучаемых единиц, их роль в семантике и структуре текста[20].

Текстоцентрический подход (текст как автономное структурносмысловое целое вне соотнесенности с участниками литературной коммуникации) рассматривает текст как целостный объект исследования. Текст рассматривается как уникальное речевое произведение, наделенное набором собственных текстовых категорий и свойств. (Золотова, 1982, 1995, 1998; К. Кожевникова, 1979; Ковтунова, 1986).

Антропоцентрический подход (аспект соотнесенности «автор–текст–читатель») основан на интерпретации текста в аспекте его порождения (авторская позиция) и восприятия (позиция читателя), а также в аспекте его воздействия на читателя.

Внутри антропоцентрического подхода выделяются следующие направления изучения текста:

Психолингвистическое направление основано на том, что текст – это двуединый процесс порождения и восприятия. Данное представление лежит в основе коммуникативной деятельности: «текст – это одновременно и результат речевой деятельности, и его продукт, и сам процесс создания данного текста, вследствие чего текст по своей природе процессуален и динамичен». (Л.С. Выготский, Т.М. Дридзе, А.А. Леонтьев, И.А. Зимняя, Н.И. Жинкин, А.Р. Лурия, Л.В. Сахарный, А.М. Шахнарович);

Если при психолингвистическом подходе текст предстает как динамический процесс взаимодействия автора и реципиента, то в прагматическом направлении текст – это сложный речевой акт, осуществляемый с определенными интенциями и целями, и в котором применяется целый комплекс приемов воздействия на адресата. Особенности анализа литературных текстов в рамках данного направления изучены глубоко и всесторонне (Кузнецов, 1990; Выготский, 1984; Голод, Шахнарович, 1982). Таким образом, прагматическое направление исследования художественного текста позволяет «по новому взглянуть на природу текста, открыв то обстоятельство, что даже письменный

---

[18] Бабенко Л. Г., Васильев И. Е., Казарин Ю. В. Лингвистический анализ художественного текста: Учеб. для студентов вузов, обучающихся по спец. «Филология». Екатеринбург: Издательство Уральского университета, 2000. – С. 16–25.

[19] Грязнова, А. Т. Лингвопоэтический анализ художественного текста: подходы и направления: монография / А. Т. Грязнова. – Москва: МПГУ,2018. – 324 с.

[20] Темкина В.Л., Современные подходы к анализу языка художественной литературы *Вестник Огу №11 (160)/ноябрь`2013*

литературный текст является действием, связывающим участников литературноэстетической коммуникации – автора и читателя»[21].

Деривационное направление стало активно применяться в лингвистике в начале 1980х гг. Е.С. Кубрякова и Л.Н. Мурзин считают, что процессы мышления лежат в основе текстообразования; создание текста начинается с момента создания мысли, так как мысль составляет глубинный уровень текста, его содержательную основу. Этот анализ основан на «объективных, независимых от воли и сознания говорящего универсальных правилах и законах построения текста»[22].

Когнитивный (аспект соотнесенности «автор – текст – внетекстовая деятельность»). Суть данного направления заключается в понимании языка как основного средства выражения знаний о мире.

Далее этот список был дополнен лингвокультурологическим и интертекстуальным направлениями, которые в комплексе с лингвокогнитивным подходом весьма эффективны при исследовании языка художественного текста[23].

Лингвопоэтический (аспект соотнесенности «язык и художественное произведение»). По мнению Виноградова В.В., суть данного направления изучить эстетическую функцию языковых единиц в произведении словесно-художественного творчества. Таким образом, в результате сближения двух подходов на стыке лингвистической и литературоведческой стилистик возник новый раздел филологии – лингвопоэтика. Термин «лингвистическая поэтика» появляется в 1960-х годах.

Согласно определению лингвопоэтики, предложенному Липгартом А.А., «лингвопоэтика — это раздел филологии, в рамках которого стилистически маркированные единицы, использованные в художественном тексте, рассматриваются в связи с вопросом об их функциях и сравнительной значимости для передачи определенного идейно-художественного содержания и создания эстетического эффекта»[24].

Лингвопоэтика отличается от литературоведения тем, что последнее сосредотачивается преимущественно на содержательных и композиционных особенностях художественных произведений и в значительно меньшей мере рассматривает собственно языковые характеристики текста. Лингвопоэтика занимается рассмотрением всех обозначенных сторон, обращая внимание, в первую очередь, на языковые характеристики текстов, но не замыкаясь исключительно на них.

Отличие лингвопоэтики от стилистики определяется тем, что стилистическое исследование, в основном, направлено на создание перечня стилистических приемов, которые могут потенциально использоваться в любых текстах, не только в произведениях словесно-художественного творчества, и на последующее выявление данных характеристик в том или ином тексте.

Лингвопоэтика, безусловно, учитывает данные стилистического анализа, однако в рамках лингвопоэтического исследования происходит последующая интерпретация этих

---

[21] Темкина В.Л., Современные подходы к анализу языка художественной литературы *Вестник Огу №11 (160)/ноябрь`2013.*

[22] Темкина В.Л., Современные подходы к анализу языка художественной литературы Вестник Огу №11 (160)/ноябрь`2013.

[23] Грязнова, А. Т**.** Лингвопоэтический анализ художественного текста: подходы и направления: монография / А. Т. Грязнова. – Москва: МПГУ,2018. – 324 с.

[24] Липграт А.А. Лингвопоэтическое исследование художественного текста: теория и прагматика (на материале английской литературы 16_20 веков). Дисс. докт. филол. наук. М., 1996. С. 23.

данных в связи с содержательными особенностями текста».[25] Цель лингвопоэтического анализа заключается в том, чтобы определить, как та или иная единица языка вовлекается автором в процесс словеснохудожественного творчества, каким образом то или иное сочетание слов приводит к созданию данного эстетического эффекта[26].

Таким образом, подводя итог вышесказанному, следует отметить, что в изучении художественного текста в настоящее время существует множество подходов и направлений, которые дополняют друг друга и позволяют более полно выявить сущность текста в лингвистическом аспекте.

К традиционным подходам можно отнести:

лингвоцентрический;

текстоцентрический;

антропоцентрический;

когнитивный.

К относительно новым:

лингвокультурологический;

интертекстуальный;

лингвопоэтический.

В данной работе мы остановимся на лингвопоэтическом подходе исследования.

Список использованной литературы

1. Бабенко Л. Г., Васильев И. Е., Казарин Ю. В. Лингвистический анализ художественного текста: Учеб. для студентов вузов, обучающихся по спец. «Филология». Екатеринбург: Издательство Уральского университета, 2000. – С. 16–25.

2. Бахтин М.М. Язык в художественной литературе // Собр. соч.: В 7 т. — М., 1997. – Т. 5. - С.306.

3. Грязнова, А. Т. Лингвопоэтический анализ художественного текста: подходы и направления: монография / А. Т. Грязнова. – Москва: МПГУ,2018. – 324 с.

4. Задорнова В. Я., Лингвопоэтика. Слово в художественном тексте. Язык, сознание, коммуникация: Сб. статей / Отв. ред. В. В. Красных, А. И. Изотов. -М.: МАКС Пресс, 2005. Вып. 29. 160 с. ISBN 5-317-01330-5

5. Красникова Л.В., О специфике лингвопоэтического исследования художественного текста ISSN 1991-5497. мир науки, культуры, образования. № 3 (46) 2014.

6. Липграт А.А. Лингвопоэтическое исследование художественного текста: теория и прагматика (на материале английской литературы 16_20 веков). Дисс. докт. филол. наук. М., 1996. С. 23.

7. Нелюбин Л.Л., Толковый словарь. -3 издание. -М: Флинта: Наука.2003.

8. Темкина В.Л., Современные подходы к анализу языка художественной литературы Вестник Огу №11 (160)/ноябрь`2013.

[25] Красникова Л. В., О Специфике лингвопоэтического исследования художественного текста issn 1991-5497. мир науки, культуры, образования. № 3 (46) 2014.

[26] Задорнова В. Я., Лингвопоэтика. Слово в художественном тексте. Язык, сознание, коммуникация: Сб. статей / Отв. ред. В. В. Красных, А. И. Изотов. -М.: МАКС Пресс, 2005. Вып. 29. 160 с. ISBN 5-317-01330-5

祭礼の成立と変容―山形花笠まつりを事例として―
Establishment and Transformation of Festivals: A Case study of the *Hanagasa* Festival in Yamagata.

福澤光稀　Fukusawa Mitsuki
学士　東北学院大学　文学研究科アジア文化史専攻　日本

Abstract:

There are all kinds of festivals around us. Some of them are established recently, has no religious character, and strongly links to commerce and tourism. These are sometimes compared with and distinguished from traditional festivals. However, even if it is now regarded as "traditonal," any festival was also a newly founded one at first. Therefore, there are still doubts about a view to distinguish it only by the relation with religion or the economic character.

This paper focuses on the Yamagat *Hanagasa* ("flower-hat") Festival, which was established in 1963, and traces the background of its establishment and the transformations over time. The festival is a glittering summer parade held in August in the center of Yamagata city, located in the Tohoku ("North-Eastern") region of Japan. Every year, many spectators gather from the inside and outside of Yamagata; it has become a most representative event in Yamagata.

Why was the *Hanagasa* festival created and how was it transformed? In this paper, by examining these questions, I clarify the historical and social factors that affect the festival and consider the significance of festival in our lives. I beleve that, by advancing such examinations, we could grasp a fresh perspective to understand festivals, without being seized by previous categolies such as traditional, religious, and economic character.

キーワード　民俗学　祭礼　民俗の変化　祭礼の創生　世相　近代　観光　都市祭礼

１．はじめに

近年、無形文化遺産の登録や、地域文化を活用したまちづくりなどが各地で盛んにおこなわれ、民俗文化に注目が集まる機会が多くなってきたように思われる。特に、日本国内の祭礼に焦点を当ててみると、2016 年（平成 28 年）にユネスコ無形文化遺産『山・鉾・屋台行事』が登録されたことや、2020 東京オリンピックの開催に関連づけて企画された beyond2020 プログラム[27]による文化情報の発信事業において、祭礼がアピールの材料として活用されたことなどが直近の出来事としては思い浮かべられる。こうしたように、今日において祭礼は、地域の文化紹介にとどまらず、文化遺産事業や観光などといった国際的・経済的な面にも大きく関わるようになってきている。

現在行われている「祭り」や「祭礼」などと呼ばれるものは、その内容をはじめ、成

[27] プログラムの内容については、「2020 年以降を見据え、日本の強みである地域性豊かで多様性に富んだ文化を活かし、成熟社会にふさわしい次世代に誇れるレガシーの創出に資する文化プログラムを「beyond2020 プログラム」として認証し、ロゴマークを付与することで、オールジャパンで統一感を持って日本全国へ展開していきます。」（文化庁、online：culture-nippon.go.jp/ja/beyond2020、2022.2．24）と紹介されている。

立時期や目的、規模などが非常に多様で、各々が個性的である。あらゆる性質をもつ祭りが私たちのくらしを取り囲んでいるといえる。これらの祭礼はどのような目的をもって創造され、いかに継続されてきたのであろうか。この問いを明らかにするためには、それぞれの祭礼がたどってきた過程を時系列的に整理し、分析していく必要があると思われる。

本論においては、山形県山形市において行われている山形花笠まつり（以降、花笠まつりとする）というひとつの祭礼を題材として祭礼の成立とその変容に着目しながら、主にこの祭礼が成立するまでの期間を中心に分析し、祭礼の展開および存在意義について考えていく。その際に、花笠まつりを単独の出来事として、個別的に取り上げるのではなく、開催地である山形県山形市という空間との関わりも重視しながら捉えることに努めた。

２．先行の研究について

⑴柳田國男の研究

民俗学の研究において祭礼は、大枠の「祭り」研究の中で議論されてきた題材であり、先行の研究は非常に多く存在している。特に、日本において民俗学の先駆者ともいわれる柳田國男による研究は、現在も祭礼を対象とする研究の中心に存在する。

柳田は、日本語の「祭（マツリ）」そして「祭礼」という言葉の使い分けを提示している。柳田によると、「祭（マツリ）」という言葉の起源は神のそばにいて奉仕する「マツロウ」といった行為にあるという。一方で「祭礼」とは「祭（マツリ）」のひとつの種類であり、華やかであるものや楽しみが多いもの、また信仰を共にすることもなくただ審美的な立場で参加する「見物」と称される人びとが集まってくるものと説いている〔柳田、2013（1942）〕。この点において、柳田は神に対する信仰、および神に奉仕するといった行為を重視しながらも、特に「祭礼」においては信仰という枠の中にとらわれることのない参加者の存在を示唆している。なお、本論のテーマとなる山形花笠まつりは、柳田が説いた用語表現に従うと「祭礼」の条件に合致する部分が多く、このように表すのが望ましいと思われる。

さらに、柳田は「我邦の祭が時代の文化の影響を受けて、世とともに徐々に様式を改め」〔柳田、2013（1942）、39〕ながら、社ごとに「それぞれ単独に発展して」〔柳田、2013（1942）、39〕きたとしている。つまり、日本の祭りは世の中の移り変わりと共に変化するものであるということ。そして、時代の文化は祭りに影響を及ぼす存在であるということがここで指摘されている。

祭りを時代の流れと共に変化する存在としてみる視点や、世の中の事象が祭りにあらゆる影響を及ぼす存在であるといった見方は柳田によって早くから提示されてきたのである。

⑵柳田以降の研究

柳田以降も、祭りについては多くの研究がなされてきたが、次第に身の回りに多く存在する祭りを、様々な基準をもって分類する研究成果も現れてくる。

柳田にも師事した牧田茂は神の存在を特に重視し、神とかかわりのないとされる祭りは「お祭り騒ぎ」という意味の祭りであるとして、一方の「昔からのしきたり」であるものとは明確に区別する見方を提示した〔牧田、1972〕。また、先述の柳田による「祭（マツリ）」と「祭礼」の用語表現について言及し、「祭礼」は傍観者などがあるものだとした上で、「祭礼」を除外した「祭（マツリ）」について論じようとしている〔牧田、1972〕。

小松和彦は、祭りとイベントとの区別についての論考で、両者の大きな違いは神の祭祀の有無、そして開催するにあたって経済的効果を期待するか否かといった点であるとした〔小松、1997〕。よって、神が祀られないもの、経済的効果を期待するものはイベントであるということになる。さらに、イベントについては「かつて神に奉納するために特別な供物や芸能であったものが、やがて祭祀集団の枠を越えて参詣してくる人びとに金品をとって提供する」〔小松、1997、21〕ようになったものであるとした。

これらの論考は、多様化し、複雑化した「祭り」と呼ばれる行事を、いかに区別し理解していくべきかといったねらいをもって行われた研究であり、当時における祭り研究のひとつの指標であったといえるだろう。その一方で、こうした概念が定着した影響もあってか、神が意識されないものや、成立時期が比較的新しいもの、開催において経済的な期待を目的としたものなどに対して、研究の光が当たりにくくなり、研究対象とすることがやや敬遠されてきたようにも思われる。

⑶新たな視点と方法

小松の論考と同時期に、こうした日本の祭礼の多様さをいかに理解していくか、といった論点のもと新たな視点が阿南透によって提示された。阿南は「現代日本の「祭り」の姿は多様である。」〔阿南、1997、68〕とした上で、宗教行事や行政主導の行事、「フェスティバル」や「カーニバル」と称されるものなどが様々存在し、そして「イベント」と違いも明確でないことなどから定義づけが難しいということを指摘した。そして祭りをできるだけ広くとらえる視点として、「周期的な行事であること、集団で行うこと、参加者が特有の規則に基づいて行動すること、人びとの関心を一か所に集めるシンボルがあること、シンボルを用いて参加者に非日常的な意識を作り出していること」〔阿南、1997、68〕といった特徴に着目した見方を提示する。さらに、戦後 50 年間の期間に焦点を当て、それぞれの性格を持つ国内の祭りが、いかに変化し、または衰退し、あるいは創造されてきたのかをより具体的なデータをもとに年表的に整理して論じている〔阿南、1997〕。ここでは、祭りが変容、創造される背景に戦時期からの復活・高度経済成長期・観光産業の推進・大阪万博・石油ショック・ふるさと創生の政策などを示し、世の中の事象や諸政策などがどのように祭りに影響を与えてきたのかに注目している。近年において「創造される都市祭礼」と題し、民俗学におけるいわゆる新しい祭礼の研究史についてまとめた論考でも、祭礼のタイプ別にまとめるのではなく、研究者の着眼点に注目して分類する見方を提示している〔阿南、2021〕。

こうした阿南による新たな視点をもとに考えると、現代の祭りを捉える上で細かな定義づけや分類をすることよりも、むしろひとつひとつの祭りについてその変化などを捉えていくことが求められている。研究の方法としても、祭りの変化と世の中の事象との

関連性を重視して、「何が、どういった影響を祭りに与えたのか」ということについてより丁寧にその動向を確認していくという点に特徴がある。この点については、柳田が早くより提示していた「祭りは世の中の移り変わりと共に変化する」という指摘の「変化」を捉えることともつながり、注目される。前記の論考で、阿南は戦後 50 年という期間に限定して、広く国内を対象とした世の中の事象を挙げて祭りの変化を論じたが、その一方で祭礼の開催地にも焦点を当てながら、よりミクロな範囲で発生した事象が与える影響についても確認する必要があると思われる。また、ひとつの祭りにのみに限定するのではなく、その前後に行われていたものや並列して行われているものとの関係性にも懸念しながら変遷を追うことで、その地域における祭りの存在意義についても言及していくことができるようになるのではないかと考える。

３．山形花笠まつりについて

⑴開催地の山形県山形市について

山形県は、日本列島の東北地方に位置する県で、その中でも西南部に位置し日本海に面している。花笠まつりの開催地となる山形市はその県庁所在地であり、県の南東の内陸部に所在する。市の東部には奥羽山脈が南北に連なり、現市域の中心部である旧城下町は奥羽山脈の一部をなす蔵王連峰から流れる馬見ヶ崎川の扇状地上に形成されている。規模は 2022 年（令和 4 年）年 1 月 1 日時点で、面積 381.58 ㎢、人口 24 万 5808 人（推計）である〔山形市、online：https://www.city.yamagata-yamagata.lg.jp/shiseijoho/toukei/1006947/index.html、2022.2.25〕。

その歴史を振り返ると、中世期には、現在の市内中心部に入部した斯波氏によって築城がなされたという。戦国期から近世期初頭にかけては、斯波氏の末裔であり、現在の山形県域の大半を広く領地とした最上義光によって城下の整備が行われ、現在の構造の基礎が形成されたといわれる。最上家は 57 万石を有する大名とまでなるが、家の継承をめぐる最上騒動と称される内紛が続き、1622 年（元和 8 年）に最上氏は改易となる。この改易以降、現在の山形市を含む村山郡では領地の細分化、錯綜が進み、また山形藩主も頻繁に移り変わるようになる。明治期になると 1872 年（明治 3 年）の第一次山形県成立以降、旧城下町は県庁所在地となり、1889 年（明治 22 年）には市制が施行され、山形県の中心地として発展していく。昭和期には 1931 年（昭和 6 年）から戦後の 1956 年（昭和 31 年）までの間に近郊の村々を編入し、現在の市域を確定することとなる。

⑵祭礼の内容

ここでは、花笠まつりがどのような祭礼であるのか、その概要について整理していく。現在、花笠まつりは、山形県の県庁所在地である山形市において、夏の 8 月 5 日～7 日の 3 日間にわたって山形県花笠協議会（山形商工会議所内）主催のもと開催されている。祭礼の当日は、18 時頃より中心市街地の目抜き通りで花笠踊りのパレードが行われ、道沿いには多くの見物客が集い賑わいを見せる。

中心的な催しである花笠パレードには、官庁や企業をはじめ、学校、地域のグループ、サークル、愛好会などの成員で構成された団体が参加し、会場に流れる花笠音頭と太鼓の演奏にあわせて花笠を手に踊りながらパレード行進を行う。踊りの型としては「薫風

最上川」と「蔵王暁光」という 2 つの代表的な振り付けがあるが、団体によっては独自にアレンジを加えたものもあり多彩な振り付けや掛け声で踊られている。パレード行列の先頭には、祭神として迎えられている蔵王大権現の装飾を施した蔵王大権現の山車（荷台を舞台のように装飾したトラック）が走り、そのほかに企業などが提供した山車がパレードを盛り上げる演奏太鼓やゲストの芸能人などを乗せて、パレード参加団体の間を走る。

また、前日の 8 月 4 日にはこの祭礼の祭神とされている蔵王大権現[28]が祀られる山形市下宝沢の苅田嶺神社にて前夜祭（遷座祭）が行われる。山形市中心街では花笠サマーフェスティバルと称するバザール・物産市が行われる。また、最終日の翌日である 8 日には納笠祭という行事が蔵王高原の蔵王大権現礼拝所前で行われている。

花笠まつりは、東北地方の代表的な祭礼を集結して披露する東北絆まつり（東北六魂祭）という催しにも選出されているほか、文化庁主導のプロジェクトである日本遺産「山寺が支えた紅花文化」の構成要素のひとつに組み込まれている。また、パレードに参加するために山形県へ帰省するなどといった話も聞かれ、今日では、県の内外において山形県を代表する祭礼のひとつとなっている。

⑶分析をしていくにあたって

花笠まつりは、1963 年（昭和 38 年）に開催された蔵王夏まつりという催しの付帯行事であった花笠パレードを起源とし、昨年 2021 年（令和 3）で第 59 回目を迎える。祭礼の成立などについては『山形市史 現代編』において若干の記載があるが、それは観光産業についてまとめた項目の中に集約されており、詳しい記述はなされていない。その他の資料としては、第 30 回を記念して刊行された『紅の里に笠が舞う 山形花笠まつり 30 年のあゆみ』があり、最も詳細な資料と思われる。また、山形商工会議所などが発行した文献にも記載がみられる。民俗学の研究成果について見てみると、村山民俗学会[29]によって調査が行われ、2020 年（令和 2）に山形県教育委員会より発行された『山形市無形民俗文化財調査報告書』があり、この中で「山形花笠まつり」の項目が設けられている。こちらは現在行われている祭礼の流れを、客観的にとらえた資料であるといえる。現時点においてこの資料以外で、民俗学の研究成果とされるものは管見の限りではあるが見当たらない。

また、主に花笠まつりが成立するまでを分析するにあたっては、それ以前に行われていた祭礼との関係性にも注意しなければならない。花笠まつりは、しばしば同様に山形市中心市街地において行われていた義光祭、山形まつりといった祭礼と対比される。文献などにも、義光祭、山形商工祭（山形まつり）、花笠パレードへと移り変わっていったと説明する記述〔後藤、1979〕があり、山形まつりが「花笠まつりにバトンを手渡すことになった」〔山形商工会議所 100 周年記念事業委員会編、1998、36〕、「「山形祭」（のち

---

[28] 蔵王大権現とは日本の修験道における神であり、山形市の東端部（宮城県との県境）にはこの神を祀る蔵王連峰という山々が存在し、往時においては山形市周辺や隣県の宮城県において篤い信仰がなされていた。山形市下宝沢の苅田嶺神社はかつての信仰拠点のひとつであった。

[29] 山形市を中心とした山形県の村山地方を拠点として活動する地方民俗学会（村山民俗学会、online：blog.goo.ne.jp/murayamaminzoku、2022.2.25）。

に現在の花笠まつりへ)」〔竹井、2017、18〕などとも表現されるように、花笠まつりは義光祭、山形まつりが置き換えられたもの、変化したもの、であるとも受け取れるような描写がなされている。花笠まつりの前身ともいえる、蔵王夏まつりを企画する時点では「最上義光祭の仮装行列が、数年前から衰退していた」〔山形花笠まつり 30 年史刊行委員会、1992、24〕という記述も見え、先に行われていた祭礼への配慮もうかがえる。

４．祭礼の成立とその変容について

実際にどのように祭礼が変遷していったのか、名称の異なるこれらの祭礼同士の関係性を含めて、以下ではこの祭礼が成立していくまでの期間を中心に時系列的にまとめていく。山形花笠まつりが成立するまでの流れをもとに、山形市という空間においていかなる祭礼の変遷があったのか、また祭礼が成立や変容する際にはその背景にどのような事象の影響が存在しているのかという点を重視する。

⑴近世期以前の祭礼

近世以前の山形では様々な祭礼が行われていたと推定でできるが、その中でも注目されるのは、山形城下北部の宮町に所在する鳥海月山両所宮と、南部の鉄砲町に所在する六椹八幡宮の 2 つの社の祭礼である。この 2 つの社は、城下の南北で氏子を二分したともいわれる大社で、『山形市史 近世編』では「山形城下町の二大神社」〔山形市市史編さん委員会、1975、1014〕といった表現もあり、これらの祭礼は非常に大掛かりで豪華なものであったという。また、このほかに最上氏支配の時以来、継続されてきたとされる、初市と植木市という年中行事も有名である。初市は 1 月に中心市街地において出店が繰り出され、縁起物などの売り買いが行われる催しで、植木市は 5 月に行われる国分寺薬師堂の祭礼の付帯行事でこちらも多くの出店や見世物小屋が市内に展開する。

これらの祭礼や年中行事は現在も継続されており、社殿の所在する地区などを中心に賑わいをみせている。

⑵大正期に創造された祭礼－義光祭

義光祭は 1913 年（大正 2 年）に山形の基礎を築いた戦国大名の最上義光の没後 300 年を記念して催された「最上義光公三百年祭」を皮切りに、それ以降山形市の中心市街地において、毎年の恒例として行われるようになった祭礼である。

第 1 回目の最上義光公三百年祭は 10 月 17～19 日日にかけて行われ、最上義光の法要行事、自転車競走・競馬、市内を横断する提灯行列や甲冑・稚児行列、各町による山車や屋台の飾り物、歩兵第三十二聯隊[30]による模擬戦、仮装行列など様々な催しが行われている〔最上義光公三百年記念市祭協賛会、1914〕。提灯行列や甲冑・稚児行列が移動する範囲や、山車や飾り物が出される町内はおもに旧山形城下を主体とする当時の山形市の域内である。

この祭礼が企画された目的について、最上義光の時代ごとの歴史的評価について検証した竹井英文は、当時全国的に見られた偉人顕彰のひとつであったとした。また、最上

[30] かつて山形市に駐屯していた陸軍部隊。現在の山形城址に部隊を置いた。

義光が当時、教本や修身の題材として用いられていたことから、近代の軍国主義的な思想がその背景にみられるといったことを示唆した〔竹井、2017〕。その一方で『山形市史近現代編』によると、最上義光公三百年祭（義光祭）は、1911 年（明治 44 年）に発生した、市北大火からの精神的回復、ならびに経済への刺戟を与える狙いがあったと記されている〔山形市市史編さん委員会編、1980〕。

大火が発生した 1911 年から、山形市内の物理的な復旧活動や明治の終焉という諒闇の時期を経て、約 2 年後の 1913 年に精神的かつ経済的な面での復興行事として企画されたものと想定される。山形の復興に際して、祭礼には市の基礎を築いた最上義光の名が冠され、軍国的なイメージはその後の時代に付与されたのではないだろうか。こうして成立した義光祭は以降、秋季の恒例行事として定着し「山形市年中行事の一」〔『山形新聞』1917.9.29〕などと表現されるようになる。その催し物の中でも、仮装行列はとくに人気を博し、義光祭の名物となっていくのであるが、なぜ仮装行列が選択されたのかといった点は明らかではない。

⑶戦後の変容－山形まつり

義光祭は昭和初期に発生した第二次世界大戦に伴い、一時中断されることとなる。厳密に言うと、日中戦争が勃発した 1937 年（昭和 12 年）にその影響を受けて自然消滅したとされている〔山形市市史編さん委員会、1980〕。前年の 1936 年（昭和 11 年）までは従来どおりの祭礼が催されていたのであるが、それ以降は開催されることなく終戦を迎える。

戦後になるとこの祭礼は山形まつりと名を改めて復活することとなる。復活の時期については文献によって 1946 年（昭和 21 年）と 1947 年（昭和 22 年）とするものがあるが、新聞記事で開催を確認できるのは 1947 年からである〔『山形新聞』1947.11.4〕。また、名称が変更された理由については、最上義光の歴史的評価が戦後期に変化し、その振る舞いの非道さなどが取り上げられ梟雄として批判された点にあるともいわれる〔山形市の理想像を語る会、1978〕。

こうした背景を経た山形まつりは、内容自体は義光祭と同様に仮装行列をメインとした形式をとり、山形市と山形商工会議所を中心に、年ごとに様々な催しを取り込み、秋季の商工祭として確立していく。

⑷祭礼の転換－蔵王夏まつり・山形花笠まつり

1963 年（昭和 38 年）になると、蔵王夏まつりといった祭礼が山形新聞社を中心に企画される。1950 年（昭和 25 年）に毎日新聞社が行った新観光地百選の選定において蔵王山が山岳部門の第 1 位に選出されて以降、山形市周辺では蔵王観光の開発が盛んにおこなわれており、1960 年代は蔵王エコーライン[31]などの観光資源が充実してきた時期にあたる。

蔵王夏まつりには、かつて山形広域で信仰を集めていた蔵王大権現を祭神として迎える遷座祭、蔵王温泉での盆踊り大会や蔵王中腹の盃湖で水上ステージや花火大会などの催しが設定された。蔵王大権現を取り込み、祭神とした理由としては、「“信仰と観光”の考え方から発案」〔山形花笠まつり 30 年史刊行委員会、1992、33〕とあるのみで詳細

[31] 蔵王連峰の山々を東西に横断する観光向けの山岳道路。

は不明である。蔵王観光推進を目的とした「蔵王の祭り」といったイメージを付加するために蔵王大権現を祀る苅田嶺神社の開山縁起が取り上げられ、第 1 回の 1963 年（昭和 38 年）は開山から 1250 年の記念行事であることもアピールされている。

また、同時期に花笠音頭の普及を目指していた県観光課では、踊りやすい新たな振り付けや県民から募った新たな歌詞をもとにパレード用の花笠音頭・踊りを作成し、これを蔵王夏まつりの中に花笠パレード行事として取り入れた。花笠音頭の普及活動の背景には「山形県の民謡は一般的に重く暗い。この中にあって“花笠音頭”は明るくリズミカルで、これを山形県の代表民謡として普及していきたい。」〔山形花笠まつり 30 年史刊行委員会、1992、24〕といった当時の県観光課の思惑もあったようである。

また、蔵王中腹に所在する盃湖周辺の開発が進められ、宿泊施設や、様々な娯楽施設がつくられた。水上ステージや花火大会などの催しについても、蔵王に観光客を呼び寄せるための戦略であるとされる。よって、蔵王夏まつりは大きく分けると、蔵王大権現の遷座祭・花笠パレード・盃湖周辺の催しに大きく分類することができる。

翌 1964 年（昭和 39 年）の第 2 回蔵王夏まつりもほぼ同様の形式で開催される。この頃より花笠パレードの汎用性や普及のしやすさなどが注目され、同年の東京オリンピック・数年後の万博などへの花笠隊派遣や、国鉄が売り出していた東北三大祭りへの加入をめざすなど売り出しの視野を広げる計画がつくられる〔山形花笠まつり 30 年史刊行委員会、1992〕。1965 年（昭和 40 年）になると、蔵王大権現の遷座祭を残して、蔵王温泉での盆踊り大会や盃湖での催しがなくなり、地元企業や婦人会などの団体が主な踊り手となる花笠パレードに重点が置かれ、日取りも変更される。こうして 3 日間とも夜間の花笠パレードを行う形式となり、ここで山形花笠まつりとしての祭礼が成立することとなる。

そうした一方で、山形まつりは第 2 回蔵王夏まつりが行われた 1964 年（昭和 39 年）まで、秋季の行事として継続して開催されていた。つまり、山形まつりが直接的に蔵王夏まつりや花笠まつりに変化した、置き換えられたというわけではなかった。昭和 30 年代後半になると、道路使用による交通マヒが問題化されることもあったが〔『山形新聞』1962.10.18〕、最終年まで盛り上がりを見せていた。そして 1965 年（昭和 40 年）になると、仮装行列をはじめ山形まつりは「廃止」された〔『山形新聞』1965.10.17〕。廃止の理由としては交通渋滞や道路使用上の問題などが挙げられている〔山形商工会議所 100 周年記念事業委員会編、1998〕。

５．おわりに

⑴分析の結果

以上において、花笠まつりが成立するまでの経過を見てきたが、その変遷を図化すると図 1 のようになる。山形市における義光祭、山形まつり、蔵王夏まつり、花笠まつりの成立や変容の背景には、様々な時代的・社会的な要因が存在していたことが明らかになった。またその要因には、第二次世界大戦や観光ブームなどの全国的なものと、大火の復興事業や蔵王の観光推進など地域的なものの両方が存在しており、祭礼の変遷を理解するためには、ひろく世相を捉える必要性があるといえる。

また、花笠まつりの成立という点に着目すると観光を中心とした経済的な目的が前面に出されていたことがわかった。しかしながら、蔵王観光を推進する祭礼であるにも関わらず蔵王での催しが蔵王夏まつりから花笠まつりへの移行を期に外されたことや、山形まつりが蔵王夏まつり成立後も行われていたことなどを、観光的戦略のみでは説明しきれない。山形まつりまでの市民が参加していた仮装行列と同様に、婦人会や地元企業・団体など主に山形市内の人びとを踊り手とした花笠パレードが主体のまつりとなったことで、山形市中心街において行われる「山形市民の祭礼」としての意味合いを義光祭、山形まつりから間接的に引き継いだというようにも考えられるのではないか。

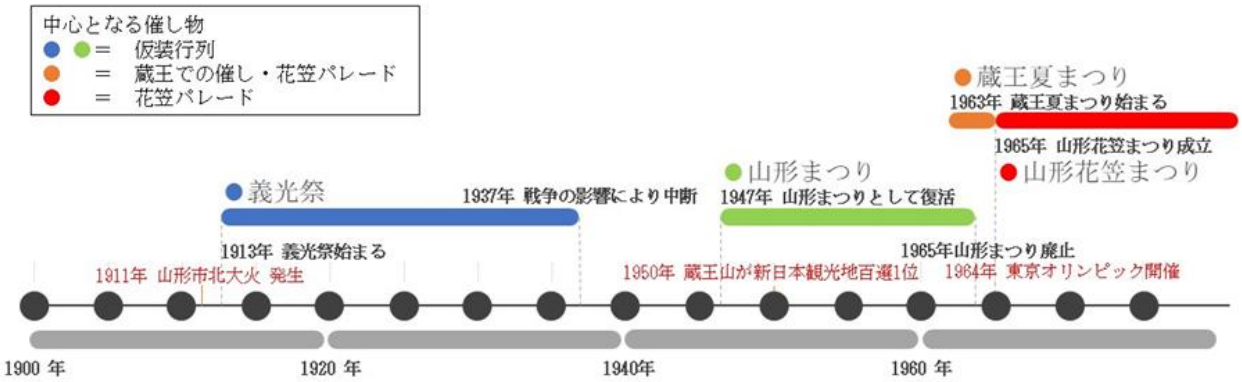


図 1：山形花笠まつり成立までの動向

⑵今後の課題について

本論では花笠まつりの成立までを義光祭、山形まつりと共に時系列的な軸で見てきたが、年表的にその展開を示すことにとどまった。個々の祭礼の持つ意義について、さらには人びとの想いなどについてまで読み取るためにはさらなる分析が必要である。時代の流れだけでなく時代の世相をより丁寧に理解し、祭礼の存在意義を捉えなおすことで改めて何が問題となるかを見いだすことができるのではないだろうか。

また、こうした見解を通して、現在の祭礼の姿を考えるためには、さらに現在までの流れをたどってゆく必要があるだろう。そのうちの要素ととして、近年の COVID-19（新型コロナウイルス感染症）もあげられる。花笠まつりもこの感染症蔓延の影響を受け、2020 年（令和 2 年）はパレードの中止、2021 年（令和 3 年）は会場の変更と参加者・来場者の制限を行い、規模を縮小しての開催となった。このような世の中の事象に対し、祭礼を取り囲む人びとがどのような行動をとったのか。現在、そして未来の祭礼の在り方を考える上では、こうした状況を分析していくことが重要となっていくと思われる。

引用参考文献

〇文献資料

・阿南透「伝統的祭りの変貌と新たな祭りの創造」（1997）小松和彦編『祭りとイベント』小学館
・阿南透「創生される都市祭礼」（2021）『講座日本民俗学』

・後藤嘉一編著『ふるさとの想い出写真集明治・大正・昭和山形』（1979）国書刊行会
・平凡社地方資料センター編『山形県の地名日本歴史地名大系6』（1990）平凡社
・角川日本地名大辞典編纂委員会編『角川日本地名大事典6 山形県』（1981）角川書店
・小松和彦「神なき時代の祝祭空間」（1997）小松和彦編『祭りとイベント』小学館
・牧田茂『神と祭りと日本人』（1972）講談社
・最上義光公三百年記念市祭協賛会『最上義光公三百年祭誌』（1914）最上義光公三百年記念市祭協賛会
・村山民俗学会調査・編集『山形市無形民俗文化財調査報告書』（2020）山形市教育委員会
・竹井英文『シリーズ・日本の織豊大名の研究６最上義光』（2017）戎光祥出版
・柳田国男『日本の祭』（2013[1942]）角川書店
・山形花笠まつり30年史刊行委員会『紅の里に笠が舞う山形花笠まつり30年のあゆみ』（1992）山形県花笠協議会
・山形市の理想像を語る会編『霞城公園銅像問題をもとにして最上義光公を考えるその二』（1978）山形市の理想像を語る会
・山形市市史編さん委員会編『山形市史近代編』（1975）山形市
・山形市市史編さん委員会編『山形市史近現代編』（1980）山形市
・山形市市史編さん委員会編『山形市史現代編』（1981）山形市
・山形商工会議所100周年記念事業委員会編『百年のあゆみ』（1998）山形商工会議所
〇新聞記事
・『山形新聞』大正6年（1917年）9月29日
・『山形新聞』昭和22年（1947年）11月4日
・『山形新聞』昭和37年（1962年）10月18日
・『山形新聞』昭和40年（1965年）10月17日
〇ウェブサイト
・文化庁－「beyond2020プログラム」とは
https://culture-nippon.go.jp/ja/beyond2020 （2022. 2. 24最終閲覧）
・村山民俗学会－「村山民俗学会公式サイト」
https://blog.goo.ne.jp/murayamaminzoku （2022. 2. 25最終閲覧）
・山形市－「山形市の人口」
https://www.city.yamagata-yamagata.lg.jp/shiseijoho/toukei/1006947/index.html （2022. 2. 25最終閲覧）

Tashkent State University of Oriental Studies.
Faculty of Japanese language. Graduate: Jabrieva Nargiza sog_don@yahoo.com

The Theme: On the issue of Gender Stereotypes , their reflection in a literary text.

In this review article there are considered the gender stereotypes in Japanese culture , language and in a literary text, particularly in a prose , based on works written by women.

Key words: Gender stereotypes in linguistics, gender , women's prose, polite speech, feminization, femininity, masculinity, male's and female's speech.

タシケント国立東洋学大学日本語学部
氏名：ジャブリエヴァ　ナルギーザ　　sog_don@yahoo.com

テーマ：性別固定観念の問題への文学的名テキストへそれらの反映。

この総説では女性が書いた作品に基づいて日本の文化、言語、文学テキスト特に散文での性別固定観念が考慮されています。

キーワード：　言語学における性別固定観念、性別、女性の散文、丁寧なスピーチ、女性化、男らしさ、女性らしさ、男性と女性のスピーチ。

Ташкентский Государственный Университет Востоковедения
Факультет Японоведения. Магистрант : Джабриева Наргиза sog_don@yahoo.com

Тема: К проблеме гендерных стереотипов , их отражения в художественном тексте.

В данной обзорной статье рассматриваются гендерные стереотипы в Японской культуре , в языке и в художественном тексте в частности прозе, на основе произведений , авторами которых являются женщины.

Ключевые слова: гендерные стереотипы в лингвистике, гендер, женская проза, вежливая речь, феминизация ,маскулинность, фемининность , мужская речь, женская речь.

Аннотация:

Обращаясь к проблеме гендерных стереотипов стоит определить понятия гендерного стереотипа в лингвистике. В учебно -методическом пособие « Лингвистическое изучение стереотипов» Вилинбахова Е.Л. в своих трудах отмечает : « В лингвистической науке понятие гендерный стереотип – объект междисциплинарного знания, изучение которого требует интегративного подхода, включающего общеметодологические, общенаучные и частнонаучные основания. Эти понятия входят в одну из базовых характеристик личности, которые обусловливают психологическое и социальное развитие человека. Стереотип как инструмент исследования в лингвистике позволяет интерпретировать языковые явления, устанавливать параллели между ними, сравнивать и находить общие и частные закономерности, дополняет или опровергает наши знания об объектах или ситуациях на материале языковых данных.»

Изучение гендера в литературоведение относят к последнему десятилетию XX века, это, прежде всего , связано с повышенным интересом к гендеру в данной сфере, а именно преобладанием патриархальной спецификации общества, проявление черт маскулинности (мужественность) и фемининности (женственность) в художественных произведениях(с.273-274)(Краева 2013г.) В связи с тем, что основная часть текстов написана мужчинами, стоит вопрос о необходимости изучения женской литературы, в частности теории литературы с позиции гендерного аспекта и выявлением элементов

женского письма, то есть «…гендерная система общества оказывает влияние на создание и интерпретацию литературных произведений». В своем письме женщины-писательницы стараются отгородиться от «патриархального дискурса», то есть: «Активность, изменчивость и гибкость (в отношении своего место, роли, языка)является способом сопротивления патриархальным иерархиям»(с.223) Следовательно, женщина- автор старается перейти к другим ролям, которые раньше были присуще мужчинам, тем самым получить такое же господство в мире как представители мужского пола.

В качестве одного из основных авторов исследовавших тему гендерных различий можно выделить Герт Хофстеда. В ходе исследований Япония была отнесена автором к «мужскому» социуму, где доминирует четкое разделение гендерных ролей.

В традиционных гендерных представлениях Японии наблюдалось четкое разделение полов и социальных ролей, которые закреплялось с самого рождения. В довоенной Японии законы и мораль утверждали , что мужчина обладает полной властью над женщиной, как в политической, так и в семейной сферах. Общество воспринимает женщину в качестве жены и матери , хранительницей домашнего очага и ее род деятельности не имеет большого значения. В истории и в культуре к женщинам присуще такие черты как: мягкость, смирение , покорность, услужливость, ненадежность.

Согласно укоренившимся представлениям женщинам в обществе приписывается меньшая ценность, чем мужчинам. Гендерные стереотипы отражаются в языке как в виде устойчивых сочетаний; что выражается через фразеологизмы, пословицы и поговорки. В диссертационной работе «Японская семья как феномен культуры» (Воркина К.С. 92с.) исследовала паремии японского языка позволившего выявить гендерные стереотипы, характеризующие мужчину и женщину по разным параметрам. «Мужское слово- закон. Мужчина сказал , мужчина сделал. 男子の一言、金鉄の如し。

Мужчина- это отвага, мужество, храбрость, а женщина- это очарование и привлекательность. 男は度胸、女は愛嬌。

Говоря о характере женщин представлены также и отрицательные поговорки: Собираясь три женщины, всегда создают шум. 女三人よれば姦しい。

Нет умных женщин. 女人に健常なし.

Мужчина снаружи, женщина внутри. 男は外女は中。(Словарь японских пословиц и поговорок)

На основе анализа японских поговорок можно заключить, что оно отражает бытовую картину мира японского народа. Следовательно, сложившиеся стереотипы о женщине и мужчине свидетельствует о гендерном неравенстве норм языкового выражения. Первые проявления гендерного различия в речи появились, после того как Япония приняла Китайскую письменность, примерно в 6 веке. Эти различия присутствуют и сейчас, спустя 1500 лет.

В научной статье “Мужская и женская вежливая речь в японском языке” Рыспекова Н.С. рассматривает гендерные различия в японском языке .

Наиболее очевидная разница в мужской и женской речи прослеживается в использовании личных местоимений. Группа со значениями “Я”:

“Ваташи”- Вежливый вариант. Обычно используется мужчинами в разговорной речи, и несет оттенок “высокого стиля”.

“Аташи”- Вежливый вариант. Обычно используется женщинами. Не используется при общении с высокопоставленными личностями.

“Ватакуши”-Очень вежливый женский вариант.

“Оре”- Не очень вежливый мужской вариант.

“Дзибун”- Вежливая официальная форма. Используется военными и чиновниками.

Другие грамматические различия проявляются в употреблении форм вежливости. По литературным нормам только мужчины могут употреблять фамильярный суффикс “-кун”при именах, обозначающих людей; женщины в подобных ситуациях используют суффикс “-сан” обозначающих степень вежливости.

Демьянов Е.Н.в своей квалификационной работе» Специфика женского типа речи в японском языке» исследовал «Гендерную дифференциацию речи». Говорящий сообразно своему полу, в меньшей или большей степени, употребляет набор грамматических единиц. Таким образом он пытается соответствовать своей роли в обществе, на которую оказывает влияние пол. В работах где разбираются проблемы женской и мужской речи, данные понятия обозначаются по-разному- разновидность языка, стиль языка, вариант языка. В Японском языке женская и мужская речь проявляет свои особенности главным образом в разговорном стиле. Таким образом, становится возможным определить речь мужчин и женщин ка разновидности языка, в рамках которых происходит различие единиц языка в зависимости от пола. Женщины используют более вежливые формы языка, чем мужчины, так как занимают слабую позицию в обществе. В отношении к супругам существует заметная разница в обращении. Муж употребляет низкую форму вежливости в отношении своей жены. Например, грубую форму повелительного наклонения: Деру мае ни тегами во васуруна!—出る前に手紙を忘るな！Перед тем как уйти, не забудь письмо!, жена в свою очередь использует более вежливые формы этого наклонения: Ие во деру мае ни тегами во васуренайде кудасай！—家を出る前に手紙を忘れないでください！Перед тем как выйти из дома, не забудь пожалуйста письмо! Конрад Н.И. (Японский лингвистический сборник 1959г) писал “Муж в обращении к жене употребляет те слова, обороты и конструкции речи , которые выражают, в общем, отношения хозяина к служанке: и наоборот, речь жены при обращении к мужу будет носить отпечаток отношения “низших” к “высшим”.

Обычно речь между японцами одного пола менее вежлива, чем между мужчиной и женщиной. Женщины всегда выбирают более вежливые формы вне зависимости от ситуации. Мужчины обычно четко дифференцируют степень учтивости, ориентируясь на собеседника и условия общения. Японец, занимающий более высокую социальную ступень говорит вежливее в сравнение с нижестоящим, а старшие употребляют более вежливые обороты чем молодые.

По данным КиндаитиК(1959г. 211).,в японском языке женщины чаще используют восходящую интонацию (84%времени), чем мужчины (60,7%). Восходящая интонация-высокий тон является одной из характеристик женской речи как более эмоциональный. А низкий и ровный тон воспринимается как более агрессивный, категоричный и доминантный.

В научной литературе обычно указывают на три фонетические особенности женской речи в области фонетики, морфологии и лексического состава. В числе лексических характеристик, отличающих женскую и мужскую речь выделяются: 1) использование особых личных местоимений; 2) использования особых слов и терминов для обозначения определенных понятий и явлений; 3) редкое использование канго(слов китайского происхождения) женщинами; 4) щсобенности в использование суффиксов “сан/сама” а

также , некоторые особенности языковых подсистем, таких как, “онна но котоба”-“женская речь”, сохранились на протяжении веков и вошли в словарный запас современной японской женщины. (Идэ С.1982г 58с. “Женская речь, мужская речь”)

В диссертационной работе « Мужская и женская речь в современном японском языке» 2003г, Крнета Наталия исследовала основные стереотипы связанные с понятиями мужской и женской речи. По мнению автора мужская речь становиться нормой, не требующей специальных исследований, а женская речь- отклонение, представляющее интерес для изучения.

« В 1967 г было проведено сравнения языка мужской и женской литературы, а именно лексического запаса, и были сделаны выводы о том, что женские произведения содержат гораздо меньше экспрессивно-эмоциональных выражений, но больше примеров независимой оценки проблемы и объективного суждения.(«The Woman’s Hand: Gender and Theory in Japanese Women’s Writing”- Stanford University Press,1996 p.94)

Стоит отметить, что в 1970е годы термин «женская литература» (女性文学) который стал использоваться в литературоведении при характеристике творчества писательниц послевоенного времени. К этим годам отмечается очевидный для критика и читателя расцвет женской японской прозы. Современная Японская проза, представленная в частности, рассказами и новеллами (短編小説) имеет ряд объединяющих тенденций, в равной степени характерных как для мужской и для женской литературы.

«Для обозначения подобной литературы был создан специальный термин- «женская проза», под которой принято понимать социокультурный феномен, который возникает в процессе освоения женщинами публичного пространства и находит свое выражение в литературных произведениях, аккумулирующих описание окружающего мира социального опыта женщин.»(Ражбаева М. Женская проза. Словарь гендерных терминов.)

Введение:

Специфика женского творчества репрезентирует особую художественную картину мира с кардинальными отличиями от мужского миропонимания, и это, естественным образом, предопределено биологическими, психологическими, социальными особенностями женского отношения к жизни, к реальности, к самой себе и как следствие, к самовыражению и самодостаточности. Творчество женщин имеет свои характерные черты, что писательницы могут выражать как общечеловеческий, так и сугубо женский, взгляд на мир, который уже благодаря своей специфике, представляет ценность. Авторы-женщины сами подвержены влиянию гендерных стереотипов, как и созданные ими персонажи.

Основная часть:

В диссертационной работе «Гендерная проблематика в творчестве Цусима Юко» Воробьева В.А. рассмотрела особенности женской литературы в послевоенный период и социальные и исторические факты, в условиях которых эта литература развивалась. Она выделила доминирующую проблематику в феминистской женской литературе этого периода. Основные произведения Цусимо Юко в большинстве своем затрагивают гендерную и иную социальную проблематику, интересующую феминистски настроенных писательниц женской литературы в Японии во второй половине XX века. Наиболее распространенной гендерной проблематикой, объединяющей большинство произведений Цусимо Юко, является проблема матери одиночки в японском современном обществе. Женщины, разведенные и одинокие имеющие детей вне брака, пытаются найти свое место в социуме и добиться уважение к себе.

«Это может показаться парадоксальным, но японки, в конце концов, в лучшем положении, чем японские мужчины. Те должны работать на благо общества, а женщины не обязаны становиться рабами компаний. Для нас не все так просто, но у нас есть лучший выбор. Правда до сих пор нет четкого рецепта для нашего счастья.»(Tsushima Yuko. I am not Pessimistic about the future of women.) (Electronic resource)

В своей исследовательской работе « Место «тю:кан бунгаку» («Промежуточной литературы) в литературном процессе современной Японии.» Шапка Я.М. анализировала творчество современной писательницы Японии Есимото Банана. В ее произведениях присутствует многослойность. Внешняя сторона- это , в основном, истории людей, теряющих близких, их переживания и жизнь после этого. В ее сочинениях люди всегда теряют тех, кого любили, и это настолько больно, что почти начинает ощущаться физически.

Сразу после писательского дебюта Есимото в конце 1980-х ее творчество стало ассоциироваться с культурой «се:дзе». Эстетика «се:дзе» возникла в конце 1970-х и представляла собой то, что написано женщинами, ориентировано на женскую аудиторию и описывает сугубо женские проблемы , касающиеся любви и работы.

В произведениях Есимото наблюдается размытие гендерных границ. (Есимото и в своих публицистических выступлениях поддерживает идею феминизации мужчин и «возвращения» их в семейный круг.) В ее произведениях нет стереотипных «идеальных» семей, они существуют лишь, в образах, снах, мечтах, или в обманчивых воспоминаниях. Также в ее произведениях у персонажа обычно нет отца, так как он бросил семью или находится далеко. И это означает что эти семьи не могут быть патриархальными. Подобный мотив также соответствует реальным изменениям в современном японском обществе, в котором растет роль женщины, а количество традиционных патриархальных семей постоянно уменьшается. В ее произведениях возникает новый тип семьи, которую объединяет не кровное родство , а эмоциональная связь.

Так, например, один из главных персонажей повести «Кухня» (キチン, 1987) Эрико это мужчина , который сменил пол после смерти своей жены, он приглашает жить с ним и ее сыном Юити, главную героиню – Микагэ – после смерти ее бабушки. Так как он был знаком с бабушкой девушки. Этих людей связывает чувство потери. Все произведения Есимото Банана написаны от первого лица. Персонажи произведения говорят с улыбкой и легкой иронией. Например для Микагэ- главной героини повести «Кухня» одиночество не является недостатком, а финал ее произведения всегда оставляет для героя надежду на душевное исцеление. За обычными историями Есимото скрываются вопросы гендера, религии, и игр человеческого сознания.

- Анализ художественных произведений, написанных писателями и писательницами, позволяет «увидеть мир» глазами мужчины и женщины и обнаружить особенности данного видения. Художественный текст следует рассматривать таким образом, как отражение языковой личности автора и воплощение его индивидуального восприятия мира.

«Исследование художественного текста в гендерном аспекте представляет весьма продуктивном для познания гендера лингвистическими методами. Через отбор жизненных явлений рассмотрение их под определенном углом зрения, художественный язык, словесные образы в тексте обнаруживается мироощущение его создателя , обусловленное наряду с другими факторами и гендером автора. Именно такое описание художественного текста, учитывающее и его содержание, и конкретное языковое воплощение , позволяет

исследовать его сквозь призму когниции и коммуникации, выявить особенности языковой личности автора.(Кубрякова Е.С.2001г)

Выводы:

Исследования гендерных стереотипов на материале японского языка показало универсальность понятий «мужественность» и «женственность», которые обладают определенной национально-этнической спецификой. Культура определяет некоторые характерные черты, присущие тому или иному полу, что оказывает соответствующие воздействие на формирование гендерных стереотипов. Исследователями были отобраны устойчивые единицы, именующие и характеризующие мужчин и женщин в японском языке. Таким образом, гендерные стереотипы в японском языке обладают определенной национальной спецификой и отражают традиционные ценности и идеалы.

Также исследователи отмечают ,что «женская проза» за счет усложнения образов и использования изобразительно- выразительных средств языка, рождающих неоднозначность высказывания, является очень противоречивым пластом культуры и предоставляет множество возможностей для интерпретации текста с разных перспектив. Для создания более целостного представления о «женской прозе» и возможности более детально проанализировать выбранные нами произведения, необходимо рассмотреть особые черты, которые находят свое отражение в литературных работах авторов- женщин.

Сделав этот краткий исторический обзор, мы можем с уверенностью сказать что авторы-женщины внесли значительный вклад в развитие литературы, создав культовые, повлиявшие на целые поколения произведения.

Список Литературы:

1. Воробьева В.А. Диссертационная работа “Гендерная проблематика Цусимо Юко”
2. Воркина К.С. Диссертационная работа “Японская семья -как феномен культуры”
3. Вилинбахова Е.Л. Учебно-методическое пособие “Лингвистическое изучение стереотипов”
4. Герт Хофстед “Маскулинность и фемининность”1988г 256с
5. Демьянов Е.Н. Квалификационная работа “Специфика женского типа речи в Японском языке.
6. Идэ С. “Женская речь, мужская речь” 1982г 58с
7. Кубрякова Е.С. “О тексте и критериях его определения/ Текст. Структура и семантика. М: Наука, 2001 72-81с
8. Киндаити К. ”Женская речь в Японском языке.”Press inc, 1985г 12с
9. Конрад Н. И. “ О языковом существовании/Японский лингвистический сборник. 1959г
10. Краева К.В.2013г “ Дескрипция и проявление гендера в художественной литературе” 273-274с
11. Крнета Н. 2003г Диссертационная работа “ Мужская и женская речь в современном японском языке”
12. Ражбаева М. “Словарь гендерных терминов. Женская проза “
13. Рыспекова Н.С. Научная статья “ Мужская и женская вежливая речь в Японском языке”
14. «Словарь Японских пословиц и поговорок»

15. Шапка Я.М. Квалификационная работа “2017г “ Место тю:кан бунгаку (“ Промежуточной литературы”) в литературном процессе современной Японии

16. “ The Woman’s Hand : Gender and Theory in Japanese Women’s Writing” – Stanford University Press.1996. p.94

17. Geert Hofstede “ Masculinity and Femininity” 1988. p.256

テーマ: 介護技能実習生の声から見る日本語教材

—介護技能実習生が習得を望む日本語の Can do statements と教材内容の比較から—

氏名：時野 加奈子 Tokino Kanako

学部 4 年，金沢大学，学生，日本

Theme: Analysis of Japanese Language Learning Materials from the Perspectives of Nursing Care Technical Intern Trainees' needs

- Comparing the content of the learning materials to the results of Can do statements of the Japanese language that the nursing care technical intern trainees want to learn -

Abstract: From three surveys, this paper compared the Japanese language needs of the nursing care technical intern trainees to the content of Japanese language teaching materials. The purpose is to suggest that the content and the usage of teaching materials which have not yet been sufficiently studied.

In Survey 1, the Can do statements questionnaire was used to reveal the Japanese language skills that the Myanmar nursing care technical intern trainees wanted to acquire. The results showed that the needs are " writing " and " reading" in terms of skills, and " workplace communication " in terms of situations. Survey 2 clarified the teaching materials used in teaching Japanese for nursing care technical intern trainees, which are widely used by supervising organizations. Survey 3, by comparing the results of Survey 1 and Survey 2, revealed that there were gaps between the demand of nursing care technical intern trainees and the contents of the teaching materials. For example, the teaching materials did not contain enough "grammar and expressions" and "practical exercises" to aid the learners satisfy their needs. In addition, there was an emphasis on practicing communication with the residents and their families, but very few workplace communication with the coworkers.

To conclude, this paper offers three suggestions. Firstly, the addition of certain example sentences and exercises that allow learners to imagine real life situations in nursing care. Secondly, more situations related to work communication should be included. Thirdly, enough conversation practice should be added to enable care trainees to practice carrying out the tasks of care work.

Keyword：

the Technical Intern Trainees, nursing care occupation, Japanese language education, teaching materials, learners' needs, skills, situations, Myanmarese

1.研究の背景と調査の目的

日本では介護人材の不足が背景にあり，介護分野の技能実習生[32]の受け入れが増加している。技能実習生の本来の目的は専門的な技術や知識を習得することだが，現実には技能実習生が人手不足の産業の労働力を担っているという側面が大きい。外国人技能実習機構[33]が 2021 年 3 月に調査した「職種別　技能実習計画認定件数（構成比）」によると「技能実習(介護)」は 12068 人であり，2019 年 3 月の調査から増加し続けている。

法務省が平成 21 年に発表した「技能実習生の入国・在留管理に関する指針」には，法務省令により技能実習を始める前に技能実習生は日本語教育を受けることが義務づけられており，実習生が技能実習や日常生活をするためには日本語教育が重要である旨が記載されている。さらに，介護技能実習生の場合は，日本語科目を教える教師の資格要件，科目ごとの内容及び時間数が定められている。また，在住外国人への日本語教育を確保することは，SDGs の目標 3 の「すべての人に健康と福祉を」や目標 16 の「平和と公正をすべての人に」の達成にも関係していると考えられる。しかしながら，技能実習生への公的な日本語教育の支援は限定的な範囲にとどまり，監理団体[34]や受け入れ企業にほぼ一任されている。

SDGs の目標 4 で「質の高い教育をみんなに」を掲げている。目標 4 では子供だけではなく，大人も対象とされ，職業に関係する技能を習得することを目指す旨も記載されている。このことから，技能実習を遂行するために，技能実習生への日本語教育の質を向上することは目標 4 に合致すると考えられる。介護技能実習生に対しても日本語教育の質を高めるための研究が必要不可欠となるであろう。しかしながら，介護職種が技能実習に追加されたのは 2017 年 11 月であり，他の技能実習の職種と比べると日があまり経っていないため，介護の技能実習生に対する日本語教育の方法論に関する研究は管

[32] 日本の企業において実習を行うことで、自国で取得が困難な技能や知識を習得し、出身国への技術移転を図る開発途上国出身の人々
[33] 技能実習の実施及び技能実習生の保護を行い、開発途上地域等への技能等の移転を促進することを目的とした、法務省及び厚生労働省が所管する認可法人
[34] 技能実習生の活動及び実習生の受け入れ企業への支援等を行う非営利団体

見の限り十分な積み重ねがない。また，布尾（2017）は介護の業務で必要な日本語に関する調査の不十分さを問題に挙げ，目標言語が定まらない中で効果的な教材の作成はできないことを指摘している。

そこで，本稿では実際に介護分野で実習をしている技能実習生が習得を望む日本語力を明らかにして，実際に介護の日本語教育で使用されている教材の内容との比較を行う。本稿の目的は，介護技能実習生の日本語教材の内容や使用方法に示唆を与えることである。

2. 調査全体の概要

本稿では 3 つの調査を通して，介護技能実習生が習得を望む日本語と介護護技能実習生に対する日本語指導で多く使われている教材の内容を照らし合わせる。

調査 1 では，現在介護分野で技能実習をしている人を対象にアンケート調査を行い，習得したい日本語を明らかにする。調査対象者はミャンマー人介護技能実習生 38 人である。

調査 2 では，監理団体へのアンケート調査を行い，介護技能実習生の日本語教育で使用している教材の実態を明らかにする。中部地方[35]にある 16 の監理団体から回答を得た。

調査 3 では，調査 1 で明らかになった介護技能実習生が習得したい日本語力と調査 2 の結果から多く使用していると判明した教材内容を比較する。分析の際は介護技能実習生の求める日本語力が習得できると考えられる教材の内容(語や文型，練習）を書き出した。

3. 調査 1 の方法と結果：介護技能実習生に対して日本語の使用に関するアンケート

3.1 調査方法

[35] 本稿では、中部地方を新潟県，富山県，石川県，福井県，山梨県，長野県，岐阜県，静岡県，愛知県の 9 県と定める。八地方区分の分類(北海道，東北，関東，中部，近畿，中国，四国，九州沖縄)を使用した。

アンケートの実施期間は 2021 年 10 月 21 日～31 日である。文章は全て，ミャンマー語に翻訳をした。また，自由意思による研究参加を保障するために，アンケートの回答フォームの前に調査の目的と概要の説明を記載した。そして，39 人のミャンマー人介護技能実習生のうち同意を得られた 38 人(全員女性)にアンケートに回答をしてもらった。実習を始めた期間は 38 人全員が 2 年以下であり，内訳は半年未満が 1 人，半年以上一年未満が 19 人，一年以上一年半未満が 3 人，一年半以上が 15 人である。また，取得している日本語能力試験の級の内訳は N1 が 1 人，N2 が 9 人，N3 が 28 人である。また 38 人全員が現在も日本語を学習している。現在の日本語学習方法は，「独学」が 35 人，「受け入れ先の機関での研修」は 11 人，「監理団体での研修」は 10 人，「地域の日本語教室」が 1 人であった。

質問内容は，現在の日本語力と習得したい日本語力に関する項目を Can do statements (以下「Cds」という)を用いて尋ねた。本調査と目的が類似している中原(2020)では，監理団体による講習中のベトナム人技能実習生に対して習得を望む日本語力を Cds で計測しており，本調査においても Cds を用いた。Cds に「できるか」を 0(全くできない)から 4(よくできる)の 5 段階で評定を求めた。さらに「できるか」の質問で 0 か 1 と答えた者を中心に「今後できるようになりたいか」という質問に答えてもらい，0(できるようになりたくない)から 4(できるようになりたい)で評定を求めた。

Cds は東アジア・アセアン経済研究センター(2019)の介護の日本語 Can-do ステートメント(以下「KCDS」という)と，国際交流基金・日本国際教育支援協会(2012)の日本語能力試験 Can-do 自己評価リスト(以下「JLPT-CDs」という)から全部で 25 の Cds を選出した。KCDS は，介護現場で日本語を使って何ができるかを示した Cds である。本調査では「技能」と「トピック・場面」と「対象・対話相手」の組み合わせが重ならない 21 の Cds を引用した。技能別には「聞く」が 4，「話す」が 6，「読む」が 7，「書く」が 4 である。また，介護技能実習生が日本語を使用する場面は介護現場以外もあるため，JLPT-CDs を使用した。JLPT-CDs は日本語能力試験の合格者がどのような言語行動ができるかを自己評価で答えた Cds のである。本調査では日本語能力試験の N3 合格者の 50％以上，75％未満が「できる」と考えていてかつ N4 合格者の 25％以上，50％未満ができると考えている Cds を「聞く」「話す」「読む」「書く」から 1 つずつ，計 4 つ選択した。

3.2. 調査結果

KCDS と JLPT-CDs を用いた「今後できるようになりたいか」という質問に対して，評定の平均値は小数点第 4 位を四捨五入して，3.000 より高かった項目を表 1 に書き出す。25 の Cds のうち 10 の KCDS と 1 の JLPT-CDs が該当した。今回のアンケート調査に用いた Cds のうち，3.000 は中央値にあたる。そのため，3.000 より高い場合は今回抽出した Cds 中間より上の層にあたるものであるため，より多くの実習生が習得を望む項目として判断した。

表 1　「今後できるようになりたいか」に対して評定が 3.000 より高かった項目

介護の日本語 Cando ステートメント(KCDS)				
定の平均値	能	KCDS	<トピック・場面> (対象・対話相手)	[カテゴリー] 【言語活動の種類】
.250	く	日報(個人の振り返り記録)に仕事の内容などを，短い簡単な文で書くことができる。	<業務連絡> (介護記録)	[業務に関する書類を書く] 【産出】
.200	む	勤務時間の変更など，職員からのメールや SNS メッセージの短い文章を読んで，連絡事項など必要な情報を理解することができる。	<業務連絡> (メール・SNS)	[手紙やメールのやりとりをする] 【受容】
.174	む	職員にわからない言葉を説明してもらえば，介護記録などを	<業務連絡>	[必要な情報を読

		読んで，(メニューや味付けなど)食事についての利用者の要望など，業務の遂行に必要な情報を理解することができる。	(介護記録)	み取る] 【受容】
.167	く	利用者の入浴日変更等，業務上の連絡事項を短い文でホワイトボードなどに書くことができる。	<業務連絡> (メモ・カード)	[メモ・カードを書く] 【産出】
.150	く	職員の助けがあれば，身体介助の移動場面などで，利用者を転倒させてしまったときに，転倒場所など，事故報告書を定型の短い文で書くことができる。	<業務連絡> (報告書)	[業務に関する書類を書く] 【産出】
.140	す	申し送りなどで，メモを見ながらであれば，一日の予定について，短い文で説明をすることができる。	<業務連絡申し送り> (職員)	[業務に関するやりとりをする]【やりとり】
.120	む	職員にわからない言葉を説明してもらえば，薬箱や薬の説明書などの短い文を読んで，薬の種類(錠剤，点鼻薬など)や用法・用量など，必要な情報を探し出すことができる。	<介助全般> (説明書)	[必要な情報を探し出す] 【受容】
.118	む	職員にわからない言葉を説明してもらえば，事故報告書を読んで，必要な情報を理解することができる。	<業務連絡> (報告書)	[必要な情報を読み取る] 【受容】
		職員にわからない言葉を説明してもらえば，介助で使用する	<介助全般>	[必要な情報を探し出

.059	む	道具や介 助用品(自助具，歩行器など)に関する説明書を読んで，業務の遂行に必要な情報を理解することができる。	(説明書)	す] 【受容】
.053	く	自己紹介を短い簡単な文で社内報や掲示物などに書くことができる。	<自己紹介> (配布物・ 掲示物)	[挨拶文を書く] 【産出】
日本語能力試験 Can－do 自己評価リスト(JLPT-CDs)				
.211	く	予定表やカレンダーに，短いことばで自分の予定を書くことができる。		

3.000 より高い項目は技能別にみると，「書く」と「読む」が多かった。「書く」は質問した 5 つの Cds 全てが 3.000 より高い値を示した。同様に「読む」も 5 つの Cds が 3.000 より高い値であった。立川(2012)は，介護作業では「話す」と「聞く」機会は多いため，現場での就労を通して自然とその力は向上していくことが期待されるが，「読む」と「書く」の学習の機会は限られているため，各自が意識的に「読む」と「書く」を身に着ける必要があると考察している。そのため，実習が始まってから，「読む」と「書く」を自律的に学習したり，あるいは実習生に学習を提供したりする必要があると考えられる。「読む」と「書く」が習得したい項目の多くを占めたこともあり，10 の KCDS のうち 9 の Cds が，(対象・対話相手)は人ではなく，介護記録や報告書などの対象物であった。

KCDS の<トピック・場面>をみると，3.000 より高い値の 10 の KCDS のうち， 7 の KCDS が<業務連絡>に該当した。上林(2015)は，EPA 介護福祉士候補者などの介護職の場合，チームで介護を行うため，職場の同僚とのコミュニケーション能力が必要であると指摘している。そのため，職員との業務に関するやりとりをしたり，業務を遂行するために必要な情報交換をしたりする際の日本語力を求めていることが多いと推測される。

4. 調査 2 の方法と結果：監理団体に対する日本語教材の使用実態に関するアンケート

4.1 調査方法

アンケートの実施期間は 2021 年 10 月 21 日～29 日である。アンケートの回答フォームの前に調査の目的と概要を説明し，同意書を設けた。147 の監理団体にアンケートをメールで送付したうち同意を得られた 16 の団体から回答してもらった。

4.2 調査結果

使用している日本語教材は基本的に選択式で回答してもらい，選択肢にない教材は「その他」に記入してもらった。そして，「基礎的な日本語習得のための教材」と「介護職向けの日本語教材」，「日本語能力試験対策向けの教材」に分類した。回答した団体数と教材名，出版社，発行年について，表 2 に「基礎的な日本語習得のための教材」，表 3 に「介護職向けの日本語教材」，表 4 に「日本語能力試験対策向けの教材」を記載した。

表 2　基礎的な日本語習得のための教材

団体数	教材名	出版社	発行年
8	みんなの日本語初級 I 第 2 版	スリーエーネットワーク	2012 年
6	みんなの日本語初級 II 第 2 版	スリーエーネットワーク	2013 年
5	技能実習生のための日本語「みどり」	国際人材協力機構	2010 年
2	外国人技能実習生のための日本語〔日常生活編〕	国際人材協力機構	2000 年
2	外国人技能実習生のための日本語〔生活基礎編〕	国際人材協力機構	1996 年 2010 年 (改訂版)
1	新日本語の基礎シリー	スリーエーネ	1990 年

	ズ	ットワーク	(基礎Ⅰ) 1993 年 (基礎Ⅱ)
1	できる日本語初中級	アルク	2012 年

表 3　介護職向けの日本語教材

団体数	教材名	出版社	発行年
5	はじめて学ぶ介護の日本語シリーズ	スリーエーネットワーク	2017 年他
3	シャドーイングで学ぶ介護の日本語 場面別声かけ表現集	凡人社	2018 年
2	にほんごをまなぼう～介護の技能実習生のための日本語学習～	日本介護福祉士会ホームページ	2018 年
2	場面から学ぶ介護の日本語	海外産業人材育成協会	2010 年
2	外国人技能実習生(介護職種)のための介護導入講習テキスト	中央法規出版	2019 年
1	介護のにほんご 1 年生	アスク	2019 年
1	外国人のための会話で学ぼう！介護の日本語	中央法規出版	2020 年
1	介護の日本語		2018 年
1	介護・看護の漢字とことばシリーズ	三修社	2017 年他

1	日本介護職業能力育成機構(JCCD)が出版している介護教材	スリーエーネットワーク	2010 年～2020 年

表 4　日本語能力試験対策向けの教材

団体数	教材名	出版社	発行年
5	日本語能力試験問題集 N1～5【読解】スピードマスターシリーズ	J リサーチ出版	2010 年～2016 年
4	日本語能力試験問題集 N1～5【文法】スピードマスターシリーズ	J リサーチ出版	2010 年～2016 年
3	日本語能力試験問題集 N1～5【聴解】スピードマスターシリーズ	J リサーチ出版	2010 年～2016 年
2	日本語総まとめシリーズ	アスク	2010 年
2	新完全マスター文法 日本語能力試験シリーズ	スリーエーネットワーク	2010 年～2016 年
2	日本語能力試験公式問題集シリーズ	凡人社	2018 年(N1～N4) 2019 年(N5)
1	TRY! 日本語能力試験文法から伸ばす日本語シリーズ	アスク	2013 年～2021 年

1	新完全マスター語彙 日本語能力試験シリーズ	スリーエーネットワーク	2010 年～2020 年
1	新完全マスターシリーズ	スリーエーネットワーク	2010 年～2020 年

「基礎的な日本語習得のための教材」は日本語初学者を対象とした教材である。技能実習生用の教材もあったが，『みんなの日本語初級 1』が最も多く使用されており，さらに今回使用していると回答された教材の中でも最も多かった。「日本語能力試験対策向けの教材」は『日本語能力試験問題集スピードマスターシリーズ』が最も多かった。だが，団体によっては日本語能力試験の科目例えば文法や語彙ごとに教材を変えている団体も見られた。

6. 調査 3 の方法と結果：介護技能実習生が使用している日本語教材等の分析

6.1 調査方法

調査 1 で明らかになった「今後できるようになりたい」と多く答えた Cds と調査 2 で多数使用していると回答された教材の内容を比較する。

調査対象の教材は「基礎的な日本語習得のための教材」からは，調査 2 で多く使用していると回答された上位 3 冊の『みんなの日本語初級 I 第 2 版』，『みんなの日本語初級Ⅱ第 2 版』，『技能実習生のための日本語「みどり」』を取り上げる。「介護職向けの日本語教材」からは上位 4 冊である，『はじめて学ぶ介護の日本語 基本のことば』，『はじめて学ぶ介護の日本語 はじめて学ぶ介護の日本語シリーズ　基本の知識』，『はじめて学ぶ介護の日本語 生活知識とコミュニケーション』，『シャドーイングで学ぶ 介護の日本語 場面別声かけ表現集』を取り上げる。「日本語能力試験対策向けの教材」からは上位 3 冊の教材である，『日本語能力試験問題集N3【読解】スピードマスターシリーズ』，『日本語能力試験問題集N3【文法】スピードマスターシリーズ』，『日本語能力試験問題集N3【聴解】スピードマスターシリーズ』を分析した。N3 合格向けの教材にした理由は，介護技能実習生が求められる日本語力は入国時に N4 相当で，入国の 1 年後に N3

相当であるため，介護技能実習生は入国後に N3 取得に向けて日本語学習をしている可能性が高いからである。さらに，調査 1 のミャンマー人介護技能実習生 38 人のうち，N3 取得者が 28 人と一番多く，N3 合格に向けて勉強していた可能性が高いと考えられるからである。

6.2 「今後できるようになりたい」と多く答えた Can do statements と教材内容の比較結果

教材の中に Cds の達成に関係しそうな「語彙・知識」と「文法・表現」，「実践的な練習」があるかを基準に分析する。

「語彙・知識」は『はじめて学ぶ介護の日本語基本のことば』には，介護現場の専門的な語彙がほぼ記載されていた。だが，業務連絡に使用する日本語は特定の専門用語だけが使われるわけではないので，幅広い介護の単語を習得する必要があると考えられる。

「文法・表現」は『みんなの日本語初級』で学習する日本語は初級レベルの文型を記載しているため，Cds を達成するために必要な文型の土台となる日本語が習得できると考えられる。しかし，同書は文型事項を中心に構成された教材であるため，学習者が同書で学習する文型が具体的にどのような介護場面で使われるかが想像しにくい可能性がある。また，外国人介護人材向けの教材は，介護職員ではなく，利用者やその家族に対して使う日本語の表現が多く記載されている。『シャドーイングで学ぶ　介護の日本語場面別声かけ表現集』は，利用者向けに対する声かけの表現が掲載されている。しかし，調査 1 で習得したいと多く回答されたのが職員同士の業務連絡の日本語は教材の該当箇所は少なかった。

「実践的な練習」は介護技能実習生の日本語教育で使用されている教材には，利用者やその家族に対するコミュニケーションの練習が多く，業務連絡における練習が少なかった。また，「実践的な練習」の場合，技能別では「読む」力を高めるための練習が少なかった。

7. 考察

本章では 3 つの調査の考察と，本稿の目的である日本語教材に対する提案を論ずる 。

先行研究では介護の日本語教育において「聞く」と「話す」が重視される傾向にあった。例えば，野田(2017)は，看護や介護業務においては，「聞く」と「話す」が重要だと述べている。また，介護福祉士候補者に対する日本語教育に関して，登里他(2010)は「口頭能力重視は，修了直後の赴任先でのコミュニケーションの重要性を見ると妥当である」と述べている。さらに，守岡(2019)では，介護技能実習生の入国後講習では声かけや報告などの「聞く」「話す」を中心としたコミュニケーション能力の育成を重視したことを報告している。

しかしながら，調査 1 の結果，「今後できるようになりたい」と多く答えた Cds を技能別に見ると，「書く」と「読む」に関するものが多い結果となった。その一因としては，介護技能実習生は EPA 介護福祉士候補者と比べて学習時間が短く，「読む」と「書く」までしっかりと学習するに至らなかったのではないかということが推察される。また，今回の調査対象者の場合は，現在介護の技能実習をしている実習生が対象であった。このことが，調査結果に影響を与えた可能性がある。立川(2012)は「EPA においても，来日直後は音声的な悩みが中心であるが，ある程度の就業実績を積んでくると，日本語の「介護記録」の漢字や専門用語が分からないという問題が発生してくる」と述べている。このように，今回の調査対象者も実習をしている中で「読む」と「書く」の場面に困難を感じた可能性が考えられる。たしかに，入国前や入国後の講習においては「聞く」と「話す」の日本語教育への注力が重要であるかもしれない。しかし，実習が始まってからは寧ろ「読む」と「書く」中心の日本語学習の必要性が本調査で示唆された。さらには業務連絡の日本語のニーズが高く，「対象・対話相手」の多くは人ではなく，介護記録や報告書などの対象物であった。

調査 3 では調査 1 で明らかになった介護技能実習生が習得したい Cds と，調査 2 で多く使用していると回答があった教材の内容を比べた。その結果，介護技能実習生が習得したい Cds と，日本語指導に使用されている教材の内容には違いがあることが明らかとなった。具体的には，まず，教材には Cds の習得ができるような「文法・表現」と「実践的な練習」があまり記載されていなかった。次に，利用者やその家族に対するコミュニケーションの練習が重視され，調査 1 の結果にあるような業務連絡の場面における練習が少なかった。　以上の 3 つの調査を踏まえて，教材の内容や使用方法の提案を三点述べる。

第一に，教材の記載内容を利用して，介護現場を意識させる例文や練習を取り入れることである。調査 3 において介護技能実習生が習得したい Cds が達成できるような「文法・表現」と「実践的な練習」があまり記載されていないことがわかった。『みんなの日本語初級Ⅰ』を例に出すと，日本語教師が同書に掲載されている文型を使い，Cds の達成できるような例文を作成することが望ましいと考える。また，教材の内容に加えて実践的な練習を加えることも想定できる。例えば，「職員にわからない言葉を説明してもらえば，薬箱や薬の説明書などの短い文を読んで，薬の種類(錠剤，点鼻薬など)や用法・用量など，必要な情報を探し出すことができる」の Cds の達成のためには次のような練習が考えられる。まず，本語能力試験問題集Ｎ3【読解】スピードマスター』の読み取りの問題を解く。その次に応用問題として薬の説明書を読んで，必要な情報を取り出す練習をすることが考えられる。

第二に，ニーズの多かった業務連絡に関する場面や対象(介護記録や報告書など)を充実させることである。介護技能実習生は介護職だけではなく，医療や福祉関係者と連携して業務を遂行する必要がある。円滑な多職種連携のためにも業務連絡を想定した実践的な日本語の練習の必要性が高いと考えられる。そのため，介護技能実習生が業務連絡をできるようになるための日本語の学習を十分にすることが必要だと考える。調査 1 の結果では，独学で日本語学習をする者が多かった。以上から，介護技能実習生は実習が始まった後に，日本語で業務連絡ができるようになるための自律学習用教材があると良いと考える。

第三に，介護現場の課題遂行ができるような練習を含めるべきだと考える。例えば，「職員にわからない言葉を説明してもらえば」や「職員の助けがあれば」など他の職員への助けを求める条件で Cds を達成する項目もみられた。そうした Cds の達成を目指すために，他の職員に対してわからない言葉を日本語で質問するような練習などを介護技能実習生の教材に取り入れるなどが考えられる。

8. 今後の課題とその展望

技能実習生は技術移転を名目として，労働条件の悪い現場で働く場合が多く，人権上の課題も多い。技能実習制度自体の検討も必要であると考えられるが，本稿では研究の蓄積が少ない介護技能実習生に対する日本語教

育の方法論の側面からアプローチを試みた。本調査により介護技能実習生のニーズの一端を明らかにし，新たに教材に加えるべき内容やその活用方法を示唆することができた。日本では介護技能実習生の受け入れが増加の一途を辿っており，介護技能実習生に対する日本語教育への整備が急がれるだろう。本稿のような技能実習生の日本語教育に関する改善のための研究の積み重ねが，ひいては SDGs の目標 4 の達成に繋がると考える。最後に今後の課題とその展望について 4 点述べる。

1 点目は，習得したい日本語力の測定方法である。今回，調査 1 の結果は事前に選出した Cds を 5 件法で選んでもらったものあり，他に習得したいと考える言語行動が隠れている可能性がある。そのため，アンケート項目に自由記述を設けることで，学習者の多様なニーズを明らかにしたいと思う。さらに技能実習生へのインタビューや介護現場などの参与観察を通して，多角的方面から日本語のニーズを探りたい。

2 点目は，調査対象者の母語が調査結果にどの程度影響を与えたかを考慮することである。調査 1 のアンケートはミャンマー人を対象にしていた。Thu(2021)は，ミャンマー語は漢字文化圏ではなく，ミャンマー人日本語学習者は漢字，ひらがな，カタカナの 3 つの文字体系を持つ日本語の学習に苦労する場合が多いと述べる。こうした原因で，今回の調査 1 では，「読む」と「書く」を習得したいと答えた可能性も否めない。漢字文化圏の中国人やベトナム人の技能実習生の場合は習得したい日本語能力に違いが出るかもしれない。今後は，調査対象者の母語を考慮しながら，ニーズの再検討が必要であると考える。

3 点目は，受け入れ企業や地域の視点からも技能実習生に習得してほしい日本語のニーズを汲み取ることである。介護技能実習生自身だけではなく，施設の利用者や職場の同僚，地域住民などの受け入れる側の日本人の意見も聞いて，習得してほしい日本語を探りたいと考えている。

4 点目は，技能実習生に対する日本語教育だけでなく，受け入れる側の介護施設にとって，配慮すべき点を提案することである。介護技能実習生が習得を望む日本語を明らかにすることは，見方を変えれば，介護技能実習生がどのような場面で日本語が困難と感じるかを知るための手がかりになり，日本語の障害を取り除くことができる可能性がある。例えば「利用者の入浴日変更等，業務上の連絡事項を短い文でホワイトボードなどに書くこと

ができる」という Cds は，ホワイトボードに文字を書くのではなく，よく使う日本語が記載されたマグネットで動かす方法に代えることで，介護技能実習生の文字を書く負担を減らせる可能性がある。本稿では技能実習生を受け入れる側の対応を深く考察するまでに至らなかったため，今後は言語の障害を取り除く観点からのアプローチも試みたい。

参考文献

外国人技能実習機構 （2021）「職種別　技能実習計画認定件数（構成比）」https://www.otit.go.jp/files/user/toukei/211001-1-4.pdf(2022 年 2 月 27 日アクセス)

東アジア・アセアン経済研究センター(2019)「介護現場の日本語コミュニケーション能力に重点を置いた新たな日本語テスト開発のための「JF 日本語教育スタンダード参照介護の日本語 Can-do ステートメント」(KCDS) K2a レベル」 http://nihongo.hum.tmu.ac.jp/KCDS/KCDS%20K2a%20J.pdf(2022 年 2 月 27 日アクセス)

法務省入国管理局（2009）『技能実習生の入国・在留管理に関する指針』

https://www.moj.go.jp/NYUKAN/nyukan92-7.pdf(2022 年 2 月 27 日アクセス)

上林千恵子(2015)「介護人材の不足と外国人労働者の受け入れ EPA による介護福祉士候

補者受け入れの事例から 」『日本労働研究雑誌』2015 年 9 月号

国際交流基金・日本国際教育支援協会(2012)「日本語能力試験 Can-do 自己評価リスト」http://www.jlpt.jp/about/pdf/cdslist_all_r.pdf(2022 年 2 月 27 日アクセス)

守岡みのり(2019)「介護分野の外国人技能実習生における日本語使用意識の変化とその要因：実習生のインタビュー調査から」『年報新人文学』第 16 号

中原郷子(2020)「ベトナム人技能実習生が習得を望む日本語力 JITCO チェックシート, 日本語能力試験 Can do 自己評価リストを用いた検討」『長崎外大論叢』第 24 号

登里民子・石井容子・今井寿枝・栗原幸則(2010)「インドネシア人介護福祉士候補者を対象とする日本語研修のコースデザイン—医療・看護・介護分野の専門日本語教育と関西国際センターの教育理念との関係において—」『国際交流基金日本語教育紀要』第 6 号

野田尚史(2017)「特化型の日本語教育とユニバーサルな国語教育 」『外国人労働者受け入れと日本語教育』田尻英三編 ひつじ書房

布尾勝一郎(2017)「外国人介護・介護人材の日本語教育」『外国人労働者受け入れと日本語教育』田尻英三編 ひつじ書房

立川和美(2012)「介護分野における専門日本語教育:教科書教材を中心に」『流通経済大学社会学部論叢 第 22 巻第 2 号

Thu Nwe Aye(2021)『ミャンマー語話者に教える:日本語教師読本 35』日本語教師読本

The Current Situation and Issues of Nursing Support for Family Members as Surrogate Decision-Makers of Elderly Cancer Patient with Decision-making Difficulty

Yukari Nishioka
Master's student, Cancer / Critical Nursing, Juntendo University Graduate School of Health Care and Nursing

Abstract

The present report is going to explain the current situation and issues of nursing support for family members as surrogate decision-makers of elderly cancer patient. The aging population in Japan is increasing more rapidly than that of any other country. The aging rate is expected to reach 35.3% in 2040. Elderly cancer patients may have cognitive dysfunction associated with cancer treatment, the number of elderly cancer patients who have difficulty making decisions is expected to increase. Japanese cultural background that people don't openly talk about death and there is no legal regulation about living will leads to difficulty of surrogate decision-Making. In previous studies of families of cancer patients who made proxy decisions, it was revealed that about 40% of bereaved families feel regret and bereaved families are prone to develop depression and complicated grief after the patient's death. But the studies about nursing support for the family as surrogate decision -makers of elderly cancer patient with decision-making difficulty has not been established. We need to research nursing support for the families who make surrogate decisions. Today we are going to share overview of surrogate decision-making in Japan.

Key words: decision-making, elderly people, cancer nursing

1. Background

The aging population in Japan is increasing more rapidly than that of any other country. As you can see from the graph, the aging rate is expected to reach 35.3% in 2040.[11] Although the physical and cognitive functions of the elderly vary greatly from person to person, it is reported that 86.8% of elderly cancer patients receiving outpatient chemotherapy have mild cognitive impairment.[8] Because elderly cancer patients not only change with age but also may have cognitive dysfunction associated with cancer treatment[3] the number of elderly cancer patients who have difficulty making decisions is expected to escalate more and more.

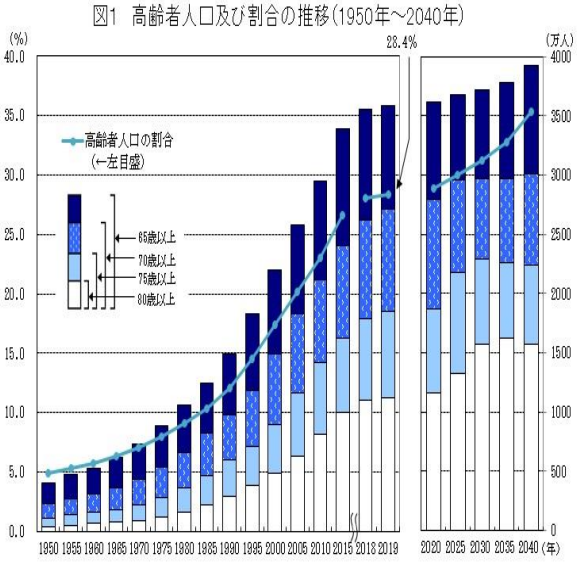


Figure.1 Changes in the elderly population and proportion

2. Decision-making

Decision-making is to select and decide one of multiple options, problem solving and achievement of goals, all of which require an advanced cognitive ability. On the other hand, surrogate decision -making is to have a family member decide the best way for a patient who cannot express his/her

own intention.[4] From the result of 77.2% of adult children who have never talked to older parents about end-of-life care,[6] there is a strong need to support the families of elderly cancer patients who have to make proxy decisions.

3. Japanese cultural background

There are two points about Japanese cultural background. One point is that people have not openly talked about death because of their custom to hold death in detestation. Therefore, even the family don't have a good grasp of family member's will about end-of-life. Moreover, elderly people live in the community in Japan. For example, elderly people tend to leave the decision to their family or their doctor. They change their opinions depending on the will of their families. On the other hand, it is said that people live in an individual in the West.[1] They have clear intentions. An ambiguous will of elderly people in Japan leads to difficulty of surrogate decision-Making. Another is that the legal system for medical consent has not been established. The criteria for determining the decision-making ability of the person and the range of families who can act for consent are ambiguous. How to make medical consent is largely due to the discretion of medical institutions and families. Meanwhile, In Europe and the United States, especially in the United Kingdom and Germany, advance directives regarding medical practices by the individual are given top priority based on respect for the will of the individual and the best interests. Only when it is legally recognized that the person lacks the decision-making ability, a third party can act as a proxy consent decider. Moreover, the agent is limited to the person designated by the person and the legal agent. Medical practices that have a large impact on the person such as surgery and life-prolonging treatment needs for permission from a legal agency.[12]

This image is one of the booklets of living will. These days, some medical institutions or local governments make their own booklets.

Figure.2 Example of a living will booklet

部位	生涯がん死亡リスク(%)		何人に1人か	
	男性	女性	男性	女性
全がん	26.7%	17.8%	4人	6人
食道	1.1%	0.2%	90人	430人
胃	3.4%	1.7%	29人	59人
結腸	2.1%	2.1%	47人	49人
直腸	1.2%	0.7%	86人	149人
大腸	3.3%	2.7%	30人	37人
肝臓	2.0%	1.0%	49人	102人
胆のう・胆管	1.2%	1.0%	86人	102人
膵臓	2.1%	2.1%	47人	48人
肺	6.4%	2.5%	16人	40人
乳房（女性）		1.7%		59人

Table .2 Cumulative cancer death risk

4. Cancer and cancer nursing

Cancer causes a high incident of death globally. Looking at the table.1, you can understand that one in every two people gets a cancer in Japan. As you can see from Table 2 one in every four

people in male, one in every six people in female died from cancer.[10] It was shown as a goal by Ministry of Health, Labor and Welfare that to consider measures for support the medical treatment life of patients in line with the decisions of patients and their families by collaborating with doctors, medical stuff and long-term care workers of medical institutions and nursing care facilities.[9] Moreover, currently cancer medical care is becoming more specialized and complicated. This has led to an increase in situations in which the patient and family have to make decisions. The scenario in which the patient cannot express his/her intention and the family is forced to make a decision is often seen in critical area. In the field of cancer nursing, the family is rarely forced to make choices such as saving or prolonging the patient's life, but they are often forced to make a decision about selection of initial treatment, change of drugs being used, discontinuation of aggressive treatment, transition to the best supportive care, selection of medical treatment location with the patient or by themselves. Especially decision-making of discontinuation of aggressive cancer treatment is complex because we can see situations in which a patient and the family members have different wishes. For example, a patient wishes discontinuing the existing treatments, however, the family members have a strong wish for continuous treatments because they wish to extend the life of the patient. The family members also suffer because they realize the increasing risk of death while observing the patient's suffering from the side effects of the treatments.

部位	生涯がん罹患リスク(%)		何人に1人か	
	男性	女性	男性	女性
全がん	65.0%	50.2%	2人	2人
食道	2.5%	0.5%	41人	186人
胃	10.3%	4.7%	10人	21人
結腸	6.4%	5.8%	16人	17人
直腸	3.7%	2.2%	27人	45人
大腸	10.2%	8.0%	10人	13人
肝臓	3.2%	1.5%	32人	66人
胆のう・胆管	1.5%	1.3%	66人	75人
膵臓	2.6%	2.6%	39人	39人
肺	9.9%	4.9%	10人	20人
乳房（女性）		10.9%		9人

Table .1 Cumulative cancer risk

5. Previous study

In previous studies of families of cancer patients who made proxy decisions, it was revealed that about 40% of bereaved families feel regret[7] and bereaved families are prone to develop depression and complicated grief after the patient's death.[13] In addition, previous studies on supporting families of cancer patients who made proxy decisions were done on cancer patient surrogate decision support as part of patient decision support. These studies revealed the following three points. First, nurses coordinate the environment and support team for families to make surrogate decisions.[5] Second, nurses are facing a dilemma that they cannot follow patients' wills in some cases. Third, they are troubled with supporting elderly patients and families in terms of difficulties in communication with them.[2] This leads to difficulty in understanding patients' wishes. Family-based research about surrogate decision-making is necessary. We need to research family-based nursing support who make surrogate decisions.

6. Summary and future issues

From the above, it was found that with the aging of Japan, the number of elderly cancer patients

who have difficulty making decisions is increasing, and the number of families making proxy decisions is also increasing. But the studies about nursing support for the family as surrogate decision -makers of elderly cancer patient with decision-making difficulty has not been established. We need to research nursing support for the families who make surrogate decisions.

In addition, in the future the rapid aging of Japan accompanies the rise in the number of dementia patients. There has been increasing interest in nursing care for the aging people who suffer from dementia, especially in terms of how nurses help these patients to make good decisions about every aspect of their life, daily, social and the end of life. In the past decade, a large number of studies have approached to support the aging people who suffer from dementia. These studies emphasize two points. One point is to assess aging people's decision-making abilities. Another is facilitating abilities for aging adults to express their wills. Recently, team-based support systems are increasingly required for solving the decision-making problems. The development of a nursing practice program for solving the decision-making problems of elderly patients with cancer and dementia, especially focusing on collaboration activities with family members and health care practitioners is a future goal of this study.

References

1) Anne J. Davis, Verena Tschudin et al / Emiko Konishi (2008). Ethical Dilemmas and Nursing Practice, Japanese Nursing Association Publishing Association.
2) Aya Nishiwaki, Kyoko Okamitsu(2020). A Literature view on nurses'difficulties in supporting end-of-life decision-making of elderly cancer patients as the terminal stage, Journal of Nursing Health Science Research, **20(1),86-95.**
3) Hitoshi Tanimukai (2015). Cancer-related Cognitive Impairment : Current Knowledge and Future Challenges, Psychiatria et neurologia Japonica, 117(8),585－600.
4) Japan Academy of Nursing Science Tweet (2011). Important glossary of Consists of Nursing Practice,

https://www.jans.or.jp/uploads/files/committee/2011_yougo.pdf（Aug03.2020）

5) Kazue Mori, Tomoko Sugimoto (2012). Actual state of and challenges in decision-making support for the terminal care of elderly cancer patients, Journal of the Faculty of Nursing, Iwate Prefectural University, 14,21-32.
6) Kazuhiro Nkazato, Tomoko Wakui, Ryo Hirayama et al (2018). Factors related to parent-child communication about end-of-life care－A survey of adult children with an elderly parent－, Nippon Ronen Igakkai Zasshi, 55,378-385.
7) Mariko Shiozaki, Makiko Sanjo, Saran Yoshida et al (2017). Exploratory Qualitative Study of Regret Stemming from Ending Terminal Treatment and Psychological Coping among the Bereaved Family Members of Cancer Patients: What Does the Family Regret about Terminal Treatment Choices and Why?, Palliat Care Research, 12(4),753-760.
8) Mayumi Kagaya, Chihiro Oki, Yumi Asano et al (2019). Fact-finding survey on daily life circumstances and needs of elderly patients receiving outpatient chemotherapy, Yamagata Medical Journal , 37(2),63-70.
9) Ministry of Health, Labor and Welfare (2018). Phase 3 Cancer Control Promotion Basic Plan, https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000196974.pdf

（Aug03.2020）
10) National Cancer Center Cancer Information Service(2018). Latest Cancer Statistics,
（Aug03.2020）
11) Statistics Bureau, Ministry of Internal Affairs and Communications (2020). Population of elderly,
https://www.stat.go.jp/data/topics/topi1211.html（Nov21.2020）
12) Thinking about the identity guarantee of the elderly in the age of 100 years (2019). The Japan Research Institute, Limited,
https://www.jri.co.jp/page.jsp?id=35276 (Feb27.2022)
13) Yamamoto S, Arano H, Masutani E et al(2017).Decision making regarding the place of end-of-life cancer care: The burden on bereaved families and related factors. Journal of Pain and Symptom Management,53(5),862-870.

日本語学習者と母語話者の雑談における複合動詞の使用について

氏名：エルガショフ・ホリミルザ

タシケント国立東洋学大学日本語学部

メール先：kholmirzaergashov30@gmail.com

Tashkent state university of oriental studies

Faculty of japanese science department of japanese philology

Graduate Ergashov Kholmirza

Graduate description on the subject " The use of compound adverbs in conversation between learners and native speakers of Japanese"

ANNOTATION

This dissertation is mainly aimed at determining the extent to which Japanese language learners use compound adverbs in communication. At the same time, the process of communication between Japanese speakers was taken into account and comparisons were made.

The dissertation is divided into sections such as introduction, main part and 2 chapters, conclusion and references.

The introductory part of the dissertation deals with the relevance, goals and objectives, scientific and practical significance of this work.

In the main part, the research on compound adverbs that has been done before is considered and briefly classified. While the researchers' work focused mainly on the spiritual types and formal forms of compound adverbs, the author included relevant sections among them in his qualifying work.

The purpose and significance of the dissertation is to provide a basis for foreign Japanese learners, including Uzbek learners, to learn Japanese more easily. At the same time, if each learner is able to use compound adverbs effectively in their communication, speech and written communication will ensure a beautiful and natural outcome.

Researchers from Uzbekistan, China, Indonesia, France, South Korea and Malaysia were involved in the study and participated in the survey. And, of course, Japanese speakers also took part in the survey. This graduate qualifying work was completed with the expected result.

問題提起

日本人は談話の中で、自然に複合動詞を使っていて、綺麗なコミュニケーションになっている。複合動詞を使うことで、表現力が豊かになると思う。日本語学習者は複合動詞をどの程度使っているのだろうか。本研究は、外国人日本語学習者の中で複合動詞の使用率についての調査研究である。

どんな言語でも会話の中で複合動詞を使うと、文章に強さや説得力が感じられる。

日本人は談話の中で、自然に複合動詞を使っている。松田文子は「複合動詞は日本語を豊かにするものである」と述べている。日本語教育の現場では、初級のテキストを調べて見ると複合動詞はほとんど見当たらない。初級が終わった段階、つまり、中級から上級へと進むにつれ、複合動詞を使う読み物が多くなるが、特に「複合動詞」について教えられていない。

しかし、私の経験によると、日本語を学んでいる外国人学習者は、雑談する際に、複合動詞を使っていないのではないだろうか、という疑問が湧いてきた。

日本語学習者が複合動詞を会話の中でどの程度使っているのかについては、先行研究がない。

研究の目的と方法

本研究の目的は、日本語を学んでいる学習者達が普通に会話する際、複合動詞を使っているかどうかを調べることである。

そのために、マイクロソフト・フォームで 45 人の日本語学習者にアンケート調査を行い、日本語能力レベルと来日時期の違いによって複合動詞の使用に差があるかどうかを調べた。

以下では、先ず第２章で、複合動詞をパターンによって分類し、第３章で、アンケート調査の結果を分析する。

アンケート調査とその分析

日本語学習者の複合動詞使用率を調べるため、マイクロソフト・フォームで、日本語学習者にアンケート調査を行った。

アンケート調査は、５つの回答者の属性に関する設問と、10 の複合動詞についての設問からなる。全員で 45 人の日本語学習者に答えてもらった。

まず回答者の属性については、次の通りである。

年齢：20－25 歳の学習者がもっとも数多く 78％で、26－30 歳が 12％、15－19 歳が 10％であった。

出身国：ウズベキスタン 16 人、中国 11 人、インドネシア 4 人、モンゴル 2 人、マレーシア、ベトナム、フランス、アメリカ 1 人、他の国々3 人であった。

日本語能力：N2 レベルを持っている回答者が 41％で、N1 が 22％、N3 が 15％、N4 が 5％。「レベルを持っていないが、自分の日本語能力に自信がある」という選択肢が 12％、「レベルも持っていないし、日本語能力も強くない」を選んだ方が 5％だった。なお、レベルを持っていない方々に理由を聞いてみると、受験したが、不合格だったというのが多かった。日本語の学習期間は３年間以上が 40％で、5 年間以上が 37％、4 年間 12％、2 年間 7％、1 年間 4％であった。

日本滞在期間：1 年間日本に滞在した学習者は 12 人、まだ全く来日したことがない人は 10 人、3 年間が 6 人、6 ヶ月間が 5 人、2 年間が 4 人、5 年間以上が 2 人、3 か月間が 2 人であった。

母語話者の回答グラフ

	1 問	2 問	3 問	4 問	5 問	6 問	7 問	8 問	9 問	10 問

複合動詞使用	**5%**	**20%**	**14%**	**5%**	**11%**	**15%**	**19%**	**11%**	**25%**	**24%**
不使用	95%	80%	76%	95%	89%	75%	79%	89%	75%	76%

母語話者の回答グラフ

	1 問	2 問	3 問	4 問	5 問	6 問	7 問	8 問	9 問	10 問
複合動詞使用	**5%**	**20%**	**14%**	**5%**	**11%**	**15%**	**19%**	**11%**	**25%**	**24%**
不使用	95%	80%	76%	95%	89%	75%	79%	89%	75%	76%

結論

本稿では、学習者の談話における複合動詞使用率について調査した。本研究を 4 章に分けた。それあははじめに、複合動詞のパターン分類、アンケート調査の分析とおわりを含めている。山浦洋一、姫野昌子、山本清隆、影山龍一郎、青木博史、田中衞子の先行研究を見、参考にした。設問は、藤崎彩織の小説『ふたご』（2018）から、複合動詞を含む文を選び、複合動詞の部分を線に置き換えて、そこに、適切と思われる動詞を記入してもらった。日本語学習者の複合動詞使用率を調べるため、マイクロソフト・フォームで、日本語学習者にアンケート調査を行った。アンケート調査は、５つの回答者の属性に関する設問と、10 の複合動詞についての設問からなる。全員で 45 人の日本語学習者に答えてもらった。45 人の学習者を対象にアンケート調査を行ったところ、回答に複合動詞を使った日本語学習者は、１５％だけで、85%は用いていないことが分かった。このことから、日本語学習者の複合動詞使用率は高くないということが分かった。

今後の課題

複合動詞が含まれた会話と文についての調査を、45 人の学習者に行い、複合動詞はほとんど使用されていないということが分かった。しかし、その理由は明らかになっていない。

この問題点をどのように解明するかについては、今後の課題としたい。また、複合動詞の使用率を高めるための対策、方法についても、広い面から検証してゆきたい。

参考文献

1) 藤崎彩織（2018）『ふたご』　株式会社　文藝春秋

2) 『明鏡国語辞典第二版』（2010）大修館書店

3) 『日本語語感の辞典』（2011）岩波書店

4) 山浦洋一（1987）「『複合動詞』外国人のための日本語例文・問題シリーズ４」　荒竹出版株式会社

5) *山本清隆*（1983）複合動詞の構造とシンタクス、『ソフトウェア文書のための日本語処理の研究５－計算機用レキシコンのために－』情報処理振興事業協会

6) 姫野昌子（2003）『複合動詞の構造と意味用法』有限会社ひつじ書房

7) ココ出版（2014）「日本語/日本語教育研究５」

8) Ho Chi Ming　（2010）「現代日本語における複合動詞組み合わせ」有限会社笠間書院

9) 田中衞子（2003）「類義複合動詞の用法一考 ―日本語教育の視点から―」愛知大学

10) 国立国語研究所（2012）「動詞＋動詞型複合動詞・複雑動詞の研究文献一覧　（動詞連用形接続の複合動詞、テ形接続の複雑述語を含む）」影山班プロジェクト日本語レキシコン

11) 青木博史（2012）「複合動詞の歴史的変化」九州大学

12) https://www.google.com/search?q=%E5%BD%B1%E5%B1%B1%E7%A0%94%E7%A9%B6%E8%80%85&rlz=1C1GCEA_enUZ937UZ937&oq=%E5%BD%B1%E5%B1%B1%E7%A0%94%E7%A9%B6%E8%80%85&aqs=chrome..69i57.7008j0j15&sourceid=chrome&ie=UTF-8

13) https://ci.nii.ac.jp/

14) https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-89476-691-4.htm

15) https://ci.nii.ac.jp/naid/120001935944

16) https://www.kinokuniya.co.jp/f/dsg-01-9784894766914

17) https://www.kinokuniya.co.jp/f/dsg-01-9784894766914

18) https://ci.nii.ac.jp/naid/120001935944

19) file:///C:/Users/User/Downloads/1343-4586-2011-16-73.pdf

20) file:///C:/Users/User/Downloads/02-MatsudaF-re051118-final.pdf

外国につながる子どものアイデンティティ形成を促す継承スペイン語教育の検討
ー目標論に着目してー
A Study of Spanish-heritage language education to promote identity formation of Children with foreign backgrounds -focusing on the theory of educational objectives

金箱　亜希　Aki Kanebako
愛知県立大学大学院人間発達学研究科修士課程　日本

Abstract
This paper analyzes the educational practice of teaching heritage language in “LIBREO”, an Spanish-heritage language classroom for children with South American roots in Japan, focusing on its objective theory. This is an example of an educational practice that aims to develop the linguistic aspect of the heritage language while promoting the formation of identity for children from first to third grade of elementary school. In setting the educational objectives, the following four factors were taken into consideration: "understanding the child", "cooperation with parents", "contextual needs of the child" and "systematic educational objectives setting”. The three principles are 1) to be set by teachers who has the professional competences in cooperation with parents; 2) to be set specifically at the intersection between the systematics of children's lives, research, and culture and the process of children's development and 3) to be set in a concrete and scientific way based on a solid understanding of children and interpretation of subject matter. As a result of this educational practice, children have achieved the objective of promoting identity formation "recognizing one's own physical characteristics, capacity, and preferences" and the language objective of "explain their own identified characteristics in Spanish”. Goal setting in a classroom with children of different ages and with diverse language levels will be introduced with practical examples.

キーワード
外国につながる子ども、アイデンティティ、継承スペイン語、目標論、SDGs、授業づくり、教育方法、カリキュラム

1. はじめに
2015 年 9 月、国連サミットにおいて「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030 年を年限とする 17 の持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）が採択された。その中でも、目標 4 の「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」では、教育における特別なニーズを要する子どもを含むすべての子どもや大人が平等に教育を受けられる世界をつくるという達成目標が掲げらえた。そしてそれを達成するため「子ども、障害及びジェンダーに配慮した教育施設を構築・改良し、すべての人々に安全で非暴力的、包摂的、効果的な学習環境を提供できるようにする」などの 4 種類のターゲットが設定された。そこでは、すべての子どもが安全で、暴力のない、だれも取り残されないような学習のための環境を作ることが推奨されている。

教育現場においては、特別なニーズを要する子どもの存在の一つとして移民の子どもたちが挙げられる。ことばや文化の異なる子どもたちへの教育支援は国際的にも問題となっている。では、このような移民の子どもにとって、だれも取り残されないような学習のための環境とはどのようなものだろうか。UNESCO によると、国際的に言語の多様性は脅威にさらされており、世界において 40%の人々が、それぞれが使用する、あるいは理解する言語で教育を受けることができていないことを指摘している（UNESCO、2016）。その結果、子どもの全人格的、教育発達が妨げられ、学びを支える人間的、概念的基盤が崩れてしまうことが研究により明らかにされている（Cummins、2001）。つまり、外国につながる子どもたちの理解できる言語で学習できる環境を用意することが、質の高い教育には欠かせないといえる。

日本でも、1990 年に改訂された「出入国管理及び難民認定法」の施行を皮切りに、中南米から「日系人労働者」が多く来日するようになり、それに伴い、学校生活に必要な日本語能力が十分に身についていない外国につながる子どもたちが日本の学校に在籍するようになった。そのため、学校現場では日本語が分からない子どもたちへの日本語指導と、子どもたちが持ち込む母語や母文化への対応に追われた。しかし、当時の国レベルの施策としては、子どもたちの母語や母文化に対応するものというよりは、日本語指導に重点化されていった。そこでは、「いかに効率的に日本語を教え込むか」（高橋、2015、p.330）という同化政策的な日本語指導がとられていた。

子どもたちがすでに習得している母語や母文化に対しても「否定されるか無視され」（太田、2000、p.184）、母語を使って教育を受ける機会や母語の力の維持・伸長への配慮は見られなかった。これは、子どもの教育上の発達のために母語の存在が重要だとは捉えられていなかったことに起因するものであると推察される。

しかし、近年では、母語は、「子どもの十全な人格形成および教育上の発達のために重要」（塚原、2010、p.69）という位置付けが与えられ、研究者や実践家の間では、母語の維持・伸長の重要性が認識されている。一方で、近年の外国につながる子どもたちは、日本生まれ、日本育ちの子や母語が確立する前の幼児期に来日する子、国際結婚で保護者の母語が異なり、どちらのことばも母語となるような多様な言語背景の子どもが増えている。このような言語的に多様な子どもたちにとっては、母語というより継承語という概念が当てはまる。継承語とは、保護者の母語であり、子どもにとっては保護者から継承することばである。

継承語は母語と同様に子どもが一番はじめに覚えることばである。しかし、言語形成期前半の 4～8 歳では、学校や社会で使われることばが優勢になり、継承語は失われる傾向がある（中野、2017）。日本において継承語を話す子どもの多くは、南米出身の保護者をもつ日本生まれの子どもたちである。1990 年代に来日した中南米からの「日系人労働者」の長期滞在、定住化に伴い増加したこのような継承語を話す子どもたちは、家では保護者の母語・母文化で生活し、家の外では、日本語・日本文化で過ごす環境で生活している。しかし、母語と同様に、学校教育現場において子どもの継承語維持・伸長への支援は、一部の自治体を除き行われていない。

このような状況の中で、文科省は 2019 年に「外国人児童生徒受入れの手引き」を発行した。そこでは、子どもの母語、母文化にかかわるものとして「継承語」を位置付け、

それを尊重し習得することを促進するなど、これまでの同化政策的な日本語指導とは異なり、子どもたちが継承語を学ぶことが重要であるという認識を示し始めている。しかし、これはあくまでも、日本語の習得へとスムーズに移行するための手段として継承語が位置付けられているだけで、必ずしも公教育において子どもの継承語の保持・伸長が重要であることを示しているものではない。

他方で、このような継承語に対する理解不測のみが継承語の保持・伸長するための教育の普及を阻んでいるわけではない。継承語に対する考え方が理念的なものに留まり、具体的な継承語教育の方策、つまりその教育環境や教育方法に関する方策が示されていないことも問題の一因であることが多くの研究で示されている（中野、2017；近藤、2019)。

まず前者について、国内外の母語・継承語教育の理論と実践を検討してきた中島和子は、継承語を教える場所がない、時間が足りない、教える先生がいないの「ないない尽くしの教育」(中島、2012、p.12）と揶揄されるように継承語を十分に教えられるだけの教育環境の整備が不十分なことを研究において指摘している。

さらに、教育方法に関しては、継承語を教えるプログラムの作成という教育課程上の問題ある。子どもたちの年齢差、発達段階の違い、継承語の力の幅により、継承語の力の到達目標を明確に設定することができず、プログラムの作成や計画的な教育実践が難しいことが指摘されている（中野、2017)。つまり、多くの継承語実践では、目標設定のために何を考慮するべきなのかが明らかではない状況で指導が行われていることが推測される。

しかし、言語形成過程にある幼児期・学齢期の子どもへの継承語の教育プログラムへの解明は喫緊の課題である。中島は、この時期に子ども達の継承語が後退すると、その後の継承語の力が伸び悩み、日本語が不十分な保護者とのコミュニケーションがとれない状況に陥り、保護者は子どもに自分の価値観や倫理観、自分の文化を伝えることができなくなると指摘している（中島、2012)。また、子どもたちも保護者に自分の気持ちや考えを伝えることができなくなり、情緒不安定になり、アイデンティティが揺れる傾向がある。

このように、継承語教育は、保護者とのコミュニケーションツールとしての継承語の育成だけを目的とするのではなく、子どもたちが自分のルーツを受け止めアイデンティティを形成する役割もある。よって本稿では、まず、日本における継承語教育の現状を把握し、先行研究を中心に目標を設定する際に考慮されている要素を検討していく。

2. 継承語教育の現状と課題

中島(2017)は、継承語とは「親の母語、子どもにとっては親から継承する言語」(p.2)であり、「母語と同じように最初に覚える言語ではあるが、現地語に押されてフルに伸びない言語で、主に家庭で使用する言語、そして他人や社会から自分の継承語がどう見られるか、つい敏感に反応してアイデンティティがゆれる言語」(p.5-6）だと述べている。また、米国のラテン系住民の英語とスペイン語のバイリンガリズムを専門の研究者である Valdéz（2001）は、「継承語学習者とは、英語以外の言語が話される家庭で育ち、その言語を話すことができるか、あるいは少なくとも聞いて理解でき、英語とその言語においてある程度バイリンガルである者」(p.38）と定義している。つまり、継承語を学ぶ子

どもたちとは、学校や社会で使われている言語と家庭で話される言語をある程度理解することができるものの、自分と他者の差異に対して敏感である子どもたちといえる。そして、このような子どもたちが、家族につながることばや文化を学ぶ教育を継承語教育という。しかし、継承語教育にも次のような課題がある。

1 つ目の課題としては、継承語を学ぶ子どもたちが、いかに継承語学習の価値を見出せるかということである。継承語はマイノリティ言語であるため、継承語と日本語との社会的格差が大きい場合、学習者が継承語に対してマイナスの価値付けをする傾向がある（中島、2017）。そのため、学習者が継承語を肯定的に捉えるような授業作りが求められる。

2 つ目の課題として、子どもたちにどのような継承語の力を身につけさせるのかという問題である。家庭で育つ力は、話す力と聞く力であり、読み書きの力は家庭では育ちにくい。また、話す力や聞く力も、家庭での継承語使用度や保護者の努力などにより異なるため、子どもたちの継承語はアンバランスな継承語となることが多くの研究で示されている（中野、2017）。そのため、子どもたちの話す、聞く、読む、書くの 4 技能の到達目標を子どもの文脈に即して見据えることが期待される。

3 つ目の課題として、継承語が母語や外国語と違い、アイデンティティと深い関係があることが挙げられる（川上、2019）。継承語は、家族のコミュニケーションとして必要不可欠なことばであり、継承語の喪失は、家族間でのコミュニケーションの断絶、子どもの情緒不安定、継承語や自分のルーツそのものへの否定的な感情などを引き起こし、アイデンティティの育成に深く影響を与える。そのため、継承語とアイデンティティの両方を育成するための目標をどのように設定するかが肝要となる。

つまり、継承語教育の特徴としては、親子のコミュニケーション、アイデンティティの形成に深くかかわる教育であり、課題としては、継承語学習の価値づけ、継承語の言語的到達点の設定、継承語とアイデンティティの両者の育成を統合した目標設定の難しさといえる。

これらの課題を踏まえて、国内における継承語教育を概観する。多くの教室で実践されているのが、福岡（2011）に代表される読む力、書く力の習得を目標とした実践である。前述したように、家庭使用をベースとする継承語は、聞く・話す力は何とか発達しても、読み・書きの力の発達は遅れる傾向にある。そのため、福岡らは文字の習得から基本的な語彙や構文を学習させ、読み書きの力を発達させることを目標としている。

また、近藤(2017)は、簡単な会話は可能だが読み書きは未習得であり、さらに継承語に対してマイナスの価値づけをしている子どもに対しての実践を行っている。近藤は、子どもの「聞くことが得意」というプラス面を活用することにより、子どもの継承語に対する肯定的な態度の育成、読む力、書く力の習得、さらに話す力の向上も目標として掲げている。

これらの 2 つの実践では、家庭で習得され難いとされる読み書きの課題に焦点化することによって、個々の継承語のアンバランスさをバランスの取れたものにしていく試みであるといえる。しかしながら、継承語を通して子どもが自分のアイデンティティ形成するという目標が必ずしも考慮されているとは言い難い。

一方で、田・櫻井（2017）の実践は、「保護者」、「中国の行事・文化」、「学校行事・教

科学習」の関わりを取り入れ、実体験と結び付けた子ども中心の授業を行い、子どもたちの自尊感情、アイデンティティを育てること、中国語での読み書きの基盤を作ることを目標としている。必然的な文脈の中で継承語や母文化を学ぶことにより中国語の読み書きの習得のみならず、子どもが学習の価値を見出せるように工夫されている。加えて、中国の行事や文化の体験を通してアイデンティティを育成することも考慮されている。しかし、中国語での読み書きの基盤を作るという言語的な目標とアイデンティティの育成のための目標がそれぞれ独立して設定されており、両目標のつながりが具体的に示されていない。

このように、継承語教育の目標設定においては、言語面の目標に偏重したり、文化と言語を切り離した目標設定の状況がみえてくる。そこで、本稿では、多様性、人権、共生など普遍的なテーマのもと、継承語の習得及び主体的にアイデンティティを形成する力の獲得を目標として授業づくりを行っている LIBREO に着目し、その目標設定について検討する。

LIBREO は、愛知県で活動しているグループであり、ペルー、ベネズエラ、スペインにルーツをもつ 20 名の子どもが、週に 1 度、継承スペイン語を学ぶ場となっている。主な指導者は 4 名[36]で、愛知県立大学の大学生や卒業生がボランティアとして参加している。LIBREO 設立のきっかけとなったのは、外国につながる子どもたちが継承語の力を失い、親子間でのコミュニケーションがとれない状況を目の当たりにしたことによる。このような子どもの中には、親子で理解しあえる共通の言語がないため、自分の感情や悩みなどを親に伝えられなくなり、自分のルーツを恥じたり、保護者に対して尊敬の念がもてなくなったりすることで、生きづらさを抱えていた。そこで、子どもたちに家庭内コミュニケーションを保障し、自分自身のアイデンティティを確認できるような場を作ることの必要性を感じ、継承スペイン語教室 LIBREO が設立された。

そこで、本稿では、LIBREO の実践をもとに、外国につながる子どもたちへの継承語教育において、アイデンティティの形成を促しつつ、言語的側面の発達も考慮した授業の目標設定のあり方について考察する。

3. 目標設定

多様な継承語レベルの子どもたちがいる LIBREO では、次の 4 つの要素「子ども理解」「保護者との連携」「子どもの文脈に応じたニーズ」「系統性のある目標設定」を考慮し目標を設定している。

「子ども理解」とは、年齢、入国年齢、滞在年数、家庭内言語の使用度などから、子どもたちの言語発達レベルや言語環境を把握することであり、「保護者との連携」とは、子どもに学ばせたい継承語の力を保護者と議論し授業に反映することである。そして、「子どもの文脈に応じたニーズ」とは、子どもたちの継承語を学ぶ動機や学びたい内容、

[36] ペルーで教育学部を卒業し小中学校でスペイン語語学相談員として勤務している者、継承スペイン語教室に通う子どもたちの多くが通う公立小学校の教諭であり、日本語指導が必要な子どもたちに日本語指導を行う者、外国につながる子どもをもつペルー国籍の保護者、そして、県内の小中学校を巡回しているスペイン語語学相談員の 4 名。

興味・関心を理解することであり、「系統性のある目標設定」とは、教室に通う 9 割の子どもたちがルーツをもつペルーのナショナルカリキュラムを参考として、子どもたちの言語発達に即した目標を設定していくことである。

LIRBEO では、このような日本における目標設定の理論[37]を踏まえた上で、これらの 4 つの要素を基に、継承語教育の目標設定における 3 つの原則を導き出した（表 1 を参照）。3 つの原則とは、①保護者との協力の下に専門的力量に支えられた指導者が設定すること、②子どもの生活現実・科学・文化の系統性と子どもの発達の順序性の交点で具体的に設定すること、③しっかりとした子ども理解、教材解釈のもと具体的、科学的に目標を設定することである。

表 1.継承語の目標設定における理論と要素

理論	要素
①保護者との協力の下に専門的力量に支えられた指導者が設定すること	保護者との連携 系統性のある目標設定
②子どもの生活現実・科学・文化の系統性と子どもの発達の順序性の交点で具体的に設定すること	子どもの文脈に応じたニーズ 子ども理解
③しっかりとした子ども理解（発達の順序性）、教材解釈（教材の系統性、指導過程の明確化）のもと具体的、科学的に目標を設定すること	子ども理解 系統性のある目標設定

①に関しては、継承語の発達に関する理論的な知見を踏まえながら、保護者とのニーズとの兼ね合いの中で目標を設定することである。具体的には、子どもの言語発達理論と継承語特有の言語発達理論とを踏まえ、保護者が子どもに身につけさせたいと考える力を話し合いながら、年齢に合わせた目標を設定していく。

②に関しては、子どもたちの日本語とスペイン語の言語発達レベルや生活環境、学習スタイルなどを把握した上で、子どもたちの興味・関心や既有知識を認識し、それらを生かした目標を設定することである。子どもの言語発達の把握に関しては、カナダ日本語教育振興会（2000）が開発したバイリンガル会話アセスメント（以下、OBC）を活用して、日本語とスペイン語の言語発達状況をさまざまな側面から把握する。

③に関しては、教室に通う 9 割の子どもたちがルーツをもつペルーのナショナルカリキュラム（Currículo nacional）を参考とし、子どもたちの発達に即した目標や教材を設定することである。ナショルカリキュラムでは「コンピテンシー（competencia)」、「能力(capacidad)」、「学習スタンダード(estandares de aprendizaje)」、「パフォーマンス(desempeño)」の 4 つが定義されている（図 1 を参照）。

LIBREO でも、この 4 つの定義を踏まえて言語と文化を統合した目標を設定している。具体的には、学習テーマに沿った課題に対処するために使用する知識、スキル、態度を「能力（capacidad)」として選択し、グループ活動や一斉授業の中で、これらの能力を

[37] 全国到達度評価研究会(1989)『だれでもできる到達度評価入門』あゆみ出版。

活用や応用しながら行動に移す能力を「パフォーマンス(desempeño)」として定めている。

図１.ペルーナショナルカリキュラム　　表 2.対象児童の実態把握（筆者作成）

この「パフォーマンス(desempeño)」に記述されている行動は、各学年で期待される達成レベルが記載されている「学習スタンダード(estandares de aprendizaje)」を参考にして決めている。

しかし、ナショナルカリキュラムにおける「学習スタンダード(estandares de aprendizaje)」は、あくまでもスペイン語を母語とする子どものに対して、学校教育の場で使用されることが想定されて作成されている。一方で、LIBREO の子どもたちは、日本生まれ、日本育ちの子どもが多いため、スペイン語は子どもたちにとって、母語というよりは継承語となり、子どもたちの継承語レベルは多様となる。その上、授業回数も授業時間の制限もある LIBREO では、扱える内容が限られてくる。そこで、母語話者の子どもたちと同じようなレベルまで継承語をもっていくことを目標するのではなく、子どもたちの言語レベルに即した目標設定をし、家庭でのコミュニケーションやアイデンティティを形成していくのに十分なことばの力を身につけることを目指し内容を選択した。

仮名	出生地	語彙	OBC による会話力の全体評価
Ana	ペルー生まれ	94%	日常的な内容の会話はスムーズにこなせる。認知要求度の高いタスクは不十分
Miguel	日本生まれ	0%	言語による応答が困難。沈黙、「はい」「いいえ」だけの応答、単語レベルの応答がほとんど
Enrique	日本生まれ	40%	2 語レベルで、ある程度のコミュニケーションができる
Sara	日本生まれ	60%	単文レベルでの会話が可能。文法面（動詞、形容詞の活用、助詞の選択）の習得が不十分
Aida	日本生まれ	40%	2 語レベルで、ある程度のコミュニケーションができる
Sonia	日本生まれ	27%	2 語レベルで、ある程度のコミュニケーションができる
Tina	日本生まれ	74%	日常的な内容の会話はスムーズにこなせる。認知要求度の高いタスクは不十分
Sergio	日本生まれ	46%	単文レベルでの会話が可能。文法面（動詞、形容詞の活用、助詞の選択）の習得が不十分
Raul	日本生まれ	58%	単文レベルでの会話が可能。文法面（動詞、形容詞の活用、助詞の選択）の習得が不十分

4.　授業構造

①対象児童の実態把握

授業の対象となる児童は小学校１年生から３年生の９名の児童で異年齢のクラスである。ほとんどの子どもたちが、日本生まれ、あるいは幼少期に来日し日本の保育園や幼稚園に通っていた経験があり、現在は公立の小学校に在籍している。子どもたちのスペイン語の語彙力や会話力のレベルは、前述した OBC を使用して把握した。(表２を参照)また、子どもとの対話を通して生活環境や言語環境、学習スタイルなどを認識した。

日本語の力に関しては、ペルー生まれで乳児の特に来日したものの未就園であった Ana を除いて、聞かれている質問を理解することができ、生活言語を用いた日常会話には困らないレベルであった。語彙に関しては、よく使われる語彙は習得しているものの、低頻度語彙の習得は進んでいないことが明らかになった。具体的には、「目」は分かるが「まつげ」は答えられない、「木」は分かるが「枝」は答えられない様子が見られた。

一方でスペイン語では、聴解力においては、子どもの多くが年齢や誕生日、友達との

遊び方など、教師から聞かれている質問を理解できているものの、語彙力や会話力において少なからぬ差があった。9 名のうち 8 名が日本生まれであるものの、単語レベルで応答する子ども、2 語レベルで応答する子ども、単文レベルで応答する子ども、日常的な内容の会話はスムーズにこなせる子どもがいた。また、単語レベル、2 語レベル、単文レベルの子どもは、スペイン語と日本語を混ぜて話す傾向がみえた。

②授業目標

OBC の評価から、子どもたちの語彙の少なさやスペイン語の質問に対して日本語で応答するといった二言語の分化に課題を抱えていることを把握した。また、普段の子どもたちの様子から、子どもたちが継承語や自分のルーツをマイナスに捉えている姿をとらえていた。具体的には、子どもたちが日本語に比べて継承語を話す際に、恥ずかしそうに小さな声になったり、間違った継承語を話すことを怖がり「分からない」と言って自分の気持ちや考えを表現しない様子がみられた。

そこで、授業テーマをアイデンティティとし、「自分の身体的特徴、能力、嗜好などを認識し、他者との違いに気づき、それをスペイン語を使って表現すること」を目標として掲げた。この目標には、「子どもたちが自分の身体的特徴、能力、嗜好などを認識し、他者との違いに気づくこと」というアイデンティティ形成を促す目標と、「認識した自分の特徴をスペイン語で伝えること」という言語面の目標を統合した形で設定された。つまり、子どもたちが継承語であるスペイン語を肯定的に捉え、自分の意見をスペイン語で表現でき、自分自身を価値のある人間として認識する姿を企図している。

5. 授業実践

授業の流れは、「ゲーム」、「読み聞かせ」、「テーマの活動」、「振り返り」とした。この流れは、ゲームで楽しみながら語彙を増やし、読み聞かせで単元のテーマに興味を持たせ、その後、対話や工作などを通して、テーマについて考えを深め、最後に学んだことを振り返ることが企図したものである。

まず、ゲームでは、身体的特徴や性格に関する語彙や表現を学ぶとともに、聞いた情報を正確に理解したり、意味を推測する力を身につけさせることを意図した。OBC の結果から、子どもたちの語彙の少なさが課題として挙がっていた。また、普段の様子から子どもは、自分の知っていることについては積極的に会話に参加しようとする様子がみられた。そこで、子どもにとって身近な内容である動物をテーマとして、大きさ、色、身体的特徴、得意さ、好みに関する語彙や表現を身につけさせることを企図した。具体的には、グループの中の一人が 1 枚動物カードを引き、そのカードを頭の上に置き、他の子どもたちは、カードを引いた子どもにその動物の特徴をスペイン語で伝えていく。それを参考にしながら、頭の上にカードをもっている子どもがカードに描かれている動物を推測して当てるゲームである。子どもたちは、「茶色」「肉食動物」「足が速い」など動物の特徴をスペイン語で伝えることができただけでなく、「肉食動物」のように、グループの他の子が分からないことばに関しては、違うことばで言い換える様子もみられた。

次の読みきかせでは「私のすきなところ（*Cosas que me gustan de mí*）」という絵本を使用した。この絵本は、主人公のうさぎが、自分の身体で好きな部分、自分がすきな

こと、自分がどういう性格で、何が心地いいと感じているかを述べていく物語である。イラストも豊富なため、スペイン語の語彙に問題を抱えている子ども、イラストから内容を推測できる教材でもある。また、保護者や子どもとの対話から、家にはスペイン語の絵本がなく、小さいころに読み聞かせをしてもらった経験がある子どもはほんのわずかであった。つまり、文字や本などの対象物との関わりの薄さが明らかになった。そこで、読み聞かせでは、子どもたちが本を心から楽しむこと、そして、教師の読み聞かせを通して、主人公の特徴をや能力、嗜好を理解し、自分の特徴との違いに気がつくことを目標とした。

例えば、教師が読み聞かせ中に、「このウサギは、スケートボードやバスケットボールが得意って書いてあるけれど、みんなは得意かな」と声をかけると「Yo, fútbol(僕はサッカー)」「Yo puedo dibujar bien(私は絵が得意)」など自分に結び付けて考えている様子が見られた。

読み聞かせの後は、大型の人型パズルを黒板に貼り、物語の主人公ウサギの特徴を個々のパーツに教師と子どもが記入していく活動を行った。その後、教師は、子どもたち一人一人に人型パズルを配布し、それぞれのパーツに自分の特徴や好きなこと、何を心地いいと感じるのかを書くように指示をした（図２を参照)。ここでは、読み聞かせで理解した情報を他者に伝える力を養うこと、さらに、継承語や出自を含む自分の特徴を肯定的に認識することを狙いとしてる。

それぞれのパズルが完成した後は、クラスメートとペアになり、自分が作成したパズルを見せながらスペイン語で発表する活動を行った。この活動を通して、ペアの子どもの発表を理解すること、さらに、自分の特徴と友達の特徴との違いに気がつくことを意図した。発表の際に、話すことが得意ではない子どもを考慮して、「私のすきな・・・（Me gusta…)」という例文を提示し、自分の特徴を発表するように促した。子どもたちは、自分のペアの子だけでなく、教師や他のクラスメートにも積極的に話しかけ、自分の特徴を話す様子がみられた。

最後に、授業についての振り返りを行った。振り返りでは、自分の身体的特徴、能力、嗜好などをクラスメートにスペイン語で発表することができ、他の人の特徴について気づき、違いを認めることができたかを確認した。具体的には、「今日は何について学んだのかな」という教師の問いかけに対して、多くの子どもがスペイン語で自分の考えや意見を発表することができた。子どもたちは授業で学んだこととして「私は、私の心がすきです。」「2 つのことばが話せるので、お父さんやお母さんともっと話したいです」「最初は、ぼくの好きなところや得意なことは全く思い浮かばなかったけれど、先生や友達と話していたらたくさんあることが分かりました。」などの意見が聞かれた。ここから、「自分の身体的特徴、能力、嗜好などを認識すること」というアイデンティティ形成を促す目標と、「認識した特徴をスペイン語で伝えるという」言語面の目標が子どもたちの中で両立して獲得されていたといえる。

6.　おわりに

本稿では、継承スペイン語教室 LIBREO における、子どもたちのアイデンティティの形成と言語的側面の発達も両立する目標設定の方策について実践的に考察してきた。継承語教育の目標設定においては、これまで継承語学習の価値づけ、継承語の言語的到達点の設定、継承語とアイデンティティの両者の育成を統合した目標設定の難しさという課題が見られた。それに対して、LIBREO では「子ども理解」「目標の系統性」「保護者の協力」「子どもの文脈」の 4 要素を踏まえて導き出した 3 つの原則を軸に目標を設定しこれらの課題を克服していた。具体的には、子どもたちの言語発達、生活環境、学習スタイル、興味を把握し、保護者との連携のもと、ことばと文化を切りはなさない目標を設定した。さらにペルーのナショナルカリキュラムを参考にして、子どもの言語の発達に即した目標を設け、その目標を達成するために必要とされる能力やパフォーマンスも具体的に示されていた。

多様な背景や言語レベルの子どもがいる継承語教育では、言語的側面と文化的側面を結び付けた目標設定をするのは容易なことではない。しかし、言語面の目標に偏重したり、文化と言語を切りはなしたりするのではなく、両者を統合した目標を設定することが、より優れた継承語教育の実践を生み出す可能性がある。

【参考・引用文献一覧】

・太田晴雄編（2000)『ニューカマーの子どもと日本語の学校』国際書院。
・カナダ日本語教育振興会(2000)『子どもの会話力 の見方と評価ーバイリンガル会話テスト（OBC)の開発ー』カナダ日本語教育振興会。
・川上郁夫（2019)「国境を超えた子どもの異言語・異文化の壁」近藤ブラウン妃美・坂本光代・西川朋美（編)『親と子をつなぐ継承語教育―日本・外国にルーツを持つ子ども』くろしお出版、pp.224-237。
・近藤ブラウン妃美・坂本光代・西川朋美（2019)『親と子をつなぐ継承語教育―日本・外国にルーツを持つ子 ども」くろしお出版。
・近藤美佳（2017)「児童 T の継承ベトナム語学習 の軌跡 ： ベトナムにルーツを持つ子どもの ための継承語学習カリキュラム考案に向けて」『母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究』13, pp.113-131。
ジム カミンズ著・中島和子訳(2001)『言語マイノリティを支える教育』、慶應義塾大学出版会。
全国到達度評価研究会(1989)『だれでもできる到達度評価入門』あゆみ出版。
高橋朋子(2015)「日本の母語教育の現状と課題」『2015 CAJLE Annual Conference Proceedings』, pp.330-339。(2022 年 2 月 26 日取得)
田慧昕、櫻井千穂（2017)「日本の公立学校における継承中国語教育」『母語・継承語・バイリンガル教育（MHB） 研究』13、pp.132-155。

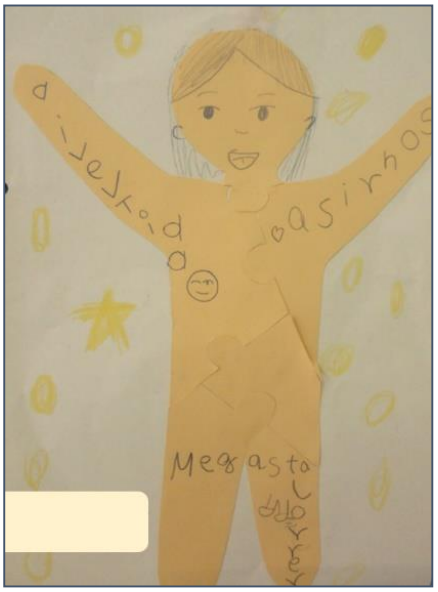


図 2 人型パズルのワークシート

- 塚原信行(2010)「母語維持をめぐる認識と実践:ラテン系移民コミュニティと日本社会」『ことばと社会』12 pp. 48-77。
- 中島和子(2012)「地域で母語教育を行う上で役立つこと」平成 24 年度母語教育支援研修会研修資料 兵庫県 国際交流協会。
- 中島和子（2017)「継承語ベースのマルチリテラシー教育：米国・カナダ・EU のこれまでの歩みと日本の現状」『母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究』13、pp. 1-32。
- 中野友子（2017)「多様性に対応したブルックリン日本語学園での継承語教育の実践」『母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究』13、pp. 33-61。
- 福岡昌子(2011)「外国籍児童のための母語保持教室の実践ー日本と母国を結ぶ国際的人材の育成をめざしてー」『三重大学国際交流センター紀要』6, pp. 127-139。
- 文部科学省（2019)『外国人児童生徒受入れの手引き』(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm 2022 年 2 月 26 日取得)
- Education for people and planet: creating sustainable futures for all;Global education monitoring report, 2016; summary (jpn) - UNESCO Digital Library(http://uis.unesco.org/sites/default/files/documents/education-for-people-and-planet-creating-sustainable-futures-for-all-gemr-2016-en.pdf 2022 年 2 月 26 日取得)
- Ministerio de Educación (2016) CURRÍCULO NACIONAL de la Educación Básica (http://www.minedu.gob.pe/curriculo/pdf/c urriculo-nacional-de-la-educacionbasica.pdf (2022 年 2 月 26 日取得)

The analyzes of scientific research on methods and techniques in expressing the color metaphors in linguistics.

Tilshunoslikda rangni ifodalovchi vosita va usullar tadqiqiga bag‘ishlangan ilmiy ishlarga sharh

Nilufar HUSANOVA,

TDSHU, lingvistika mutaxassisligi

2-kurs magistranti

Maqola annotatsiyasi: Ushbu maqolada tilshunoslikda ranglarni o‘rganilib kelingan bir necha tadqiqotlar sharhlari beriladi. Mazkur maqolani biz lingvokultrologik va tilshunoslikda rang mavzusi doirasida o‘rganilgan ilmiy tadqiqot ishlarini tahlil qilishga bag‘ishladik. Ushu maqolaning tahliliga adabiyot, tarjima, folklorshunoslikda o‘ganilgan tadqiqot ishlariga tayanildi.

Annotation: This article reviews a number of studies that have studied color in linguistics. This article is devoted to the analysis of scientific research in the field of color in linguoculturology and linguistics. The analysis of this article is based on research in literature, translation, and folklore.

Kalit so’zlar: ranglar, qahramon obrazlari, ruhiy xarakteristika, ramziy obraz, konnotativ aspekt, simvolika, rang tasvir, obrazlilik darajasi, leksema, sema, semantik tahlil, rang ifodasi, aloqadorlik.

Key words: colors, characters of heros, mental characterisric, symbolic image, connotative aspect, symbolism, color image, degree of imagery, lexeme, sema, semantic analysis, color expression, association.

Tilshunoslikda ranglarni ifodalash xususidagi ilmiy ishlarda turli xil ilmiy qarashlar, stereotiplar mavjud. Rangni ifodalovchi vositalar, rang mavzusini turli xil yo‘nalishlarda tadqiq qilib kelishmoqda.

Adabiyotlar tahlili rang mavzusini o‘rganishda turli xil yo‘nalish va yondashuvlar mavjudligini ko‘rsatdi. Tadqiq qilingan ishlardan lingvomadaniy yo‘nalishlarda rangni ifodalovchi vositalar, tilda mavjud bo‘lgan rangni ifodalovchi usullar mavzusiga oid ishlar olib borilgan ko‘plab ilmiy manbalarni topishimiz mumkin. Ularni o‘rganish natijasida tadqioqt ishlari har xil yo‘nalishdaligini, xususan lingvikultrologik yo‘nalishda ham tadqiq qilinganligini ko‘rishimiz mumkin.

Ranglar borasida bir rangni har xil ma’nolarda qo’llanilishi, uning ham salbiy ham ijobiy bo’yoqdorlikka ega bo’la olishi, lingvokultrologik jihatdan madaniy qatlamning ajralmas bir bo’lagi va ularsiz ba’zi fikrlarimizni ifodalay olamsligimizga guvoh bo’lamiz.

Rang mavzusini o’zbek tilshunoslik va adabiyotida ham keng o’rganilib kelinmoqda. Rang mavzusi lingvokultrologik jihatidan ham kultrologik jihatidan ham tadqiq qilingan.

S.O‘tanovaning “Alisher Navoiy g‘azaliyotida rang simvolikasining o‘rni” nomli ilmiy ishida ranglar ifodalagan simvollar, ularning tarixi va badiiy adabiyotdagi ifodasi, ranglar va A.Navoiy g‘azaliyotining obrazlar olami, rang simvolikasi va obrazlilik, rang bilan bog‘liq tasvir va badiiy san’atlar xususida fikrlar bayon etilgan. Tadqiqot ishida rang simvolikasi haqida so‘z borganda Anatomy ijodida qora va qizil ranglar yetakchi mavqe egallashi, keyingi o‘rinlarda yashil va ko‘k, oq, sariq ranglardan samarali foydalanganligi haqida fikrlar bildirilgan. A.Navoiy g‘azaliyotida rang simvolikasini tutgan o‘rni borasida to‘xtalib, “ Xazoyin ul-maoniy” asarida 2600 g‘azaldan 31 tasi boshdan- oxir rang simvolikasi asosiga qurilganligini, 1400 dan ortiq g‘azalda rang bilan bog‘liq obrazlilik darajasi namoyon bo‘lganini ta’kidlaydi. Shuningdek, u A.Navoiy qo‘llagan rang ramzlari obrazlilikni vujudga keltirishda ayniqsa, oshiq va ma’shuqaning kechinmalari, hol va kayfiyati haqida tasavvur beruvchi yorqin manzaralar yaratishda muhim o‘rin tutgan,- deydi. [38]

M.Mamadaliyevaning “O‘zbek tilida nominativ birliklarning konnotativ aspekti” nomli tadqiqot ishida sifat leksemlarning, xususan, rang ifodalovchi so‘zlarning konnotativ semalari borasida fikr bildirilgan.

“Sodiqning qizil, ukki ko‘zlari o‘ynab javob berdi” (A. Qodiriy) gapida qizil rangi tahlil qilar ekan – sifat leksema, gapda qizil leksemasida sof sifatiy belgi semasidan tashqari, salbiy baho semasi ham mavjud. Bu sema sof nutqiy sema bo‘lib, konnotativ ma’no hiosblanadi. Qizil leksemasi ko‘z leksemasiga bog‘lanib, salbiy baho anglatmoqda. Agar qizil leksemasi yuz, lola, gul kabi leksemalar bilan bog‘lanib kelsa, ijobiylik semasini anglatishi mumkin. Shuning uchun bu leksemaning qaysi so‘z bilan bog‘lanishi ham uning semalari o‘zgarishi uchun asos bo‘lishi mumkin.”

Shuningdek, tadqiqotda qizil leksemasida salbiy baho mavjudmi yoki yo‘qligini bilish uchun shu leksemaning ma’no tarkibini tahlil etish zarurligi haqida gapirib.

“Qizil - rang, tus, qora, ko‘k, yashil, oq kabi ranglarga qarama-qarshi, jigar rang, pushti kabi ranglarga o‘xshash; yoshlik, qiziqqonlik ramzi; ko‘zni quvontiruvchi, sho‘x rang; sog‘lomlik ramzi (yuzi qizil), go‘zallik ramzi (oqi oq, qizili qizil).Ko‘rinadiki, bu ma’no tuzilishida ijobiiylik semasi ochiq ko‘rinib turibdi. Qizil - qon ranggi, jahl chiqqanlik belgisi (ko‘zi qonga to‘ldi, ko‘zi qizardi), kasallik ramzi (ko‘zi qizil rangga bo‘yaldi), uyalish belgisi (yuzi qizardi), ayriliq ramzi (qizil qonim qoldi sahroda).” Demak, bu so‘zning ma’no tuzilishida salbiylik semasiga ishora ham bor. Bu semalar turli nutqiy vaziyatlarda yuzaga chiqishi mumkin. Shu sababdan bu so‘zni qaysi so‘zga bog‘lanishiga qarab, uning konnnotativ ma’nosi belgilanadi. Shuni unutmaslik lozimki, qizil leksemasining ma’no tarkibi shu

[38] O‘tanova.S. “Alisher Navoiy g‘azaliyotida rang simvolikasining o‘rni”. Kand. Filolog. Nauk: 10.01.03: utv 08.04.2008, 10.01.08 Toshkent: 2007. -138 b.

so‘zning bog‘lanish imkoniyatidan kelib chiqib aniqlanadi. Shu sababli semalar tarkibi qancha murakkab bo‘lsa, nutqiy vaziyatdagi ishtiroki shuncha kengayadi. [39]

N.Jumatovaning “Hozirgi o‘zbek she’riyatida rang bilan bog‘liq ramziy obrazlar” nomli tadqiqot ishida rang bilan bog‘liq ramziy obrazlar tarixi, hozirgi o‘zbek she’riyatida rang bilan bog‘liq ramziy obrazlar, hozirgi o‘zbek she’riyatida ranglar ifodalagan xarakter ko‘rinishlari haqida so‘z boradi.

Muallif uch rang, oq, qora va qizillarni keltirar ekan, ko‘pincha shu uchchala rang olimlarning fikricha eng qadimiy va asosiy hisoblanadi deydi va o‘z tadqiqotida V.Ternerning “Символ и ритуал” [40]nomli tadqiqotiga tayanib, mazkur ranglar borliqni ramziylashtirishda asos bo‘lib, qolgan ranglarning xususiyatlari oq, qizil va qora ranglar xususiyatidan kelib chiqadi va ularni to‘ldiradi, degan fikrni ilgari suradi.[41]

M.Yo.Ro‘ziyevaning “O‘zbek xalq qo‘shiqlarida rang simvolikasi” folklorshunoslik yo‘nalishidagi tadqiqot ishida ranglar bilan mifologik qarashlar mohiyati, ramz tushunchasi va folklorda rang simvolikasi, marosim folklorida rang simvolikasi, shomon marosimlari folklorida rang, marosim qo‘shiqlarida ranglarga munosabat ifodasi, to‘y marosimlari folklorida rang ramzlarining qo‘llanilishi, motam marosimlarida rang va uning ramziy ifodasi, lirik qo‘shiqlarda ranglar badiiy-tasviriy vosita sifatida, lirik qo‘shiqlarda rang ramzlarning semantik ko‘lami, xalq qo‘shiqlarida rang ramzlarning turli tasviriy vositalar bilan aloqadorligi borasida tadqiqot olib bordi[42]

A.A.Abdurahmonov “O‘zbek she’riyatida nur, rang va ruhiyat tasviri poetikasi (an’ana va novatorlik aspektida) mavzusidagi ilmiy ishida rang ifodasining, badiiy-estetik xususiyatlari (an’anaviylik va o‘ziga xoslik), hozirgi o‘zbek she’riyatida rang qo‘llanishining g‘oyaviy-badiiy xususiyatlari, rangning badiiy-uslubiy vazifalari, ruhiyat tasvirida nur va rang uyg‘unligining badiiy talqini kabi masalalar xususuda fikr bildirgan.[43]

Izlanishlarimiz davomida ingliz tilshunosligida rang mavzusiga doir o‘rganilgan tadqiqotlar bilan ham tanishdik.

Jumladan,**R.L.Hamiltonning** “Clour in English: from metonymy to metaphor” (Ingliz tilida rang: metonmiyadan metaforagacha) tadqiq ishida rangli so'zlar majoziy ma'nolarga ega bo'lib, vizual signallardan ko'ra ko'proq narsani ifodalaydi. Bu tasviriy xususiyatlarning ba'zilari yaxshi ma'lum. Masalan, ingliz tilida qora rang evil=yovuzlik bilan, ko‘k rang esa depression=depressiya bilan bog‘lanadi.

---

[39] Mamadaliyeva.M “O‘zbek tilida nominativ birliklarning konnotativ aspekti”. filolog. fan. nomzodi. 10.02.02 Namangan: 1997. – 122 b.

[40] В. Тернер. Символ и ритуал. М. : Наука. -1983.

[41] Jumatova N. “Hozirgi o‘zbek she’riyatida rang bilan bog‘liq ramziy obrazlar”. filologiya fan. nomzodi. 10.01.08. Toshkent: 2000. -126 b.

[42] Ro‘ziyevaning. M. Yo. “O‘zbek xalq qo‘shiqlarida rang simvolikasi” filologiya fanlari bo‘yicha falsafa doktori (Phd). 10.00.08. Toshkent: 2017. -147 b.

[43] Abdurahmonov.A.A “O‘zbek she’riyatida nur, rang va ruhiyat tasviri poetikasi (an’ana va novatorlik aspektida).filologiya fanlari bo‘yicha falsafa doktori (Phd) ilmiy darajasini olish uchun tayyorlangan Dessertatsiyasi . 10.00.02. Farg‘ona: 2018. -167 b.

Ranglarning o'zlari ham tajribaning boshqa sohalari leksikasidan foydalangan holda metaforik atamalarda tasvirlangan, masalan, biz to’q chuqur ko'k haqida gapirganda, fazoviy pozitsiyani tushunamiz. Semantik nazariya uchun metafora ham, rang ham markaziy ahamiyatga ega; bundan tashqari, rang juda samarali metafora sohasi sifatida tan olingan. Shunga qaramay, nisbatan kam sonli asarlar ushbu mavzularni bir xilda ko'rib chiqdilar va hattoki bir nechtasi asosiy bo'lmagan rang atamalarini kiritish o'rniga, asosiy rang atamalariga e'tibor qaratishdi. Ushbu dissertatsiya asosiy va asosiy bo'lmagan rang atamalarini kompleks o'rganish zarurligini ko'rib chiqadi va rangning semantik sohasidagi metafora va metonimiya haqida umumiy ma'lumot beradi. Xaritalash metaforasi loyihasining bir qismi sifatida olib borilgan ushbu tadqiqot I ngliz tarixiy tezaurusining noyob ma’lumotlar manbasidan foydalanib, so‘z boyligini ranglar bilan o‘rtoqlashtirgan va shu tariqa majoziy foydalanishga ishora qiluvchi ma’no sohalarini aniqlaydi. Keyin leksikografik dalillar keyingi rivojlanish yoki ma'no o'zgarishlarini tekshirish uchun Britaniya Milliy Korpusi va Zamonaviy Amerika Korpusida topilgan hozirgi tildagi qanday ifodalanishi taqqoslanadi. Birinchidan, to'yinganlik, ohang va yorqinlik kabi shartlari muhokama qilinadi. Ushbu leksika ko'pincha rang o'zgartiruvchi vazifasini bajaradi va *hayot, hissiyat, haqiqat,* va *axloq* kabi sohalardan rangga o'tishi aniqlandi.

Keyin ranglarning tovush, teginish va o'lchov bilan o'zaro modal bog'lanishlari haqida dalillar keltirilgan. Har bir asosiy rang atamalari o'z navbatida asosiy bo'lmagan rang atamalari tanlovi bilan bir qatorda muhokama qilinadi, bu yerda rang atamalarining qanchalik tez-tez majoziy ma'noda qatnashishini ochib beradi.

Bu ikkilamchi asosiy rang atamalarini o'z ichiga oladi, faqat to'q sariq va bir qator asosiy bo'lmagan rang atamalari bundan mustasno. Ko'rib chiqilgan barcha dalillar rangning majoziy qo'llanilishi metonimiya jarayoni orqali paydo bo'lganligini tasdiqlaydi, garchi ular ko'pincha metafora sifatida kengaytiriladi.[44]

Sh. G’. Qayumxo’jayevaning “ Abe Koboning “ Qumdagi xotin” roomani tarjimasida rang simvolikasining berilishi’ ilmiy tadqiq ishida zamonaviy tilshunoslikda rang simvolikasining o‘rganilganlik darajasi, Abe Koboning “Qumdagi xotin” romanida rang masalasi va uning ifodalanishi, Abe Koboning “Qumdagi xotin” romanida rang masalasiga kirish, Abe Koboning “Qumdagi xotin” romanida rang masalasini ochib berishdagi yondashuvlar, Abe Koboning “Qumdagi xotin” romanida ranglarni qahramonlar tomonidan qabul qilinishi, V. Ro‘zimatov tarjimasidagi Abe Koboning “Qumdagi xotin” romanida rang simvolikasining berilishidagi simmetrik va asimmetrik munosabatlar xususidagi izlanishlar ahamiyatlidir.[45]

---

[44] Hamilton.R.L “Clour in English: from metonymy to metaphor”. US-2016.

[45] Sh. G’. Qayumxo’jayevaning “ Abe Koboning “ Qumdagi xotin” roomani tarjimasida rang simvolikasining berilishi”. T-2014

Xuan Vang (San'at va adabiyot oliy maktabi, Toxoku universiteti) "atirgulrang" va "kulrang" ranglari misolida ranglarning metaforaviy ifodalanishiga doir ilmiy tadqiqot ishida korpus lingvistikaga asoslandi.

Kundalik hayotda odamlar o'zlarining his-tuyg'ulari va fikrlarini boshqalarga tushunarli tarzda yetkazishadi. So'zma-so'z aytilgan iboralar mavjud bo'lsa-da, metaforalardan foydalanish ham muhim ahamiyatga ega. Bu tadqiqot ishida metaforalarni o‘rganishda rangli so’zlarga e’tibor qaratiladi. Xususan, "atirgul" va "kulrang" rang so'zlarini misol sifatida ishlatib, "zamonaviy yapon korpus lingvistika"da o‘rganiladi. Tadqiqotdan ko‘zlangan maqsad metafora ifodasining xususiyatlari va metafora rolini ko'rib chiqishdir. Ushbu tadqiqotda biz korpus bazasida "atirgul" va "kulrang" rangli so'zlarni o'z ichiga olgan metafora iboralaridan foydalaniladi. Tadqiqot natijasida, kundalik hayotda rangli so'z metafora iboralari tez-tez ishlatilishi, yangi hosil qilingan metafora iboralarning unumdorligi yuqori va cheksizligi, shuningdek, rangli metafora iboralarida "vaqtinchalik", "noaniqlik", "o'zgaruvchanlik" va "ba'zi darajadagi izchillik" metaforani rag'batlantirishning ikkita mumkin bo'lgan omili mavjud.[46]

Mazkur mavzuni o’rganishda o’zbek, ingliz, yapon tillari materiallari asosida qilingan ilmiy tadqiqotlarni o‘rganib chiqdik. Shuni xulosa qilib aytish mumkunki, tilshunoslikda rang ifodalovchi so‘zlar obrazlilikni vujudga keltirishda, hol va kayfiyat haqida tasavvur berishda, ranglar orqali salbiylik va ijobiylikni ifodalashda, hozirgi o‘zbek she’riyatida rang bilan bog‘liq ramziy obrazlar, ranglar ifodalagan xarakter ko‘rinishlari, rang va uning metafora bilan bog’liqligi, tarjima masalalarida rang mavzusini o’rganilishida rang ifodalovchi so‘zlardan foydalanilar ekan. Rang ifodalovchi so‘zlar faqat o‘z ma’noda emas, ko’chma ma’noda ham talqin qilinadi. Bu ilmiy ishlardan maqsad, lug‘at qatlamlarida mavjud bo‘lgan ranglar ifodalovchi so‘zlarning qanday holatlarda, nima ma’noda ifodalanishlari tadqiq qilib kelingan ekan. Rang ifodalovchi so’zlar haqidagi ilmiy ishlar adabiyotshunoslik tarjimashunoslik, folklorshunolik yo’nalishlarida o‘rganilib kelingan va ahamiyatli hisoblanar ekan.

Foydalanilgan adabiyotlar:

1. 色彩語メタファー表現に関する研究ー「バラ色」と「灰色」を例にしてー王 軒（東北大学大学院文学研究科）（2014 年 3 月，国立国語研究所）
2. Hamilton.R.L “Clour in English: from metonymy to metaphor”. US-2016.
3. В. Тернер. Символ и ритуал. М. : Наука. -1983.
4. O‘tanova.S. “Alisher Navoiy g‘azaliyotida rang simvolikasining o‘rni”. Kand. Filolog. Nauk: 10.01.03: utv 08.04.2008, 10.01.08 Toshkent: 2007. -138 b.
5.Mamadaliyeva.M “O‘zbek tilida nominativ birliklarning konnotativ aspekti”. filolog. fan. nomzodi. 10.02.02 Namangan: 1997. – 122 b.

[46] 色彩語メタファー表現に関する研究 -「バラ色」と「灰色」を例にして - - 王 軒（東北大学大学院文学研究科）（2014 年 3 月，国立国語研究所）

6. Jumatova N. “Hozirgi o‘zbek she’riyatida rang bilan bog‘liq ramziy obrazlar”. filologiya fan. nomzodi. 10.01.08. Toshkent: 2000. -126 b.
7. Ro‘ziyevaning. M. Yo. “O‘zbek xalq qo‘shiqlarida rang simvolikasi” filologiya fanlari bo‘yicha falsafa doktori (Phd). 10.00.08. Toshkent: 2017. -147 b.
8. Abdurahmonov.A.A “O‘zbek she’riyatida nur, rang va ruhiyat tasviri poetikasi (an’ana va novatorlik aspektida).filologiya fanlari bo‘yicha falsafa doktori (Phd) ilmiy darajasini olish uchun tayyorlangan Dessertatsiyasi . 10.00.02. Farg‘ona: 2018. -167 b.
9. Sh. G’. Qayumxo’jayeva. Sh. G‘. “ Abe Koboning “ Qumdagi xotin” roomani tarjimasida rang simvolikasining berilishi”. T-2014

СУЩЕСТВУЮЩИЕ ПОДХОДЫ К ИЗУЧЕНИЮ СООТНОШЕНИЯ ЗВУЧАНИЯ И ЗНАЧЕНИЯ В ЯЗЫКЕ И В ХУДОЖЕСТВЕННОМ ТЕКСТЕ

Ахбаева Гузаль Базарбаевна

кафедра японоведения Ташкентского государственного
университета востоковедения Ташкент, Узбекистан
+998998396649
axbayevaguzal@gmail.com

Аннотация: в статье рассматриваются существующие зарубежные подходы к изучению звукоизобразительности в языке и тексте. В частности, на какие направления разделялись ученные при решении вопроса. Как назывались отношения связи звука и значения в разные периоды.Затрагиваются вопросы разнородности слов внутри группы звукоизобразительной лексики в языке. Раскрываются особенности интерпретации случаев актуализации единиц фонетического уровня языка в художественном тексте в разных научных направлениях, а также выявляются проблемы расхождения терминологических систем. Указывается на недостаточную информативность некоторых видов анализа фоностилистического компонента художественного текста, предлагаются возможные варианты подходов к исследованию данных особенностей текста.

Ключевые слова: звукоизобразительность; звукоизобразительная лексика языка; фоностилистика художественного текста; функции фоностилистических средств в художественном тексте; анализ литературного текста.

Annotatsiya: Maqolada til va matnda tovush tasvirini o‘rganish bo‘yicha mavjud xorijiy yondashuvlar muhokama qilinadi. Xususan, masalani hal qilishda olimlar qanday yo'nalishlarga bo'lingan. Turli davrlarda tovush va ma’no o‘rtasidagi munosabat qanday nom bilan atalgan.Tildagi tovush-vizual lug‘at guruhidagi so‘zlarning xilma-xilligi masalalari ko‘rib chiqiladi. Badiiy matnda tilning fonetik darajasi birliklarining turli ilmiy yo‘nalishlarda aktuallashuv holatlarini talqin qilish xususiyatlari, terminologik tizimlar o‘rtasidagi nomuvofiqlik muammolari ochib berilgan. Badiiy matnning fonostilistik komponentini tahlil qilishning ayrim turlarining informativligi yo‘qligi ko‘rsatilib, matnning ushbu xususiyatlarini o‘rganishning mumkin bo‘lgan yondashuvlari taklif etiladi.

Kalit so'zlar: ovozli tasvir, tilning ovozli vizual lug'ati,adabiy matnning fonostilistikasi, fonostilistik vositalarning vazifalari, adabiy matnda,adabiy matnni tahlil qilish.

Annotation: The article discusses the existing foreign approaches to the study of sound representation in language and text. In particular, what directions scientists were divided into when solving the issue. What was the name of the relationship between sound and meaning in different periods? The questions of the heterogeneity of words within the group of sound-visual vocabulary in the language are touched upon. The features of interpretation of cases of actualization of units of the phonetic level of the language in a literary text in different scientific directions are revealed, as well as the problems of discrepancy between terminological systems. The lack of informativeness of some types of analysis of the phono-stylistic component of a literary text is pointed out, and possible approaches to the study of these features of the text are suggested.

Key words: sound imaging; sound visual vocabulary of the language; phono-stylistics of a literary text; functions of phonostylistic means in a literary text; literary text analysis.

Проблема связи звука и значения в современном языкознании является одной из фундаментальных. Поэтому по-прежнему актуально изучение взаимосвязи звука и значения, которое своими корнями уходит в далекое прошлое[47].

Звукоподражательная теория (ономатопоэтическая теория) — одна из теорий происхождения языка, согласно которой язык возник в результате того, что человек подражал звуковым (и незвуковым) признакам называемых объектов. Сильной стороной звукоподражательной теории было признание существования первоначальной связи между звуком и значением в словах языка и признание естественного, отприродного характера этой связи. Противники звукоподражательной теории, справедливо критикуя ее за недооценку социальных условий возникновения языка и за абсолютизацию принципа звукоподражания, вместе с тем необоснованно принижали значение звукоподражания и отказывались признать существование звукосимволизма. Исследования 50 — 80-х гг. 20 в. дают веские доказательства в пользу того, что собственно звукоподражание и звукосимволизм играли, наряду с жестом, важнейшую роль при возникновении языка[48].

Изначально этот вопрос рассматривался в теории пения, в медицине и в рамках преподавания языка глухонемым[49].

Первая попытка постановки вопроса о связи звука и значения можно найти в древнеиндийских Ведах. Древние индийцы верили, что существует связь между самой вещью и наименованием. Ученные того времени утверждали, что в звуках слова заключена сущность вещи[50].

Основатель учения конфуцианства Кун-Цзы, считал, что существует тесная связь между звуком и значением и называл эти отношения имя и вещь. При этом первое должно применяться ко второму[51].

Этой же позиции придерживались в древней Греции ученные и мыслители Платон и Сократ. Вопрос ставился о том, что принадлежит ли имя вещи "по установлению" - "тесей" (от гр. 'установление', 'учреждение') или "по природе" - "фюсей" (от гр.'природа', 'естество'), т.е. называют ли слова вещи произвольно и связи между звуком и значением нет, или же слова называют вещи не-произвольно, по природе" последних, и связь между звуком и значением есть, и она непроизвольна. Платон подробно изложил свои взгляды о непроизвольности языкового знака в произведении «Кратил». Он утверждал, что слово есть некое подобие предмета[52].

В период средневековья этот вопрос стал спорным между реалистами и номиналистами. Реалисты придерживались происхождения отприродного характера языковых знаков, обратное утверждали номиналисты. Или их называют еще сторонниками психологизма и антипсихологизма[53].

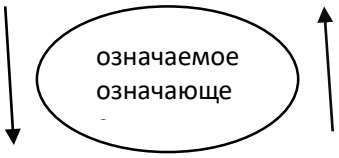
Школа стоиков утверждала, что языковые знаки имеют двухстороннюю сущность, образованная отношением означающего (semainon) — звуковой речи — и означаемого (semainomenon) — значения, интерпретируемых соответственно, как «воспринимаемое»

---

[47] Алиева, С.А., Звукоподражания в контексте проблемы связи звука и значения. М., 2018.168 с.
[48] Ярцева, В. Н. Лингвистический энциклопедический словарь. – М., 1990. 685 С. 165 с.
[49] Якобсон, Р. О. Избранные работы. Звук и значение. - М.: Прогресс. 1985. – 455 с. 32 с.
[50] Воронин, С, В. Основы фоносемантики. - М.: ЛЕНАНД. 2006. 248 с.4 с.
[51] Яхонтов, С. Е. История языкознания в Китае. История лингвистических учении. Древний мир. – М. Наука. 1956. 115 с.
[52] Перельмутер, И. А. Платон история лингвистических учении. Древний мир. 1980. – М. 130 - 156 с.
[53] Якобсон, Р. О. Избранные работы. Звук и значение. - М.: Прогресс. 1985. – 455 с. 58 с.

и «понимаемое». Взгляды стоиков оказали огромное влияние на дальнейшее формирование фоносемантики как дисциплины в языкознании[54].

Существенное влияние на вопрос связи звука и значения и в лингвистике в целом оказал Ф. де Соссюр, который заложил основу Лингвосемиотики в языкознании. Он утверждал, что язык представляет с собой систему знаков абсолютно произвольного характера. Слово является двухсторонней сущностью. С одной стороны-это звуки (материальная сторона), с другой – это смысл (содержательная сторона). Все слова и вообще все языковые знаки представляют с собой единство звука и значения, или иначе говоря единство означающего и означаемого. Схематически это Ф. де Соссюр изображает так[55].



Однако, как утверждает Якобсон Р. О., для Ф. де Соссюра все что относится к фонетике лишено значения и что концепция Ф. де Соссюра сама по себе слишком произвольная, что в ней много противоречии и что ученным давно пора заняться вопросом фонологии (связывающая вопрос звука и значения), а не акцентировать все внимание только на фонетику.[56]

Его идей продолжил С. В. Воронин. Впервые выделил фоносемантику как самостоятельную ветвь лингвистики, целью которой является изучение связи звука и значения в слове. Определил объект (звукоизобразительная система) и предмет ее исследования (звукоизобразительная система в пантохронии), а также обосновал принцип двоякой — непроизвольной/произвольной — природы языкового знака, вносящий существенную поправку в «принцип произвольности» Ф. де Соссюра. Основываясь на исследованиях, выполненных до него, Воронин С.В. подразделяет звукоизобразительную систему на звукоподражательную (ономатопоэтическую) и звукосимволическую. Ввел понятие и определил природу синкинестэмии — базиса звукоизобразительности. Обобщил теорию звукоизобразительности, которая до этого рассматривалась лишь в рамках проблемы сущности языка, проблемы языкового знака, в вопросах экспрессивной речи, детского языка, стилистики и психологии. Он выдвигает мнение о том, что в дальнейшем Фоносемантика может стать частью новой широкой науки Лингвосигносемантики (наука о связи между формой, фонетической либо кинетической, и значением)[57].

При изучении соотношения звучания и значения в художественном тексте следует выделить следующие подходы.

Фоностилистика обозначает два разных направления исследований. В первом значении это подход, исследующий исключительно звучащую речь, описывающий орфоэпическую норму и ее нарушения, особенности произношения, обусловленные экстралингвистическими факторами, разрабатывающий классификацию стилей произношения (например: [Щерба 1974; Гайдучик 1978; Дубовский 1978; Соколова, Гинтовт 2009]). Во втором значении *фоностилистика* – это собственно фоностилистика текста, источниками материала для которой являются жанры книжно-письменной речи

[54] Уфимцева А. А. Аспекты семантических исследовании. – М. Наука. 1980. - 356 с.
[55] Соссор, Ф. де. Курс общей лингвистики. 1998. – М.: Логос. 256 с.
[56] Якобсон, Р. О. Избранные работы. Звук и значение. - М.: Прогресс. 1985. – 455 с.
[57] Воронин, С. В. Основы фоносемантики. - М.: ЛЕНАНД. 2006. 248 с.

и фольклора. Фоностилистика текста, таким образом, делает акцент на «проблеме звукового строения речи как результата сознательного или бессознательного предпочтения одних форм композиционно-звуковой организации текста другим» [Щерба 1974; Гайдучик 1978; Дубовский 1978; Соколова, Гинтовт 2009]). Эти два полюса можно условно определить как «номотетический» и «идеографический». К номотетическому полюсу («от языка к тексту») тяготеют следующие условно выделяемые нами подходы.

Психолингвистический подход. Анализ ассоциативной значимости фонетических единиц имеет богатые традиции в соответствующих разделах психолингвистики [Якобсон, Фант, Халле 1962; Панов 1966; Журавлев 1974; Сомова 1982; Левицкий, Стернин 1989, Прокофьева 1995; Горелов, Седов 1998 и др.] Психолингвистическое направление обращается в основном к различным экспериментальным методикам, выявляя ассоциативные значения звуков вне контекста или в целом тексте, независимо от окружения звука или от его позиции. Психолингвистические методы подразумевают проведение различных типов экспериментов, анкетирования респондентов, получающих задание оценить каждый звук или слово понескольким шкалам (например, большой – маленький, теплый – холодный и др.). Так, одна из методик Э. Сепира заключалась в том, что испытуемым предлагалось несколько пар слов, в каждой из которых им требовалось оценить «первое слово в сравнении со вторым как обозначающее объект большей либо меньшей величины» [Сепир 2002: 327]. Слова отличались только гласными. Основное различие было замечено между словами, содержащими контрастивные пары гласных *a* и *i*: «слово с гласным *a* скорее обозначает нечто большее, чем то же слово с гласным i, e, ε или ä» [там же: 331]. Однако в данной группе исследований все же уделяется недостаточное внимание звуковому и графическому контекстам, которые, как нам представляется, могут существенно искажать «чистый» ассоциативный фон звука. Также мало учитывается контекст творчества писателя, жанровое своеобразие произведения и характер его интертекстуальных связей. В рамках *текстофоносемантического* подхода представлено несколько авторских методик анализа: анализ звукоцветовых соответствий [Прокофьева 1995], метод поэтической идео графии [Казарин 1999], ономатопеический метод [Шляхова 2003] и др. Определение композици-ние ключевых слов текста, в составе которых может актуализироваться тот или иной звукокомплекс, анализ анаграмм ключевого понятия текста, а также интерпретация полученной информации с привлечением биографической информации об авторе и интертекстуальных связей произведения – все это расширяет рамки исследования ассоциативных связей звуков в тексте.

Лингвофоносемантический подход близок двум предыдущим с той лишь разницей, что применение его касается узкой группы маргинальных языковых явлений (обычно звукоподражательной лексики), и его появление было вызвано попыткой оспорить известное утверждение Ф. де Соссюра о немотивированности языкового знака. В сущности, речь идет о направлении в области лексикологии и лексической семантики, исследующей мотивированность слова как знака. Признавая в целом положение Соссюра, лингвисты довольно давно указывали на целый пласт слов, в которых связь формы и содержания является фонетически мотивированной [Скаличка 1967; Сепир 2002 и др.]. Исследования на лексическом материале языков неродственных групп показали, что фонетической мотивированностью обладают слова, обозначающие звучание, эмоциональное состояние, размер и форму, а наименее мотивированы слова с абстрактным значением [Левицкий 1994: 28].

Обратный вектор, идеографический, т.е. идущий «от текста к языку», наоборот, фокусируется на функциональной специфичности звукоизобразительных средств в акте коммуникации, в том числе художественной. В этом случае, с одной стороны, принимается во внимание гораздо большее количество явлений (помимо ассоциативного содержания звука и звукоподражательности как словообразовательного приема: ассонансы и звуковые повторы, возникающие в синтагматике отношения звукокомплексов, ритмика и проч.). С другой стороны, движение от текста к языку почти никогда не достигает финальной точки, т.е. вырабатываемый метаязык описаний таких явлений остается чисто прикладным явлением, работающим на пространстве более или менее ограниченного набора текстов. Существующие подходы к исследованию звукоизобразительных средств в языке и тексте представлены многообразием точек зрения на проблему и методик анализа материала. Одно временно с этим некоторые вопросы фоностилистики текста (принципы отбора материала, возможности количественного анализа применительно к фоностилистическим средствам художественного текста, доля субъективной составляющей в оценке результатов исследования, метаязык описания и некоторые другие) еще только предстоит решить. Одним из возможных векторов решения части из обозначенных проблем является подход к фоностилистическим единицам текста как к элементам, обладающим композиционной значимостью. Учитывая позицию и композиционную роль структурно активных фонетических единиц художественного текста, можно продемонстрировать их объективную значимость и уточнить их текстовые функции.

Список использованной литературы:

Алиева, С.А., Звукоподражания в контексте проблемы связи звука и значения. М., 2018.168 с.

Воронин, С. В. Основы фоносемантики. - М.: ЛЕНАНД. 2006. 248 с.

Перельмутер, И. А. Платон история лингвистических учении. Древний мир. 1980. – М. 130 - 156 с.

Соссор, Ф. де. Курс общей лингвистики. 1998. – М.: Логос. 256 с.

Уфимцева А. А. Аспекты семантических исследовании. – М. Наука. 1980. - 356 с.

Якобсон, Р. О. Избранные работы. Звук и значение. - М.: Прогресс. 1985. – 455 с.

Ярцева, В. Н. Лингвистический энциклопедический словарь. –М., 1990. 685 С. 165 с.

Яхонтов, С. Е. История языкознания в Китае. История лингвистических учении. Древний мир. – М. Наука. 1956. 115 с.

Арнольд И. В. Стилистика. Современный английский язык: учеб. для вузов. 9-е изд. М: Флинта: Наука, 2009. 384 с.

Векшин Г. В. Очерк фоностилистики текста:Звуковой повтор в перспективе смыслообразования. М.: МГУП, 2006. 462 с.

Воронин С. В. Основы фоносемантики. Л.,1982. С 244.

Гайдучик С.М. Фоностилистика как один изразделов фонетики // Интонация. Киев: Вищашкола, 1978. С.33–41.

Глухарева Е. А. Звукоподражательные глаголы с диссонантным денотатом (семантические особенности) // Глагол в германских языках. Тула, 1976. С.77–94.

Горелов И. Н., Седов К. Ф. Основы психолингвистики. М., 1998. 256 с.

Горохова Л. А. О некоторых закономерностях перевода ономатопов в зависимости от функции, выполняемой ими в тексте // Лингвистика. Перевод, межкультурная коммуникация. Пятигорск, 2000. Вып.2, №2. С.110–120.

Дубовский Ю. А. Анализ интонации устного текста и его составляющих. Минск, 1978. 137 с.

Журавлев А. П. Фонетическое значение. Л: ЛГУ, 1974. 160 с.

Журавлев А. П. Звук и смысл. М., 1991. 160 с.

Журинский А. Н. Некоторые сопоставления «периферийных» классов языковых знаков (в одном или в разных языках) // Синхронно-сопоставительный анализ языков разных систем.М., 1971. С.240–257.

Иванов Вяч. О языковых причинах трудностей перевода художественного текста // Поэтика перевода. М.: Радуга, 1988. С.69–88.

Казарин Ю. В. Проблемы фоносемантики поэтического текста. Екатеринбург, 2000. 172 с.

Казарин Ю. В. Поэтический текст как система. Екатеринбург, 1999. 259 с.

Кухаренко В. А. Практикум з стилістики англійської мови: підручник. Вінниця: Нова книга, 2000. 160 с.

Левицкий В. В. Фонетическая мотивированность слова // Вопросы языкознания. 1994. №1 С.26–37.

Левицкий В. В., Стернин И. А. Экспериментальные методы в семасиологии. Воронеж, 1989.192 с.

Лотман Ю. М. О поэтах и поэзии. СПб., 1996.846 с.

Николаева Т. М. От звука к тексту. М.: Языкислав. культур, 2000. 680 с.

Орлицкий Ю. Б. Первый шаг к новой теории // Новое лит. обозрение. 2008. №90. URL:

http://www.nlobooks.ru/sites/default/files/old/nlobooks.ru/rus/magazines/nlo/196/856/877/index.html (дата обращения: 24.03.2013).

Панов М. В. О восприятии звуков // Развитие фонетики современного русского языка. М.:Наука, 1966. С.160–165.

Поливанов Е. Д. Общий фонетический принцип всякой поэтической техники // Вопросы языкознания. 1963. №1. С.99–112.

Прокофьева Л. П. Цветовая символика звука как компонент идиостиля поэта (на материале поэтических произведений А. Блока, К. Бальмонта, А. Белого, В. Набокова): дис. канд. филол. наук. Саратов: СГУ, 1995. 256 с.

Реформатский А. А. Неканоничная фонетика // Развитие фонетики современного русского языка. М.: Наука, 1966. С. 96–109.

Сепир Э. Об одном исследовании в области фонетического символизма // Избранные труды по языкознанию и культурологии. М.: Изд. группа «Прогресс», 2002. С. 323–335.

Скаличка В. Исследование венгерских звукоподражательных выражений // Пражский лингвистический кружок. М., 1967. С.277–313.

Соколова М. А., Гинтовт К. П., Тихонова И. С., Тихонова Р. М. Теоретическая фонетика английского языка. М., 2009. 286 с.

Сомова Е. Г. Фонетическое значение в слове и тексте // Аспекты лексического значения. Воронеж, 1982. С.154–158.

Шляхова С. С. Тень смысла в звуке: Введение в русскую фоносемантику / Перм. гос. пед. ун-т. Пермь, 2003. 216 с.

Щерба Л. В. Языковая система и речевая деятельность. Л.: Наука, 1974. 428 с.

Щерба Л. В. О диффузных звуках // Академику Марру Н.Я. XLV (Юбил. сборник). М.; Л.,1935. С.451–453.

Якобсон Р., Фант Г. М., Халле М., Введение в анализ речи // Новое в лингвистике. 1962. Вып.2.

日本語とウズベク語の言語文化における人称代名詞の機能的及び文体的特徴

氏名：アブぢディカユモヴァ　マディナ

タシケント国立東洋学大学日本語学部

メール先：dinaxon1994@gmail.com

Toshkent davlat sharqshunoslik universiteti

Yaponshunoslik fakulteti yapon lingvistikasi

Mutaxassisligi 1-kurs magistiri

ABDUKAYUMOVA MADINA

“Yapon va o’zbek lingvomadaniyatida kishilik olmoshlarining funksional-stilistik xususiyatlari”

Annotatsiya

Til – milliy qadriyatlarni birlashtirib, xalqning boy va cheksiz madaniyatini namoyon etib turuvchi eng mustahkam zanjir, ma’naviy xazina. XX asrga qadar tilga shunchaki fikrni ifodalash vositasi sifatida qarab kelingan bo’lsada , XX asrga kelib “Til va madaniyat ajralmas “dir degan g’oyalar vujudga kela boshladi . Shunday qarashlar natijasida til bilan madaniyatni o’zaro bog’liq hodisa , boshqa-boshqa til egalari bir-birlarini tushunishlari uchun , faqatgina o’zga tilni bilishlari yetarli emas , balki shu til bilan birgalikda o’sha xalqning madaniyatidan ham xabardor bo’lishlari kerak degan tushunchalar ham paydo bo’la boshladi .

Hozirgi vaqtda lingvomadaniyat tilshunoslikda eng kam tadqiq qilingan sohalardan biri hisoblanadi . Ayniqsa ,o’zbek tilshunosligida bu borada olib borilgan tadqiqotlar soni u qadar ko’p emas. Ushbu ishda hozirgi zamon tilshunosligidagi eng muhim izlanishlardan biri bo’lgan yapon va o’zbek tillarida kishilik olmoshlarining lingvomadaniy jihatdan funksional –stilistik muommolarini , kishilik olmoshlarini qo’llanilishidagi farqli va o’xshash jihatlarini ochib berishni maqsad qilib qo’yildi .Bu borada shu vaqtga qadar bir qancha ishlar olib borilgan bo’lsa ham, lekin ikkala tilni lingvomadaniy jihatdan solishtirgan holda taqqoslab o’rganilmagan .

Yapon tilida kishilik olmoshlarini aynan erkaklar , yoki aksincha aynan ayollar tomonidan qo’llanilishi , rasmiy va norasmiy vaziyatlarda esa qo’llanilishdagi farqlar tilning o’ziga xosligidan darak berib , bu holat yapon tilini nafaqat tilshunoslik yuzasidan balki uni madaniy jihatdan yaxshiroq tushunishga imkon beradi . Hozirgi jamiyatda kishilarning o’zaro bir-birlariga ish yuzasidan , muloqat yuzasidan murojaat qilishlari uchun har bir tilda maxsus murojaat so’zlari , ya’ni kishilik olmoshlari muhim o’rinni egallaydi . Shu vaqtga qadar o’zbek va yapon tillarida mavjud bo’lgan kishilik olmoshlarining funksional –stilistik xususiyatlari lingvomadaniy jihatdan taqqoslab o’rganilmagan .

キーワード：言語学、言語文化、言語文化学、人称代名詞、１人称代名詞、２人称代名詞、３人称代名詞、人称代名詞の制限、性差、古代、現代、文体、比較

はじめに

言語ということは意見を言う、語ることではなくて、国民の生活や文化について世代に情報を伝える手段である。言語を勉強している学者にしても、異言語で本を読んでいる読者にしても、異言語から母語に本を翻訳している翻訳者にしても勉強している言語だけでわなく、その言語で話している国民の文化も勉強しなければいけない。山本(1982)が指摘するように、言語は　文化の凝縮であり,文化と密接に関連している[58]［山本，１９８２］。例えば、あるラジオポッドキャストで日本人とアメリカ人の会話で、最初 Jun の話を聞いたときは、「何を言っているんだろう・・「寒い」って寒い以外に何か意味あったっけ？」って不思議に思うんですが、内容を聞いて納得できる。日本人が「さむいですね」といった場合アメリカ人が「そうですね」と答える。そのようなとき日本人が「寒いですね」と言った場合、「窓を閉めてください」という潜在的なメッセージが含まれていたが、日本の文化について良くわからないアメリカ人は「そうですね」と何もしなかった。アメリカ人は基本的にストレートに物事を伝えるため、もし誰かに窓を閉めて欲しい場合は直接お願いする。日本語にはそんなことがなくて潜在的な意味が隠されているって話である。これは　日本文化の言語に与える影響だとおもわれる。言語と文化の関連に関しての問題は２０世紀ごろにきて科学者に研究されてきた。そのおかげで言語文化学がはつめいされた。言語文化学は各言語の様々な特徴で文化の概念や文化のカテゴリーなどがどうやって移しているのかを明らかにされる分野である。文化言語学の文脈では、言語は文化レベルでのグループ認知に根ざしていると考えられています[59]。言語文化学についてサピア　ウォーフは言語文化学の主な目的を［《The Sapir-Whorf hypothesis》，１９５４］と述べた。

言語学で言語文化学という分野は現代世界でよく研究されていますが、ウズベク語では語類が今まで言語文化学的な視点からみられたものは多くない。特に日本語とウズベク語の人称代名詞が言語文学的に比較されたのは多くない。ここで両語である人称代名詞を考察し、構造や歴史的な使用と現代の使用を比較して、言語学での特徴言語文学的にのべる。まず人称代名詞とは、日本語の人称代名詞に関して田窪行則が自分の研究では次のように書いた：「日本語にももっぱら話し手自身を表す単語「私、僕、おいら、うち、等」、聞き手を表す単語「あなた、君、おまえ、等」、１、２人称を表す名詞類は存在する」。[60]

世界のどの言語にせよ人称代名詞は３つにわけられるが、人称代名詞の表現や表現の数によって違う。例えば日本語では：一人称代名詞話し手（または書き手）自身をさす自称（一人称、「わたくし」「ぼく」「おれ」など）、相手をさす対称（二人称、「あなた」「きみ」「おまえ」など）、話し手や相手以外の第三者をさす他称（三人称、「このかた」「そのかた」「あいつ」「かれ」など）である。ウズベク語で一人称ー men ,biz;

二人称はーsiz,sen;　三人称—U,ular　です。

[58]山本（１９８２）「日本人と外国語」

[59] [«The Sapir-Whorf hypothesis»]１９５４

[60] 田窪行則　１９９７「日本語の人称表現」

記事の学問的意義　人称代名詞は全言語であり、語類では自分の位置がある。日常生活の会話にしても、文学作品にしても、人間関係にしてもよく使われている。人称代名詞を使用する際文法的に使わないで文化的にもこうさつしつつ使用したら問題は出てこない。特に人称代名詞が多数ある日本語の場合は気にしたほうがよい。人称代名詞が多くある日本語を[61]勉強している学者は実は生活の中で、どのように人を呼んでよいか迷うことは多くある。人間関係、社会関係、家族関係、文学作品、翻訳の問題は起こらないために本研究は両国の言語が文化に与えるえいきょうを見せる。

　世界のどの言語にしても、人称代名詞は主な位置を取っているので、人称代名詞に関する研究や記事がたくさんある。小林・田中（２０１２・１９９）によると人称代名詞の基本的な役割は名詞の繰り返しを避けるのである。ゆきのりたくぼ（１９９７）は日本語と西欧語の人称代名詞を比較しながら、日本語で人称代名詞と語類があっても、聞き手を表す人称代名詞を相手には使うことができない。彼はそこで定名詞である名詞がどんな仕組みで聞き手や話し手を表せるのかに関して社会言語的に談話や対話をみて考察した。日本語における人称代名詞とヨロッパ語の人称代名詞を比較したら、異なる点がかなり多いといわれています。バグ　アンドリュ・上原（１９９９）記事で日本語とヨロッパ語の二人称代名詞を比較しながら、Brown and Gilman(1967)が言ったように力関係と新密度という二つのよういんで説明できる。彼はにほんごの人称代名詞はとヨロッパ語の人称代名詞と同じく力関係と新密度で説明できるのか、日本語の人称代名詞語源や歴史を比較した。歴史的に比較して、表面的に様々な面で異なっている二つの言語では違いと共通点を体系的に明らかにした。両言語でも話者が丁寧な形や丁寧ではない形を使う。でも T|W 式言語で二つの要因が異なる時代に影響してきたにもかかわらず、日本語で二つの要因が同時に歴史をつじて働いているということがあきらかになった。

それを考えてみると日本語の人称代名詞は以前からそんなに多くありましたか、人称代名詞の言葉は元々にどんな意味で使っていたのか、古代と現代の人称代名詞の使用する場面は同じですかと様々な質問が出てくる。Miller(1967.341)と　鈴木（１９７３：１４１）が言うように日本語にはヨロッパ語にあるような元々の人称代名詞はないと考えられている。つまり、今私たちが知[62]っている人称代名詞は前から他の名詞カテゴリから借りられた。例えば　君と貴様きさまは古代の際天皇のことを敬って示す言葉で使用したり、おまえとてまえは場所を示すときに使いました。

日本語の人称代名詞のウズベク語と違う一番気にする特徴は数うであるではないだろうか？

話し手自身を指す第一人称は古代と現代を確認したら、『広辞苑　第五版』『新明解国語辞典　第五版』『類語選びの辞典』によってこれらである：

わたくし　話し手自身を指す語。現代語としては、目上の人に対して、また改まっ

[61]田窪行則　１９９７「日本語の人称表現」

[62]『広辞苑　第五版』『新明解国語辞典　第五版』『類語選びの辞典』

（私）　た物言いをするのに使う。

わたし（私）　（ワタクシの約）
話し手自身を指す語。「わたくし」よりくだけた言い方。

あたし（私）　（ワタシの転）
一人称のくだけた言い方で、主に女性が用いる口語。

あたい（私）　（アタシの転）
下町や花柳界などの婦女子または小児の使う口語一人称。

あっし（私）　（アタシの転）
口語一人称。主に職人が用いる。

わし（儂・私・俺）　（ワタシの約）
近世、主として女性が親しい相手に対して用いた一人称。現在では年輩の男性が、同輩または目下に対して用いる。

わ（我・吾）　最も古い日本語の一人称。わたし。われ。あ。おのれ。

あ（我・吾）　古い日本語の一人称。われ。私。同義の「わ」に比して用例は少なく、多く「あが（私の、自分の）」の形で、相手に親密感を持つ場合に使う。

な（己・汝）　古い日本語の一人称。自分。おのれ。

われ（我・吾）　古くから自分自身を指す語。本来は一人称。中世以後は二人称としても使う。
あれ。おのれ（己）。わたくし（私）。

おれ（俺・己・乃公）　（「ワレ」または「オノレ」の転）
現代では主として男が、同輩または目下の者に対して用いる、荒っぽい言い方の一人称。
もとは男女ともに、また目上にも目下にも用いた。

おいら
（俺等・己等）

（「オレラ」または「オノレラ」の転）
一人称「おれ（たち）」の意のくだけた言い方。主に男性が用いる。

ぼく
（僕）

男子が自分自身を指す語。
もとは、心情的にはあなたの僕（しもべ）に過ぎない私という、へり下った言い方。
明治期から、初め書生言葉として、話し言葉で使われるようになった。
今はおもに成人前の男性が同等以下の相手に対して使う、砕けた言い回しの自称。
※『毎日の言葉』柳田国男〈新潮社文庫〉所収「ボクとワタクシ」参照

わらわ
（妾・私）

（童（わらわ／子ども）のような不束者（ふつつかもの）の意で、女性の謙称）
武家時代身分の有る女性、特に武家の子女がへりくだって使う自称。
わたし。わたくし。

まろ
（麻呂・麿）

主として平安時代以降、身分の上下・男女を通じて使われた一人称。われ。わたくし。

よ
（余・予）

主として漢文風の文章に使う、自分自身を指す語。
わたし。われ。
※「余」は「餘」の略字ではない。

わがはい
（我輩・吾輩）

男性が自分自身を指す語。男子が自分のことを一人前の存在として言う言葉。
現在では尊大な自称として用いる。
われ。私。

せっしゃ
（拙者）

主に近世、ある地位にある男性（武士・医者など）が用いた一人称。
本来は自分をへりくだっていう語であるが、尊大な態度で用いることもある。

みども
（身共）

主として武士階級で、同輩または目下に対して改まった感じで用いた一人称、または一人称複数形。われ。われら。

それがし

わたくし。なにがし。男性がへりくだっていう一人称。（もとは不定称。名の知れない人のこと、誰か）

（某）

なにがし
（某・何某）
わたくし。それがし。拙者。男性がへりくだって用いる一人称。

やつがれ
（僕）
（ヤツコアレ（奴我）の約。古くは清音）自分の謙称。上代は男女ともに用いた。うぬ（己）。

しょうせい
（小生）
主に手紙で、男子が自分を指して使う謙称。目上の人に対しては使わない。わたくし。

ぐせい
（愚生）
手紙などで、男子が自分を指す謙称。小生。

じぶん
（自分）
話し手自身を指す言葉。昔の軍人や警官が用いた堅苦しい言い回し。わたくし。われ。

ふしょう
（不肖）
自分の謙称。「親または師匠に似ず劣っている」と自分をへりくだって言う語。

とうほう
（当方）
一人称。組織・団体の意味が強い。こちら。わが方。自分の方。私ども。

こち
（此方）
「ち」は方角の意。自分に近いほう。こちら。わたし。われ。

こっち
（此方）
（コチの促音化）こちら。この方。転じて、一人称にも用いる。

こちら
（此方）
「こっち」よりやや丁寧な一人称、または一人称複数形。わたくしども。われわれ。こっち。

こちとら（此方人等）
一人称複数形「自分たち」の意の口頭語的表現。おれたち。われわれ。自分ら。
単なる一人称としても用いられる。自分。おれ。

うち（内）
関西方言で、多く女性や子供が使う一人称。自分。わたし。

聞き手を指す二人称は：

あなた（貴方・貴男・貴女）
(1)（「彼方（あなた）」の転）第三者を敬って指す語。あのかた。
(2) 近世以後、目上や同輩である相手を軽く敬って指す語。（現今は敬意の度合が減じている）
(3) 夫婦間で妻が夫を呼ぶ語。

あんた
（アナタの転）
現在は同輩か目下の者に使い、ぞんざいな感じを伴う口語の二人称。
近世後期、初め遊里で目上の人に対して用いた。

わ（我・吾）
お前。親愛または軽侮の意をこめて呼ぶ二人称。

な（己・汝）
一人称から転じた二人称。おまえ。なんじ。なれ。いまし。

なれ（汝）
古い日本語の二人称。同等以下の相手を指す。なんじ。おまえ。

なんじ（汝・爾）
（ナムチの転）
同等以下の相手を指す語。お前。そち。
※「なむち（汝）」……（ナ（吾）にムチ（貴）の付いた二人称の古語。）

いまし（汝）
古い日本語の二人称。親しみの気持ちで相手をさす。あなた。なんじ。

きみ（君）
男の話し手が同輩以下の相手を親しんで指すのに使う呼称。あなた。おまえ。「僕」に対応する語。

きさま（貴様）
男性が同輩または目下の者に使う対称。また相手をののしって言う語。おまえ。うぬ。近世中期までは目上の相手に対する敬称。

おまえ（お前・御前）
もとは同等または目上に対する呼称。今は主に男性が、同等あるいは目下を指すぞんざいな言い方の二人称。

きこう（貴公）
武士や軍人が用いた堅い言い回しの二人称。本来は武士ことばで、目上に対して用いた敬語。のち、同輩またはそれ以下の相手に対して用いるようになり、武士以外でも使うようになった。そこもと。おてまえ。きさま。おまえ。きみ。

けい（兄）
男性が、同性の先輩または同輩に対して尊敬の意をこめて呼びかける呼称。改まった席での挨拶で使う語。

うぬ（汝・己）
相手を卑しめていう呼称。おのれ。なんじ。きさま。自分自身を指すこともある。

われ（我・吾）
相手を呼ぶ代名詞。後世はいやしめていう場合が多い。本来は一人称。中世以後は二人称としても使う。

じぶん（自分）
（主に関西で）相手を呼ぶ語。もとは自分のことを指す一人称。

おのれ（己）
目下の者に、または人をののしる時に使う二人称。きさま。こいつ。

そこもと（其処許）
同輩か目下に対して用いる二人称。そなた。そのもと。

そなた
目下の相手を、やや丁寧に指す語。

（其方）

そのほう
（其の方）　目下の相手を指す語。なんじ。おまえ。

そち
（其方）　（「ち」は方角の意）
目下の相手を指す語。そなた。なんじ。おまえ。

こやつ
（此奴）　相手を卑しめていう語。このやつ。こいつ。

こいつ
（此奴）　（コヤツの転）
人を軽侮して、または無遠慮に呼ぶ語。また、「これ」のぞんざいな言い方。

みなさま
（皆様）　二人称複数形。
多数の人を指していう尊敬語。

みなさん
（皆さん）　二人称複数形。
多数の人を指していう尊敬語。「みなさま」のややくだけた言い方。

おのおの
（各各・各々）　二人称複数形。
多数の人を指していう語。みなさん。おのおのがた。

おのおのがた
（各各方・各々方）　二人称複数形。
多数の人を指していう尊敬語。江戸時代の武士ことば。

第三人称　を指す人称表現は

かれ
（彼）　あれ。あのもの。古くは人をも人以外のものをもさした。人の場合、男女ともにさした。

かのじょ（彼女）　（欧語の三人称女性代名詞の訳語「彼女（かのおんな）」から）あの女。その女。この女。

やつ（奴）　卑しめていうとき、また親しみを込めて無遠慮にいうときに用いる三人称。
複数形は「奴等（やつら）」「奴原・奴儕（やつばら）」。

あやつ（彼奴）　第三者をののしっていう語。あのやつ。あいつ。

あいつ（彼奴）　（アヤツの転）人を軽侮して、または無遠慮にいう時に使う三人称。あのやつ。あの者。また、「あれ」のぞんざいな言い方。

きゃつ（彼奴）　（カ（彼）ヤツ（奴）の転）敬意の極めて薄い他称。第三者を軽んじて、また友人に親しみをこめたりふざけたりして呼ぶ語。あいつ。

そやつ（其奴）　人をののしっていう呼称。

そいつ（其奴）　（ソヤツの転）人を軽侮して、または無遠慮に呼ぶ語。その野郎。そのやつ。また、「それ」のぞんざいな言い方。

である。

それ以外日本語は他の言語と違って、警護という代表的な特徴がある。日本語の警護は基本的に尊敬語、謙譲語、丁寧語から構成されている。そのような日本語の文化を写される警護によっても人称代名詞の使用も違っている。例えば、「私」という表現をいつでもつかうことができる。「ぼく」という表現を目上の人に対して、「おれ」を目下の人に対して使用する。そのような言語の文化的現れた特徴をウズベク語でも見られる。目上の人に、始めた会った人に対して「SIZ」、自分に対して近い人、同じ年、年下人に対して「SEN」という表現をつかう。

つまり、言語文化学的に各言語である言語ということは文化といつもつながっていく。言語を勉強するために他の文化も理解する必要がある。言語は文化の一部であり、その文化を反映している。これらを言語学の人称代名詞を例として挙げてみてもよい。日本語とウズベク語の人称代名詞は使用によって同じであっても、形、数う、警護等に

よってちがう。この研究で日本語の人称代名詞の３種類をウズベク語の人称代名詞と対照的な観点から検討した。その結果、日本語には以前から現代まで人称代名詞が多くあり、現代でもそれらの中で使用されるのがあると　おもわれている。それと違ってウズベク語には以前も、現代もそんなにたくさんなかったということである。

参考文献

1. [《The Sapir-Whorf hypothesis》, １９５４]
2. 田窪行則　１９９７「日本語の人称表現」
3. https://hapaeikaiwa.com/blog/2015/05/17/%E7%AC%AC57%E5%9B%9E%E3%80%8C%E8%A8%80%E8%AA%9E%E3%81%A8%E6%96%87%E5%8C%96%E3%81%AE%E9%96%A2%E4%BF%82%E3%80%8D/
4. 福　沢　将　樹　２０１８「三人称普通名詞としての人称代名詞」
5. バグ　アンドリュ・上原（１９９９）「日本語とヨロッパ語の二人称代名詞　」
6. 藤　井　洋　子　　日本語の親族呼称・人称詞に見る 自己と他者の位置づけ ―相互行為の「場」における文化的自己観の考察
7. ハルナザロフ　マムルジョン　２０１９「親族語を中心としたウズベク語の呼称について ー日本語との対照的観点から」
8. https://bibdb.ninjal.ac.jp/bunken/ja/result?per=100&r_freeWord_search=%E4%BA%BA%E7%A7%B0&lop=and&disp=table&skip=0
9. http://www.natubunko.net/kotoba10.html
10. https://ru.wikipedia.org/wiki/%D0%9C%D0%B5%D1%81%D1%82%D0%BE%D0%B8%D0%BC%D0%B5%D0%BD%D0%B8%D1%8F_%D1%8F%D0%BF%D0%BE%D0%BD%D1%81%D0%BA%D0%BE%D0%B3%D0%BE_%D1%8F%D0%B7%D1%8B%D0%BA%D0%B0
11. https://360wiki.ru/wiki/Japanese_pronouns

日本語とウズベク語における[猫に関する]諺、慣用表現の意味分析

氏名：イシャンホジャイェワ　ムカッラムホン
タシケント国立東洋学大学日本語学部
メール先：mukarramxon1206@icloud.com
Tashkent state unıversity of oriental studies
Faculty of japanese science department of japanese philology
1st year master's degree Eshonxo'jayeva Mukarramxon

Descriptıon on the subject "Semantic analysis of proverbs and phrases involving the lexeme "cat" in Japanese and Uzbek"

ANNOTATION

This dissertation focuses on the semantic analysis of proverbs and phrases involving the lexeme "cat" in Japanese and Uzbek, and the similarities and differences between proverbs and phrases in both languages.
The dissertation consists of an introduction, main part and 2 chapters, a conclusion and a list of references. The introductory part of the dissertation deals with the relevance, goals and objectives of the dissertation, its scientific and practical significance. The first chapter of the main part deals with the general definition of proverbs, the definition of proverbs and phrases in Japanese and Uzbek, its structure, semantic aspects, scientific work of groups and scholars, as well as the difference between proverbs and phrases from other word units.
The second chapter is divided into 3 parts, first comparing the similarities of the expressions in Japanese and Uzbek. Part 1 contains proverbs and phrases involving the Japanese lexeme "cat" and semantic analysis. In the second part, proverbs and phrases with the Uzbek lexeme "cat" are given and studied in terms of meaning. Part 3 deals with the analysis of proverbs and phrases involving the "cat" lexeme in both languages. The proverbs and phrases involved in the "cat" lexeme given in Part 3 were also analyzed into 3 groups. Group 1 Proverbs and phrases involving the lexeme "cat", which semantically expresses human behavior and characteristics.
Group 2 Proverbs and phrases involving the lexeme "cat", which has a metaphorical meaning. Group 3 is devoted to the analysis of proverbs and phrases involving the "cat" lexeme, which are similar in use and meaning. Proverbs and expressions involving the "cat" lexeme, studied in both languages, describe the characteristics of human behavior, emotions, dangers, sadness, joy, suffering, and the metaphorical meaning of proverbs and sayings mentioned.
The concluding part of the dissertation contains conclusions on the issues studied. Literature, scientific dissertations, articles and dictionaries in Japanese, Uzbek and Russian languages were used in the study of the dissertation.

問題提起。

研究の問題提起として、猫に関することわざ／慣用表現は日本語とウズベク語で相違点もあれば、共通点もあるのではないだろうか。どうして、このようなことわざ／慣用表現には猫が概念として使用されているのかを調べたい。。それから、ことわざにおける猫に関する概念に日本語とウズベク語の比較して、両国語でどういう意味があるのか、両国語で意味が同じくなるか、違う点があるのではないでしょうかに研究したい。卒業論文の問題提起として、『猫』に関する諺/慣用表現を意味論的分析すると、両言語で猫のことわざは『人間』の概念が表現されているではないだろうかと言う疑問が湧いてきた。

方向付け—研究の目的と方法。

本研究の主な目的は、日本語とウズベク語における猫に関することわざ／慣用表現の意味を考察する共通点と相違点を考察することである。、猫に関することわざ表現に両国語でどういう意味が含まれるか，諺や、慣用表現を調べて、考察して、見たいである。

それから、日本語とウズベク語のことわざ／慣用表現における猫の言語表現を言語学的観点から研究し、日本とウズベクの精神世界における「猫」の概念の範囲、それらの種に関連する認識、相違点と類似点を研究することである。

ウズベク語で猫に関する４６ことわざ／６慣用表現を取り上げ、具体的な意味と派生的な意味が辞典でどのように記述されていることを見ていく、意味特徴に考察する。

日本語で猫に関する５０ことわざ／３慣用表現を取り上げの意味特徴に考察する。
両言語で考察した　猫に関することわざ／慣用表現に両言語で　例を使用しながら、ことわざ／慣用表現これらの意味論的を分析して、考察する。
両言語のことわざでは、証明における猫に関することわざ／慣用表現で、猫のイメージの表現に関連する異なる類似の特徴点、相違点と共通点を特定する。

両言語で　[猫]に関する諺、慣用表現の意味分析。
1表。「人」の性格を表す「猫」を含むウズベク語と日本語の
ことわざと慣用表現。
No_　日本語 ウズベク語
意味　意味
１．　猫が糞を踏む。　人々が罪悪感を明らかにせずに隠すことを意味します　Mushuk sher bo’lmas, eshshak toy 誰もがオリジナルに惹かれていると言う意味
２．　猫と庄屋にとらぬはない　鼠を捕らぬ猫はなく、賄賂を取らぬ庄屋はないということ。　İtdan suyak ortmas-mushukdan bez　それは貪欲で飽くなき人を指します
３．　猫に会った＝追われた鼠　猫の前のネズミのように、人間に逃げることも戦うこともできず、絶体絶命といった様子　Mushukning quvgani- sichqonning o’lgani とにかく逃亡者がいつか捕まえられることについてのことわざ
４．　猫に石仏-　人間には貴重な小判でも、猫には価値が無いしありがたいものを見せても効果や反応を示さないこと。　Mushuk boqqanning uyidan -baliq arimas　常に充実した生活を送っており、何にも飽きていない人のことです。
５．　猫に鰹節の番　油断ができないこと。大好物なのですぐに餌食や犠牲になりそうで危 険なことの例え。　Mushukga ermakdan -pashmak yaxshi 人が好きなものや嫌いなものが得意だということわざです
６．　猫に鰹節　猫に鰹節とは、油断できない状況を招くこと。また、危険な状況にあることのたとえ。　Ko’r mushukga har narsa yuvvosh ko’rinar　嘘が単純な人にどのように真実であるように見えるかについてのことわざ
７．　猫に経　どんなに立派な教えも、それを理解できない者に言い聞かせたところで、何の意味もなさないというたとえ Qo’shnining mushugi sher ko’rinar, kelinchagi qiz　誰かの財産に貪欲な人を指します。
８．　猫にもなれば虎にもなる　同じ人が、時と場合により、または相手の態度によって、おとなしくもなれば、凶暴にもなること。　Mushukdek yer bo‘lib yurgandan , Sher bo‘lib o‘lgan yaxshi.　勇敢な人のことです
９．　猫の魚辞退　猫のように人が大好物のをいらないという意味から、本当は欲しいのに、口先だけで断ること。Yoz bor qish bor, beg’am mushukga nima ish bor怠惰で消極的な人を指します
１０．猫の額の物を鼠の昼寝　人間が身に危険が迫っている事を知らずにいることのたとえ。　Mushukning ozig’i burnida =sichqonni o’lgisi kelsa mushuk bilan o’ynashar　警戒心のある人はいつも元気に暮らしていると言われています。
１１．猫の留守は鼠の代　猫のいないときはねずみの天不。つまり、強い者のいない時は弱い者にとって天不。 Mushukning o’limi-sichqonga to’y　上司の不在は労働者の休日のようなものです
１２．猫は三年飼っても三日で恩を忘れる　猫が人の恩をすぐに忘れるということ。　Kalning nimasi bor temir tarog’i, mushukning　nimasi bor eski tirnog’i 些細なことを自慢する人を指します。
１３．猫の手も借りたい　忙しくて人手が足りず、だれでもいいから手伝ってほしいということ。

Mushuk boqqan bilan yo’lbars bo’lmas=sher izini mushuk bosolmas　小さな人は大人の足跡をたどっても小さいままです

１４．猫にまたたび　　猫にまたたびとは、非常に好きなもののたとえ。また、それを与えれば効果が著しいことのたとえ。 Baxilning mushugi bor sichqon kirmas uyiga　　けちで嫉妬深い人を指します

１５．猫の鼻先に鼠を置くように　人によるとつまり非常に危険だということの例え。 Ajali yetgan sichqon mushukga g’amza bo’lar 一日の終わりに死んだ人はとにかく死ぬということわざ

１６．猫の首に鈴を付ける　猫を具体的な人に置き換えて使うこともある。　Mushukning bo’ynidagi qo’ng’iroq- yo’nilmagan tayoq　貴重品の世話をする人のことです

１７．上手の猫が爪を隠す　=猟ある猫は爪を隠す　　優れた能力を持っているものは、普段表に出さず謙遜するものであるということ。　Shoshgan mushuk sichqon tutolmas 急いでせっかちな人々についてのことわざ

１８．雀の上の鷹、猫の下の鼠　　危険が身近に迫っていること。また、下位の者に強くても上位の者にはかなわないの意とも。　Chumchuqdan qo’rqqan tariq ekmas, mushukdan qo’rqqan tovuq boqmas 危険を恐れない人のことです。

１９．虎を画きて猫に類す　素質の無い者が、優れた人物の真似をして失敗するたとえ Etik kiysang er bo‘lasan,Mushuk boqsang sher bo‘lasan.　野生との戦いと価値の評価は本質的であると言われています

２０　鳴く猫鼠捕らず=鼠捕らずが駆け歩く　　鳴く猫は鼠を捕らぬとは、おしゃべりな者は、口先だけで実行力がないことのたとえ。　Nomarddan najot kutma, mushukdan - iltifot.　心配しない人のことです

２１．猫に紙袋　　また、尻込みすることのたとえ。　Ehtiyoj mushukni tulkiga aylantirar.　状況に応じて行動する人を指します

２２．猫の子一匹いない　人がまったくいない事のたとえ。 Mushuk tushida changalzorni ko’rar　それは生の想像力で生きる人を指します

２３．猫は長者の生まれ変わり　　猫は長者のようにのんびりと寝てばかりいることから　İkki sichqon birlashsa, mushuk dumini tishlar　ほとんどの人は、獣を倒すのは簡単だと言います

２４．だんまり猫がネズミを捕る　実行することがたいそう簡単なことのたとえSichqonni o’lgisi kelsa mushuk bilan o’ynashadi 危険な仕事に専念する人々についてのことわざ

２５．猫は禿げても猫　　誰もが変化しても同じままであるという意味で　Har kim eliga- mushuk dumiga sodiq 自分の仕事に忠実で忠実な人々についてのことわざ

２６．猫の鼠を窺うよう　　それは彼の仕事のマスターと熟練した人々について言われています It boqqandan mushuk boq -　Qo‘y oldirmas qo‘radan. 怠惰な人と賢い人には違いがあります

２７．　İt mushukni topar, ko’r ko’rni 動詞と動詞は互換性のある人を指すと言われています

２８．　Omadi kelsa sichqon mushukni yengadi.　傲慢な人のことです

No_　慣用表現（日本語で）意味　慣用表現（ウズベク語）　意味

1.　猫に小判　　物の価値がわからない者に高価な物を与えても無駄である事のたとえ。　Bekorga mushuk ham oftobga chiqmaydi.　面倒な価値はありません

2.　猫をかぶる　　ある人が、生まれつき持っている性格を隠して、おとなしそうに表面だけを、よく見せることİchini mushuk tatalayapti yoki tirnayaapti.　お腹が空いた人、お腹が空いた人

3.　suvga tushgan mushukdek.　身をよじる、身をよじる

4.　mushuk sichqon o’ynamasin.　仕事や人から逃げる

5.　uning mushugini hech kim pisht demaydi　邪魔しない、邪魔しない.

表―2「猫」を表すつまりそのままの意味　「猫」を含むウズベク語と日本語の
ことわざと慣用表現。

日本語 ウズベク語

No　諺　意味　諺　意味

１．　猫に鰹節の番　油断ができないこと。大好物なのですぐに餌食や犠牲になりそうで危 険なことの例え。　Mushuk boqqanning uyidan -baliq arimas　1-　意味：常に充実した生活を送っており、何にも飽きていない人のことです。

2-　意味：猫は魚を食べるのが大好きです

２．　猫に九生あり　猫は命が九つもあり、何度でも生まれ変わってくる。猫は執念深く、なかなか死なないということ。 İtdan suyak ortmas-mushukdan bez　1-　意味：それは貪欲で飽くなき人を指します

2-　意味：猫が膵臓を噛むと、犬は骨髄を示します。

３．　猫は三年飼っても三日で恩を忘れる　猫はつれない動物であるというたとえ。

Mushukga ermakdan -pashmak yaxshi 1-　意味：人が好きなものや嫌いなものが得意だということわざです

2-　意味：猫が毛皮を愛していることが示されている

４．　猫の鼻先に鼠を置くように　猫の鼻先に好物の鼠を置くようなもの、つまり非常に危険だということの例え。　Mushukning joni 9ta 猫が毛皮を愛していることが示されている

５．　猫の鼻と傾城の心は冷たい　いつも冷たいもののたとえ　Sichqonga　o’lim-mushukga o’yin　1-　意味：危険についてのことわざ

2-　意味：ゲームとして何匹の猫がネズミを殺すかについて

６．　猫の子供はなぶると痩せる、犬の子はなぶると肥ゆる　猫の子は、いじり回すと痩せ、犬は逆に肥える。猫は人に触られるのを嫌い、犬はなでられるのを喜ぶということ。Yuvvosh mushukning tishi o’tkir bo’lar　1-意味：期限を要求する人のことです。

2-意味：それ自体の意味で、優しい猫は鋭い歯を持っています

表 3。 ウズベク語と日本語で意味と用法が似ている諺/慣用表現。

No　日本語 ウズベク語

諺　意味　諺　意味

１．　猫に九生あり　猫は命が九つもあり、何度でも生まれ変わってくる。猫は執念深く、なかなか死なないということ。 Mushukning joni 9ta 猫が毛皮を愛していることが示されている

２．　猫を殺せば七代たたる　猫は魔性のものであるという考えからいう　Mushukni o’ldirish 7 avlodga baxtsizlik　イスラム教では、猫は貴重な動物であり、それを殺すことは重大な罪です

３．　猫の鼻先に鼠を置くように　猫の鼻先に好物の鼠を置くようなもの、つまり非常に危険だということの例え。　Sichqonni o’lgisi kelsa mushuk bilan o’ynashadi　危険な仕事に専念する人々についてのことわざ

４．　猫の子供はなぶると痩せる、犬の子はなぶると肥ゆる　猫の子は、いじり回すと痩せ、犬は逆に肥える。猫は人に触られるのを嫌い、犬はなでられるのを喜ぶということ。It bolasi -itga yaxshi, pishak bolasi-mushukga　猫は自分自身を子猫とも呼びます

５．　猫を一匹殺せば七堂伽藍を建立したるより功徳あり　猫は魔性のものであるという考えからいう。　Mushuk o’ldirishning jazosi 7ta jome qurishdek og’ir gunoh 猫は魔性のものであるという考えからいう。

６．　猫の鼠を窺うよう　獲物を逃がすまいと身構えている様子　Mushukning quvgani-sichqonning o’lgani とにかく逃亡者がいつか捕まえられることについてのことわざ

７．　猫は虎の心を知らず　獲物を逃がすまいと身構えている様子　Mushukning yuragi-sherniki emas 誰もが子孫であるということわざ

８．　猫が肥えれば鰹節が痩せる　猫がよくなれば他方が悪くなり、一方に利があれば他方に損があるというたとえ　It mushuk do’st bo’lsa, sichqonni hudo urar 人々が善のために善と悪のために会うことについてのことわざ
９．　猫に会った＝追われた鼠　猫の前のネズミのように、人間に逃げることも戦うこともできず、絶体絶命といった様子。 Sichqonni o’lgisi kelsa mushuk bilan　危険な仕事に専念する人々についてのことわざ

結論
本稿では、ことわざ／慣用表現における『猫』にに関する概念について考察した。日本語で『成語林故事ことわざ／慣用句辞典』『国語辞典』、と言う辞典から５０個諺。３個慣用表現、ウズベク語で Sh. Rahmatullayev “iboralar lug’ati” A. Musaqulov “5 to’mli izohli lug’at” “B.Sarimsoqov “maqollarning izohli lug’ati” に基づいて４６個諺、６個慣用表現を取り上げた。まず、辞典から『猫』の意味を調べ，意味を分析した。分析する際３つグループに分け、意味を明らかにした。
１）グループ「人」の特徴を表す「猫」を含むウズベク語と日本語の
ことわざと慣用表現
２）グループ比喩的な意味を表す「猫」を含むウズベク語と日本語の
ことわざと慣用表現
３）グループ“　ウズベク語と日本語で意味と用法が似ている諺/慣用表現。
第１．分析の結果、日本語で、猫に関する諺 50 個の慣用表現の 3 つのうちで 26 個のことわざと慣用表現の 2 つ、ウズベックで 46 個の「猫」のことわざと 6 個つの慣用表現のうちで、28 個のことわざと 5 個慣用表現の意味が「人間の概念」を意味を明らかにした。第２．分析の結果から、日本語では、『猫』を含む、５０個のことわざのうち７つは、ウズベク語では、46 個のことわざのうち６個は『猫』の概念を表すのかを明らかになった。第３．それから、両言語で　９個『猫』に関する諺/慣用表現意味と意味の使い方が同じくなるのかを明らかにした。第４．または、諺/慣用表現はウズベク語でつまり、Negative 気持ちを表すことがよく出てきた。たとえば、[Mushuk xo‘ra bo‘lsa - o‘g‘riga eshik ochiq]悲しみ、[Ehtiyoj mushukni tulkiga aylantirar、 Mushuk tushida changalzorni ko’rar、Bir qarg‘a bilan - qish kelmas, bir mushuk qo‘lidan ish kelmas.]困ること、[Ajali yetgan sichqon mushukga g’amza bo’lar, Mushukni o’ldirish 7 avlodga baxtsizlik, Mushukning o’limi-sichqonga to’y , Yuvvosh mushukning tishi o’tkir bo’lar,] 殺すこと、[Har kim eliga-mushuk dumiga sodiq, Ko’r mushukga har narsa yuvvosh ko’rinar] 恐れる、[Mushukning quvgani- sichqonning o’lgani, Sichqonga o’lim-mushukga o’yin, Mushuk yo’g’ida sichqon tepaga chiqa, İtni qopmas , mushukni tirnamas deb bo‘lmas.]危険などである。
日本語で Negative 気持ちより Positive 気持ちも表すことが明らかになった。たとえば、[猫の手も借りたい]　手伝いこと、[猫にまたたび，　猫に鰹節の番，　猫の寒恋い]愛する、[猫は禿げても猫，猫は三月を一年とする，　有っても無くても猫の尻尾] 喜ぶなどである。
それから、日本語で長所的な意味と短所的な意味もある野花を明らかにした。日本語で、長所的な意味を表す“猫“に関する諺：猫に九生あり、猫にまたたび、だんまり猫がネズミを捕る、猫に鰹節の番、猫の鼠を窺うよう、上手の猫が爪を隠す、猫にもなれば虎にもなる、女の心は猫の眼、猫の目のよう、有っても無くても猫の尻尾，猫は三月を一年とする，猫も茶を飲む，猫を殺せば七代たたる。短所的な意味を表す”猫に関する諺：猫に小判，猫の手も借りたい，猫の歯に蚤，猫の寒恋い，猫の首に鈴を付ける，猫は虎の心を知らず，鳴く猫鼠捕らず、猫の子一匹いない、猫は長者の生まれ変わり。慣用表現：猫をかぶる、猫にひたいほど。ウズベク語で、長所的な意味を表す“猫“に関する諺：mushuk boqqanning uyidan baliq arimas, mushukga ermakdan pashmak yaxshi, mushukning ozig’i burnida, har kim eliga mushuk dumiga sodiq, It boqqandan mushuk boq qo’y oldirmas

qo’radan.　慣用表現：uning mushugini hech kim pisht demaydi, bekorga mushuk ham oftobga chiqmaydi.　短所的な意味を表す”猫“に関する諺：uy mushugi jim tursa och qolar, erinchoqning qo’lini mushuk yalar, mushuk sog‘lig‘idan o‘lmas, suqligidan o‘lar, shoshgan mushuk sichqqon tutolmas, mushuk yurgursa ham yo‘lbars bo’lmas, yuvvosh mushukning tishi o‘tkir bo’lar, sichoqonga o‘lim, mushukga o‘yin, itdan suyak ortmas mushukdan bez, mushuk sher bo‘lmas eshshak toy, it mushuk do‘st bo‘lsa sichqonni hudo urar. 慣用表現：mushuk –sichqon o‘ynamasin, suvga tushgan mushukdek, oralaridan qora ola mushuk o‘tdi.

今後の課題

本稿では、諺/慣用表現を意味論的に分析し、グループに分けた。しかし、ウズベク母語話者、日本語学習者が日本語とウズベク語の諺/慣用表現を使う際どの問題が生じるか、それから、どのような困難さが出てくるのか。こういう点が今度明らかにできなかったが、今度の大学院の研究ではその点も含めて考察したい。

参加文献。

ウズベク語で：

1.Karimov I.A. “O’zbekiston XXI asr bo’sag’asida:Havfsizlikka tahdid va barqarorlik shartlari” T-sharq,1997,142-bet

2. O’zbekiston XXI asr bo’sag’asida:Havfsizlikka tahdid va barqarorlik shartlari” T-sharq,1997,142-bet

3.Karimov I.A. “Bunyodkorli yo’lidan”. O’zbekiston, Toshkent-1996, 4-88-betlar

O‘zbek tilidagi adabiyotlar:

1. A.Musaqulov, B.Sarimsoqov “O’zbek xalq maqollari II tomli lug’ati” Toshkent-2001

2. Sh.Rahmatullayev “ O’zbek tilining izohli lug’at” Toshkent 1978

3.A,Mamatovning “Hozirgi o’zbek adabiy tilida leksik-iboralar norma muammolari”1991

4. B.Yo’ldoshevning “Hozirgi o’zbek adabiy tilida maqol va iboralarning funksional uslubiy xususiyatlari” 1994

5.M.A.Hamroyev “O’zbek tilidan ma’ruzalar majmuasi” 2005

6. B.Yo’ldoshev Frazelogiya tarixidan lavhalar- Samarqand So’gdiyona,1998-110-b

7. To‘ra Mirzayev “O‘zbek xalq maqollari”, “Sharq” nashriyoti, 2005

8. Shotursun Shomaqsudov. Shuhrat Shorahmedov “Ma’nolar maxzani” , “O‘zbekiston milliy entsiklopediyasi” 2001

9. Shotursun Shomaqsudov. Shuhrat Shorahmedov “Hikmatnoma. O‘zbek maqollarining izohli lug‘ati” “O‘zbekiston milliy entsiklopediyasi” Toshkent- 1990

日本語で：

1. 中川雄三『ひと目でわかる野鳥』、成美堂出版、2010 年 1 月。ISBN 978-4415305325 223 ページ

2. ジャン・シュヴァリエ アラン・ゲールブラン「世界シンボル大事典 Dictionnaire des Symboles」株式会社大修館書店、1996 年 12 月 15 日 216 ページ

4. 望月久貴「実用故事ことわざ辞典」千曲秀版社、昭和 53 年 10 月 1 日

5. 『明鏡 ことわざ成句使い方辞典』 ２００７年０７月１０日 940-941-942-943-944 ページ

6. 「日本語故事ことわざ辞典」1985 年

7. 「日本語慣用句事典 」2005 年０７月１２日

インターネットサイト：

１． http://kotowaza-allguide.com/keyword/ne/neko.html

２． https://kotowaza.jitenon.jp/kanji/1140.php

３． http://www.necozanmai.com/zatsugaku/proverb-japan.html

４． https://petokoto.com/articles/1448

５． http://www.fukuneko-myu.com/Myu20.html

６． http://kotowazoo.com/2doubutu/02neko.html

多義動詞「掛ける」の意味拡張のパターン

氏名：オルティクボエフ　ヴぃソラ

タシケント国立東洋学大学日本語学部

メール先：visolortiqboyeva@gmail.com

Tashkent state university of oriental studies

Faculty of japanese science department of japanese philology

1 st year student Ortikboeva Visola Bakhrom kizi

The subject of the article: The main factors of influencing the use of the Japanese verb "Kakeru"「掛ける」 in many different meanings

Annotation

The importance of this research is that it addresses the problem of polysemy for those who continue their research in the field of linguistics, the factors influencing the use of words in many senses, the reasons, and Japanese language learners. and for those whose mother tongue is Japanese. it helps to gain knowledge by studying more clearly and in depth.

Japanese differs from other languages in that it has a complex structure. One of the peculiarities of the Japanese language is that a word has many meanings, and these meanings do not have a definite denotative meaning. The existence of kakeru verbs written in other hieroglyphs (kanji) in Japanese and their different meanings, however, the fact that you write hieroglyphs (kanji) in contexts does not understand its meaning among Japanese language learners, leading to some misunderstandings and errors can be seen.

This research was presented in the analysis of Japanese literature, scientific works and articles, and was based on the views of linguists on the problem of polysemy. Also, the reasons for the use of words in many senses, the intra and extralinguistic factors influencing it were analyzed.

The aim of this study is to provide an intralinguistic analysis of the reasons for the multiple use of the Japanese verb 「guà ke ru」 (kakeru). An easy and clear analysis of the main factors that lead to the use of the verb in many senses, for future learners of Japanese and those whose native language is Japanese, in the use of this verb, to understand its meaning we hope that it provides opportunities to prevent errors.

キーワード　言語学内、言語外、ポリセントリズム、セマンチック分析、メタファー、メタなミー

- **背景説明**

日本語では多義語よく使われている。多義語（たぎご）とは、一つで複数の意味を持つ語のことである。また、そのような性質を「多義的」あるいは「多義性」という。

元来別の語であったもの（狭義の同音異義語）と、同一語であったが歴史的に意味が分化し別語と認識されるようになったものとに分けることができるが、必ずしも区別できない場合もある。[63]

ほとんどの言葉は曖昧である。 多義語はコンテキストと密接に関連しているため、言葉の意味を区別できる。

現在、言葉は多くの意味で使用されている。 日本語にも多義語が多い。この研究論文で研究されている「掛ける」 も多義動詞である。「掛ける」は日本語の多義語動詞の中でも、意味の多義性に富む動詞の一つである。

(1) 壁に絵をかける　　(2) ハンガーに洋服をかける

(3) 川に橋をかける　　(4) 小鳥が街路樹に巣をかける

(5) 荷物の上に覆いをかける　(6) 肉にコショウをかける

(7) ミシンをかける　　(8) ラジオをかけっぱなしにする

(9) ひとり息子に期待をかける　(10) 新入生に誘いをかける

(11) 関係代名詞を名詞句にかける (12) ２に３をかけると６

これらの例では、「掛ける」の意味が異なり、「ぶらさげる」「おおいかぶす」「ふりかける」 「つながる」とか意味がある。でも「掛ける」動詞の支配的な意味がない。これは「掛ける」動詞の意味拡張の原因を見つけるのが難しいかもしれないと思う。第二言語習得において、多義語が習得の困難な語量項目の一津とされるのは、このような意味の多義性と、使い分けの複雑さにある。学習者は通常、未知語の意味を辞書による対訳を通して学んでいくが、多義語の場合、辞書には上記のように数多くの訳語が並ぶ。これらの訳語をこれまでのようにそれぞれに当てはめて理解するという学習法は、母語話者にとってはひとつのまとまりのある語の意味を分断してしまうという指摘があるという指摘がある。(松田 2004 p95)とのべている。

- **問題提起**

「掛ける」動詞に関するさまざまな観点からの研究が多少されているが、その動詞のもともとの意味とその意味拡張には影響する要素にかかわる研究は不足している。

どうして一つの動詞「掛ける」はさまざまな意味で、さまざまな場合に使われるのでしょうか。

[63] 森山 新(2014)「基本多義動詞の意味構造, 及び習得との関係についての実証的研究」『お茶の水女子大学

- 「掛ける」動詞に関するさまざまな観点からの研究が多少されているが、その動詞の意味拡張には影響する要素にかかわる研究は不足している。

多くの意味でこの動詞を使用する理由は、第一に、動詞「掛ける」と関連する名詞との関係、第二に、動詞と目的語の間の関係の類似性、そして第三に、言語内の要因ではないでしょうか。

言葉が様々な意味で使われる理由

Z.A. Xaritonchik は、言語外の要因は、人々の生活におけるさまざまな歴史的、社会的、経済的、技術的およびその他の変化によって引き起こされ、新しい名前を作成し、その結果、言語の新しい意味で既存の指名手段が使用されることになると説明している

Z.A. Xaritonchik によると、言葉の意味が拡張するは、言語内の要因に依存している：意味の差別化、意味の類似性（類似性）、意味の伝達方法（メタファー、メタなーみ）などである。

言語内の中では、多義語の意味拡張に影響を与える原因がメタファー、メトナミー、提喩などである。

1. 君は太陽のようだ － メタファー

2. 昨日ナボイを読みました － メトナミー

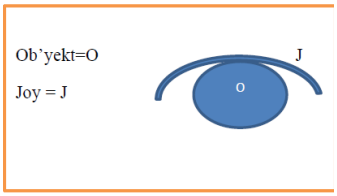
3. 花見に行く － シネクドキ

壁に絵を掛ける

壁に ⟶ 名詞+助詞「に」+「掛ける」
には「どこに」 ⟶ 方向性や場所
絵を ⟶名詞＋助詞「を」「掛ける」
場合の助詞「を」は、⟶「掛ける」の目的語
この意味モデルに基づいて、動詞カケルは 7 つのグループに分けられた。

意味 1

場所 と物（目的語） の接触する部分が点あるいは線となっている。
a） 壁に絵を掛ける
b） 窓にカーテンを掛ける
c） ハンガーに服をかける
この「掛ける」は「ぶらさげる」に近い意味（場所）と（物）が部分的に接触する。



O=目的語　　J=場所

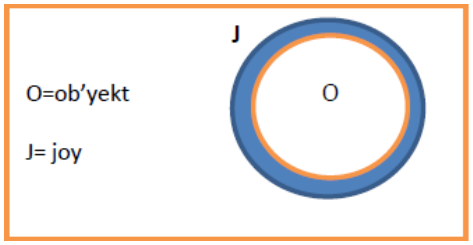
意味２

d)　テーブルにクロスを掛ける

e)　子供に布団を掛ける

f)　ベッドにカバーをかける

「かける」は「覆う」に近い意で味場所か対象の上に目的語を置く。



O=目的語　　J=場所

- 場所「に」名詞＋助詞「を」＋かける　　助詞「を」は、「掛ける」の目的語

意味３

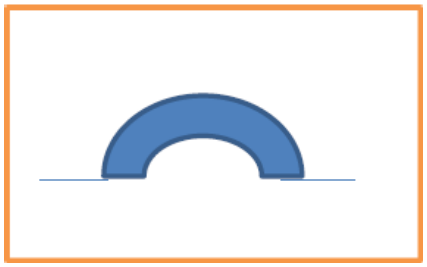
g)　意味 Ｉ と＜場所をまたぐような状態で＞＜接触させ＞＜接点を支えとして＞＜場所が物を支える＞

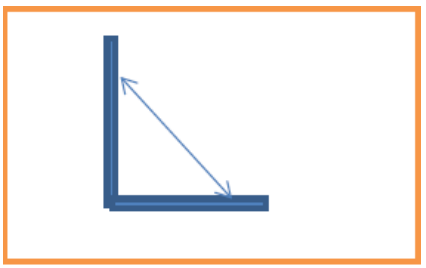
h)　「川に橋をかける」

i)　「二階にはしごをかける

j)　「友達に電話を掛ける」

「橋をかける」も「はしごをかける」も離れた２つの場所をつなぐために物を跨らせることを表している。





橋を掛ける　　はしごを掛ける

- 物／場所／人「に」名詞＋助詞「を」＋掛ける　　助詞「を」は、「掛ける」の目的語

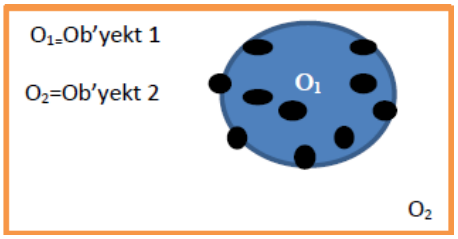
意味４

a）肉に塩を掛ける

b）魚にソースを掛ける

c）花に水を掛ける

「掛ける」は「撒く」や「ふりかける」に近い意味物 が対象を覆うイメージで対象の上に広がるという点において意味Ⅱに類似している。



0_1=対象　　0_2=目的語

物「に」名詞＋助詞「を」＋掛ける　　助詞「を」は、「掛ける」の目的語

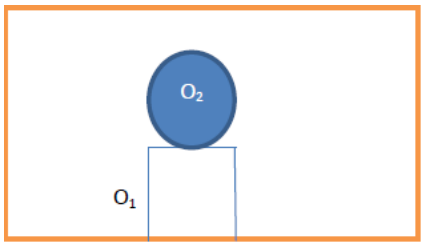
意味５

k）　肩に手を掛ける

l）　椅子に腰を掛ける

m）　レンジに鍋を掛ける

かける」は「身体部位をある場所に置く」に近い意味



O_1=場所　　O_2=物

● 名詞＋助詞「を」＋掛ける　　助詞「を」は、「掛ける」の目的語

意味６

n）　鍵を掛ける

o）　ブレーキをを掛ける

p）　ラジオを掛ける

q）　アイロンを掛ける

7 意味

r）　（肩に）たすきをかける

s）　プレゼントにリボンをかける

意味１、意味 2、意味 3 の関連性について論じる。意味 Ⅰ の場合、「壁に絵をかける」や「ハンガーに洋服をかける」などの例に示されるように、場所 と物（目的語） の接触する部分が点あるいは線となっている。一方、意味Ⅱの場合は、「子どもに布団をかける」や「テブルニクロスを掛ける」のような例に示されるように、場所 と物 の接触する部分が面となっている。さらに、意味３になると、「花に水をかける」や「肉にコショウをかける」のような例に示されるように、場所 が複数の個体からなる集合体とみなすことができ、その複数の個体が物 に散在している。意味 5 は、「椅子に腰をかける」や「手をドアノブにかける」のような例に示されるように、場所 を人間の身体部位に限定する用法で、再帰的な表現に属しており、物と場所 の接触する部分が基本的に面となっている。

意味４

「橋を掛ける」と「はしごを掛ける」とは 「かける」の意味 Ⅰ とさらに離れているが、壁と地面を統一体と見なし、空間的回転のイメージ操作により、その統一体を下にすると、「はしご」をそれに＜またぐような状態で＞＜接触させ＞＜接点を支えとして＞＜

場所が目的語を支える＞という共通の部分を見出せる。これは類似点を持っているため、メタファーに基づいた意味拡張であると考えられる

- 意味６「鍵をかける」ことと「ドアをロックする」ことは因果関係を持って時間的に隣接しているため、メトニミーに基づき、「鍵をかける」の意味には「ドアをロックする」の意味が組み入れられて、定着している。
- 「アイロンを掛ける」
- 「ブレーキを掛ける」
- 「掃除機を掛ける」という例でもメトニミーに基づき、掛けるのいみが拡張したと考えられる。

意味７　意味Ｉと比べると、場所/物　と目的語　が部分的に接触するのではなく、目的語全体が場所/物　につけている状態である。また意味Ｉに含まれている「接点を支えとして、場所/物　が目的語　を支える」要素が背景化し、「一周してつける」ことに焦点を当てている。典型的な目的語としては、たすきやリボンのような細長いものが挙げられる。

「掛ける」動詞を表して来る名詞

1 **グループ** 名詞+助詞「を」+掛ける　助詞「を」は、「かける」の目的語。目的語は紐状や布のような物；タオル、カーテン、服、布団など

２**−グループ** 名詞+助詞「を」+掛ける　助詞「を」は、「かける」の目的語。目的語は水のような液体、塩胡椒のような粉末、またソースや割った卵のような混合物

3 **グループ** 目的語は身体部位の物腰や手など

4 **グループ**　道具・機械

アイロンをかける

掃除機をかける

5 **グループ** たすきやリボンのような細長い帯状の物

6 **グループ**　　人間の活動と精神を表す

ある主題の影響と別の主題の影響の関係を見ることができる。

魔法に掛ける

麻酔を掛ける

嫌疑を掛ける

心配を掛ける

迷惑を掛ける

多義動詞「掛ける」の意味拡張において、それが言語内の要因によって引き起こされることが分かった。

グループ 7 では、メタファーとメタノミーが意味の拡張に影響を与えると考えられます。日本語では、多義詞「掛ける」を表して来る名詞が影響の結果の意味拡張の要因となっていると考えられます。

結論

人類はその辞書にある言葉を使って、周囲に名前を付けたり、コミュニケーションしたりしてきます。環境について学ぶ過程で、私たちはいくつかのオブジェクトと他のオブジェクトとの想像上の関係に基づいていくつかのオブジェクトに名前を付け、他のオブジェクトをそのオブジェクトの名前で呼ぶ。　その結果、単語には複数の意味がある。

したがって、多義の現象が発生する。多義性は、単語の意味構造の発達の結果である。あいまいさの現象は言語発達の結果として発生するが、これは特定の言語の発達のレベルを示す。
本研究では、「掛ける」動詞の意味が７意味に分けられて分析した。意味１、２、３、４、５、６ の動詞は、メタファーとメトナミーに**基づいて「掛ける」動詞の**意味が拡張した。

多義動詞「掛ける」の意味拡張において、それが言語内の要因によって引き起こされることが分かった。

日本語では、多義詞「掛ける」を表して来る名詞が影響の結果の意味拡張の要因となっていると考えられます。

「掛ける」動詞を表してくる単語の同じ性質、外観、物理的および化学的性質の類似性は、多くの意味での使用につながる要因の１つであると言える。

Theme: Modality of the assumption and ways of its expression in the Uzbek and Japanese languages

Ravshanova Aziza

Тема: Модальность предположения и способы ее выражения в узбекском и японском языках

Равшанова Азиза
Ташкентский государственный университет востоковедения
Магистратура 1 курс, Лингвистика. Японский язык

История изучения вопроса модальности

Аннотация. В статье рассматривается история изучения вопроса модальности. Особое внимание уделяется пройденному пути и ученным которые изучали модальность, и выдвигали свои определения касающиеся модальности.

Ключевые слова: модальность, функция, модальные глаголы, модальные слова, реальность

История изучения модальности восходит к идеям древних философов, которые рассматривали модальность как характеристику суждения. Так, Аристотель рассматривал такие частотные модальные понятия, как «необходимо», «возможно», «случайно».

Лингвистика прошла долгий путь в исследовании модальности, основываясь на достижениях логики, семиотики и психологии. Однако модальность до сих пор не получила полного объяснения в связи с ее многоплановостью, специфичностью языкового выражения и функциональными особенностями. Изучение модальности в лингвистике имеет давнюю традицию, так как модальность является одним из самых сложных и противоречивых понятий, имеющих множество различных трактовок. В связи с разнообразием подходов к рассматриваемому явлению, тема настоящей статьи представляется актуальной в современном языкознании для раскрытия особенностей и структуры модальности в узбекском и японском языке. Концептуальная основа изучения модальности в языке опирается на некоторые положения логико-философских теорий модальности. Поэтому определение логико- философской сущности слова «модальность» имеет важное значение для изучения данного понятия в рамках лингвистики.

1980 年代から 1990 年代にかけて，日本語モダリティの研究が盛んに行われて，多 くの学術的に優れた成果が生まれてきた。その結果，モダリティが日本語の文法カテ ゴリーの 1 つとして定着しており，1990 年代後半以降に出版された日本語文法の全体 を扱う著作に，モダリティを，ヴォイス，テンス，アスペクトと同じように，文法カ テゴリーの 1 つとして論述しているものがかなり多い。従来，助動詞（「う（よう）」， 「ようだ」，「らしい」など）や終助詞（「ね」，「よ」，「な」など），動詞の活用形（命令形，意志形など）として別々に扱われていたモダリティ表現は今は，モダリティと いう文法カテゴリーの下に集められて，新しい視点で研究されつつある。これにより， それらの表現に関する様々な新しい知見が得られた。 ただし，日本語モダリティの研究に

は，少なくとも次の 2 つの問題点があると考え られる。1 つ目はヴォイス，テンス，アスペクトなどの文法カテゴリーに比べれば，モ ダリティの関わる範囲が広すぎ，助動詞，文類型，動詞の活用，敬語，終助詞など， 幅広い研究テーマに及んでいることである。2 つ目は幅広い研究テーマを収めてきたモ ダリティ研究の扱っている表現も助動詞，動詞の活用形，終助詞，とりたて助詞など を含んでいるというふうに，多種多様になることである。つまり，日本語の文法カテ ゴリーでは，モダリティが「異質な存在」であると言える。本研究は従来の日本語モ ダリティの研究を踏まえつつも，ある程度原点に立ち帰って，必要最小限の範囲で， 日本語のモダリティを再考し捉え直してみた。

ТИЛШУНОСЛИКДА МОДАЛЛИК КАТЕГОРИЯСИ, УНИНГ ЯПОН ВА ЎЗБЕК ТИЛЛАРИДА ИФОДАЛАНИШИНИНГ ЎЗИГА ХОС ХУСУСИЯТЛАРИ

Замонавий тилшуносликда модаллик ниҳоятда кенг тушунча бўлиб, ифода шакли ва турли маъноларнинг уйғунлашиб ифодаланиш хусусиятига кўра жуда хилма-хилдир. Модаллик (лот. modalis — ўлчов, усул) — фикрнинг воқеликка бўлган муносабатларининг турли хил кўринишларини, шунингдек, билдирилаётган нарсаларнинг субъектив тарзда таснифланишининг турлича кўринишларини ифодаловчи функционал-семантик категория [64] . Фанга модаллик Аристотел томонидан киритилгани хақида бир қанча манбааларда келтирилган[65].

Тилшуносликда модаллик деганда, одатда, «сўзловчининг ифодаланаётган фикрга муносабатини билдирувчи грамматик-семантик категория ёки сўзловчининг гап мазмунига бўлган муносабати тушунилади». Турниёзовнинг фикрича, «гап унсурларининг модаллик белгиси бир томондан сўзловчи шахс руҳияти билан боғлиқ бўлса, иккинчи томондан уларнинг англатадиган маънолари билан ҳам узвий алоқадордир [66] ». Модаллик 1) объектив модаллик, 2) субъектив модаллик каби турларга бўлинади.

Объектив модаллик билдирилаётган фикрнинг воқеликка муносабати (реал ва нореал, имконият ва имконсизлик, зарурият ва эҳтимоллик каби)ни англатади ҳамда грамматик ва лексик воситалар (майл, модал сўз, юклама, интонация) ёрдамида ифодаланади. Субъектив модаллик эса сўзловчининг айтилаётган фикр (ишонч ёки ишончсизлик, розилик ёки норозилик, экс-прессив баҳо) га муносабатини кўрсатади ва сўз тартиби, интонация, лексик такрор, модал сўз, юклама, ундов, кириш сўз, сўз бирикмаси ва кириш гаплар билан ифодаланади.

---

[64] https://qomus.info/encyclopedia/cat-m/modallik-uz/

[65] https://qomus.info/encyclopedia/cat-m/modallik-uz/

[66] Турниёзов Н. Нутқ ва унинг эгоцентрик характери хусусида баъзи мулоҳазалар // Тил ва нутқ систем-сатҳ талқинида. Самарқанд ДЧТИ, 2005. - Б. 21-22

Ҳозиргача модаллик категориясининг мазмуни ва кўлами ҳақида ягона тўхтамга келинган эмас. Бу лингвистик модаллик билан мантиқий модаллик тўлалигича бир-бирига мос келмаслиги билан изоҳланади ва ҳар икки фан учун катта муаммо ҳисобланади.

Тадқиқотчи 蒋 家義 ўзининг “モダリティの体系と認識のモダリティ” (Модаллик тизими ва когнитив модаллик) номли тадқиқотида япон тилида модалликнинг тўрт асосий таснифини келтиради, булар: Dynamic modality, deontic modality, epistemic modality, interactional modality. Динамик модаллик субьектнинг қобилияти ва иродасини ифодалайди. Деонтик модаллик эса кўрстма, илтимос ёки таъқиқни, эпистемик модаллик эса ҳақиқат ҳақидаги хукмни ифодалайди. Интерактив модалликда сўзловчи ва тингловчи ўртасидаги иерархик муносабатлар назарда тутилади[67].

Динамик модаллик:

（1）田中さんは納豆が食べられます。

（2）君にこの本をあげよう。

Деонтик модаллик:

（3）こっちへ来い。

（4）ご自由に召し上がってください。

Эпистемик модаллик:

（5）もうそろそろ帰るだろう。

（6）彼はそのことを知らなかったようだ。

Интерактив модаллик

（7）「毎日，たいへんですね。」
「ええ，疲れますわ。」

（8）「お前は飛行出来るかな？」
或る時秀吉が五右衛門に訊いた。

（9）「「健ちゃん！ 蛙がいるよ。」
「蛙？ どら，どこにいる？」
「自由自在でございます」

Определение модальности по лингвистическому энциклопедическому словарю

[67]蒋 家義.モダリティの体系と認識のモダリティ.杏林大学大学院\国際協力研究科博士後期課程

(от ср.-лат. modalis — модальный; лат. modus — мера, способ)— функционально-семантическая категория, выражающая разные виды отношения высказывания к действительности, а также разные виды субъективной квалификации сообщаемого. М. является языковой универсалией, она принадлежит к числу осн. категорий естеств. языка (см. Категория языковая), «в разных формах обнаруживающихся в языках разных систем..., в языках европейской системы она охватывает всю ткань речи» (В. В. Виноградов). Термин «М.» используется для обозначения широкого круга явлений, неоднородных по смысловому объему, грамматическими свойствам и по степени оформленности на разных уровнях языковой структуры. Вопрос о границах этой категории решается разными исследователями по-разному. К сфере М. относят: противопоставление высказываний по характеру их коммуникативной целевой установки (утверждение — вопрос — побуждение); противопоставление по признаку «утверждение — отрицание»; в диапазоне «реальность — ирреальность» (реальность — гипотетичность — ирреальность), разную степень уверенности говорящего в достоверности формирующейся у него мысли о действительности; разл. видоизменения связи между подлежащим и сказуемым, выраженные лекснч. средствами («хочет», «может», «должен», «нужно») и др. Категорию М. большинство исследователей дифференцируют. Один из аспектов дифференциации — противопоставление объективной и субъективной М. Объективная М.— обязат. признак любого высказывания, одна из категорий, формирующих предикативную единицу — предложение. Объективная М. выражает отношение сообщаемого к действительности в плане реальности (осуществляем ости или осуществленное™) и ирреальности (не осуществляемости). Гл. средством оформления М. в этой функции является категория глагольного наклонения. На синтаксическом уровне объективная М. представлена противопоставлением форм синтакснч. изъявит, наклонения формам синтакснч. ирреальных наклонений (сослагательного, условного, желательного, побудительного, должесвовательного). Категория изъявит, наклонения (индикатива) заключает в себе объективно-модальные значения реальности, т. е. временной определенности: соотношением форм индикатива («Люди счастливы» — «Люди были счастливы»— «Люди будут счастливы») содержание сообщения отнесено в одни нз трех временных планов — настоящего, прошедшего нлн будущего. Соотношением форм ирреальных наклонений, характеризующихся временной неопределенностью («Люди были бы счастливы» — «Пусть бы люди были счастливы» — «Пусть люди будут счастливы»), при помощи спец. модификаторов (глагольных форм и частиц) то же сообщение отнесено в план желаемого, требуемого или необходимого. Объективная М. органически связана с категорией времени и дифференцирована по признаку временной определенности/неопределенности. Объективно-модальные значения организуются в систему противопоставлений, выявляющуюся в грамматической парадигме предложения. Субъективная М., т. е. отношение говорящего к сообщаемому, в отличие от объективной М., является факультативным признаком высказывания. Семантический объем субъективной М. шире семантический объема объективной М.; значения, составляющие содержание категории субъективной М., неоднородны, требуют упорядочения; многие нз них не имеют прямого отношения к грамматике. Смысловую основу субъективной М. образует понятие оценки в широком смысле слова, включая не только логич. (интеллектуальную, рациональную) квалификацию сообщаемого, но и разные виды эмоциональной (иррациональной) реакции. Субъективная М. охватывает всю гамму реально существующих в естеств. языке разноаспектных н разнохарактерных способов квалификации сообщаемого и реализуется: 1) спец. лексико-

грамматич. классом слов, а также функционально близкими к ним словосочетаниями и предложениями; средства обычно занимают в составе высказывания синтагматический автономную позицию и функционируют в качестве вводных единиц; 2) введением спец. модальных частиц, напр., для выражения неуверенности («вроде»), предположения («разве что»), недостоверности («якобы»), удивления («ну и»), опасения («чего доброго») и др.; 3) при помощи междометий («ах!», «ой-ой-ой1», «увы» и др.); 4) спец. интонационными средствами для акцентирования удивления, сомнения, уверенности, недоверия, протеста, иронии и др. эмоционально-экспрессивных оттенков субъективного отношения к сообщаемому; 5) при помощи порядка слов, напр. вынесением гл. члена предложения в начало для выражения отрицат. отношения, иронич. отрицания («Станет ои тебя слушать!», «Хорош друг1»); 6) спец. конструкциями — специализиров. структурной схемой предложения или схемой построения его компонентов, напр. построениями типа: «Нет чтобы подождать» (для выражения сожаления по поводу чего-либо неосуществившегося), «Она возьми и скажи» (для выражения неподготовленности, внезапности действия) и др. Средства субъективной М. функционируют как модификаторы осн. модальной квалификации, выраженной глагольным наклонением, они способны перекрывать объективно-модальные характеристики, образуя в модальной иерархии высказывания квалификацию «последней инстанции». При этом объектом факультативной оценки может оказаться не только предикативная основа, но любой информативно значимый фрагмент сообщаемого; в этом случае на периферии предложения возникает имитация дополнит, предикативного ядра, создавая эффект полипреднкативности сообщаемого. В категории субъективной М. естеств. язык фиксирует одно из ключевых свойств человеческой психики: способность противопоставлять «я» н (концептуальное начало нейтрально-информативному фону) в рамках высказывания. В наиболее законченном виде эта концепция нашла отражение в работах Ш. Балли, к-рый считал, что в любом высказывании реализуется противопоставление фактнч. содержания (диктума) и индивидуальной оценки излагаемых фактов (модуса). Балли определяет М. как активную мыслит, операцию, производимую говорящим субъектом над представлением, содержащимся в диктуме. В рус. яз-знанни глубокий анализ МОДАЛЬНОСТЬ функционального диапазона М. и, и частности, конкретных форм проявления субъективной М. на разных уровнях языковой системы представлен в работе Виноградова «О категории модальности и модальных словах в русском языке», послужившей стимулом для ряда исследований, направленных иа углубление поиска собственно языковых аспектов изучения М. (в отличие от логич. М.), а также на изучение специфики оформления этой категории в условиях конкретного языка с учетом его типология, особенностей. Во мн. исследованиях подчеркивается условность противопоставления объективной и субъективной М. По мнению А. М. Пешковского, категория М. выражает только одно отношение — отношение говорящего к той связи, к-рая устанавливается им же между содержанием данного высказывания и действительностью, т. е. «отношение к отношению». При таком подходе М. изучается как комплексная и многоаспектная категория, активно взаимодействующая с целой системой др. функцнонально-семантнч. категорий языка н тесно связанная с категориями прагматнч. уровня (см. Прагматика). С этих позиций в категории М. усматривают отражение сложных взаимодействий между четырьмя факторами коммуникации: говорящим, собеседником, содержанием высказывания с действительность.

МОДАЛЬНОСТЬ - категория, выражающая отношение говорящего к содержанию высказывания, отношение последнего к действительности. Модальность может иметь значение утверждения, приказания, пожелания и др. Выражается специальными формами наклонений, интонацией, модальными словами (напр., "возможно", "необходимо", "должен"); в логике такие слова называются модальными операторами, с их помощью указывается способ понимания суждений (высказываний).

Концепция модальности

Разрабатывая теорию высказывания, швейцарский лингвист Шарль Балли отметил, что в высказывании можно выделить два элемента: основное содержание (диктум) и индивидуальную оценку излагаемых фактов (модус). Балли позаимствовал термины диктум (лат. dictum — слово, выражение) и модус (лат. modus — способ) из схоластики и использовал их для обозначения объективной и субъективной части суждения. Учение Балли о модусе и диктуме, наряду с лингвистической философией (О. Дюкро), оказалось продуктивным и для многих других направлений лингвистических исследований: изучение номинативного аспекта высказывания, сложной фразы, анализа наклонений глагола, синтаксической структуры разговорной речи. Следует упомянуть успешное применение этих понятий для функционального изучения диалога [Арутюнова 1970]. Имеется опыт использования понятия «модуса» в трансформационной грамматике для конструирования фразовых показателей глубинных структур [Kawamoto 1967], а модуса и диктума вместе — для разграничения предложений с различной модальностью [Kawamoto 1970].

Концептуальная основа изучения модальности в языке опирается на некоторые положения логико-философских теорий модальности. Поэтому определение логико- философской сущности слова «модальность» имеет важное значение для изучения данного понятия в рамках лингвистики. В лингвистике категория модальности имеет много аспектов изучения и рассматривается с различных научных позиций. Всестороннюю характеристику модальности можно найти в трудах академика В.В. Виноградова (1975). Им прослежена история изучения данной категории, очерчен круг средств выражения модальности, выявлены её объем и конкретное содержание. Он считает, что каждое предложение содержит в себе указание на отношение к действительности. Такого же мнения и другой отечественный языковед И.Р. Гальперин (1981), рассматривающий модальность как категорию, присущую языку в действительности, т.е. речи, и поэтому являющуюся самой сущностью коммуникативного процесса. Однако, современными авторами выдвигается более узкое понимание модальности, которые определяют модальность как отнесенность содержания предложения к действительности с точки зрения говорящего (В.З. Панфилов, 1977). Другие понимают модальность как противопоставленность реального/ирреального отношения высказывания к действительности (Г.А. Золотова, 1962). Широко распространяется также точка зрения, согласно которой инвариантным значением модальности является отнесенность содержания высказывания к действительности, т.е. модальность распространяется на отношение субъекта высказывания к действию и отношение говорящего к достоверности содержания высказывания (Дан Тхи Шам, 2005). При таком подходе многие разновидности и средства выражения модальности объявляются второстепенными или вовсе оставляются вне этой многогранной, но вместе с тем цельной

категории. Такая точка зрения представлена в работах А.В. Бондарко (1990), М. Грепла (1973), Г.А. Золотовой (1962), В.З. Панфилова (1977) и некоторых других лингвистов.

Объективная модальность - обязательный признак любого высказывания. Она, по В.З. Панфилову (1977), отражает характер объективных связей, наличных в той или иной ситуации, на который направлен познавательный акт, а именно связи возможные, действительные и необходимые. Субъективная модальность выражает оценку со стороны говорящего степени познанности этих связей, т.е. она указывает на степень достоверности мысли, отражающей данную ситуацию, и включает проблематическую, простую и категорическую достоверности. Кроме того, с категорией модальности соприкасаются и частично переплетаются разные виды и типы эмоциональной экспрессии (возмущение, восхищение, угроза и т.п.). Как указывает В.В. Виноградов (1975), необходимо проводить принципиальную четкую грань между разными эмоциональными формами выражения реакций на действительность и модальной оценкой отношения высказывания к действительности, хотя обе эти сферы речевых явлений имеют самое тесное взаимодействие. Он считал, что модальные значения расширяются в сторону выражения разных логически-оценочных и эмоциональнооценочных значений и стилистической квалификации речи, которые передаются в предложении с помощью различных вводно-модальных образований. Согласно Н.Ю. Шведовой(1960) эмоциональное отношение к сообщаемому квалифицируется как модальное. Но вместе с этим развивается мнение, в котором эмоционально-экспрессивные отношения исключаются из разряда модальных (Н.С. Валгина, 2003). Г.А.Золотова (1962), трактуя понятие модальности, главным образом, как выражение отношения в плане достоверности/ недостоверности, выделяет три типа отношений: во-первых, это отношение содержания высказывания (как предикативного признака) к действительности с точки зрения говорящего; во-вторых, отношение к содержанию высказывания; в-третьих, отношение между субъектом — носителем признака и предикативным признаком. Модальность в трактовке Ш. Балли(1955) выступает как синтаксическая категория, в выражении которой первостепенную роль играют модальные глаголы, обозначающие суждение говорящего о предмете речи. Как сторонник широкого понимания модальности он считал модальность душой предложения и в число модальных значений включал самые различные оттенки суждения, чувства или воли, которые выражаются модальными глаголами, наклонениями, интонацией, формами вопроса, приказаниями, модальными жестами, мимикой лица, междометиями и другими приемами, с помощью которых пробуждается и поддерживается внимание собеседника. 360 Позже опираясь на концепцию Ш. Балли (1955), ряд отечественных и зарубежных ученых в качестве основной составляющей модального значения стали выделять коммуникативную форму высказывания. Если Т.Б. Алисова (1969) различает коммуникативную и субъективнооценочную модальность, то Э. Бенвенист (1974) считает, что связанные с общением функции речи запечатлены в формах модальности предложения, т.е. утвердительные, вопросительные и повелительные типы предложений отражают основные позиции говорящего, который воздействует на собеседника своей речью: говорящий либо хочет передать собеседнику элементы знания, либо получить от него информацию, либо — приказать что-то сделать. Таким образом, анализируя научную литературу, можно сказать, что понятие модальности имеет в лингвистике многогранную трактовку, требующую глубокого изучения. Поскольку категория модальности признается очень сложной, отношение к ней неоднозначное, единого мнения относительно её природы нет. Так, одни

ученые рассматривают её как гносеологическое понятие, не связанное с личностной оценкой предмета мысли, другие же считают, что в этой категории проявляется субъектно-оценочное отношение. Вместе с тем всеми признается, что категория модальности включает выражение реальности/нереальности высказывания. В лингвистике модальность рассматривают как сложную функционально – семантическую категорию, которая имеет отношение к действительности и к мнению говорящего. Следовательно, данная категория представляет большой интерес в лингвистике, так как каждый язык индивидуален и имеет свои определенные грамматические и лексические единицы, выражающие модальность.

Список литературы

1. Большой Энциклопедический словарь онлайн (slovaronline.com)
2.Алиева Э. Н. Функционально-семантическая категория модальности и ее реализация в разноструктурных языках (русском, английском, лезгинском): Автореф. дис. …док. филол. наук / Э.Н.Алиева; М., 2010. – 50 с.;
3. Алисова Т.Б. Семантикокоммуникативный субстрат без личных предложений // Инвариантные синтаксические значения и структура предложения (Доклады на конференции по теоретическим проблемам синтаксиса). - М.: Наука, 1969. - С.27-36.;
4.Балли Ш. Общая лингвистика и вопросы французского языка- М.:Изд-во иностр.литер., 1955. - 416с.;
5.Бенвенист Э. Общая лингвистика. - М.: Прогресс, 1974. -447с.;
6.Бондарко А.В. Реальность / ирреальность и потенциальность // ТФГ. - М.: Наука, 1990. - С. 72-80.;
7.Валгина Н.С. Современный русский язык: Синтаксис: Учебник. – 4-ое изд., испр. - М.: Высшая школа, 2003. - 416с.;
8.Виноградов В.В. О категории модальности и модальных словах в русском языке // В.В. Виноградов. Избранные труды. Исследования по русской грамматике. - М.: Наука, 1975. - С.53-87.
8.Гальперин И.Р. Текст как объект лингвистического исследования. - М, 1981.-139с.;
9.Грепль М. О сущности модальности

Yapon tilida holatni ifodalovchi taqlid so‘zlarning sintaktik tahlili

Syntactic analysis of imitation words that represent the situation in Japanese and which parts of speech can occur in a sentence.

Sobitova Nargiza

Аннотация

Ушбу мақола Япон тилидаги холатни ифодаловчи ва гап бўлакларининг гапда юзага келиши мумкин бўлган тақлидий сўзларнинг синтактик таҳлилига бағишланган.

Диссертациянинг кириш қисми диссертациянинг долзарблиги, мақсад ва вазифалари, унинг илмий ва амалий аҳамиятига бағишланган.

Асосий қисмнинг биринчи бобида тушунча, япон тилидаги тақлидий сўзларнинг умумий таърифи, тузилишининг семантик жиҳатлари, гуруҳлари ва ўрганилган олимларнинг илмий ишлари ҳақида маълумот берилган.

Таянч сўз ва иборалар: тақлид сўзлар, синтаксис, ҳолатни ифодаловчи тақлид сўзлар, япон тилида синтаксис, гап тузилиши,ега, кесим,аниқловчи,ҳол.

Аннотация.Эта цитатия посвящена синтаксическому анализу имитационных слов, которые представляют ситуацию в японском языке и какие части речи могут встречаться в предложении.

Вводная часть диссертации посвящена актуальности, целям и задачам диссертации, ее научной и практической значимости.

В первой главе основной части дается обзор понятия, общее определение подражательных слов в японском языке, семантические аспекты его структуры, группы и научная работа изучаемых ученых.

Опорные слова и выраженя: имитационные слова, синтаксис, имитационные слова, представляющие обстоятельство, синтаксис в японском языке, структура предложения, притяжательное, сказуемое, обстоятельство.

Abstract. This article focuses on the syntactic analysis of imitation words that represent the situation in Japanese and which parts of speech can occur in a sentence.

The introductory part of the dissertation deals with the relevance, goals and objectives of the dissertation, its scientific and practical significance.

Keywords and expressions. mitation words, syntax, imitation words denoting a situation, syntax in Japanese, sentence structure, possessive, participle, determiner, case.

はじめに。

日本語の特性の一つとして、オノマトペ（擬音語、擬態語）を使った表現が非常に多いということが挙げられる。「雨がザーザー降ってきて、ビュンビュン風が吹き付ける。」、「ソロリソロリと近づき、コソコソと耳元で話した。」、「子供たちは水をゴクゴク飲み、目の前のケーキをムシャムシャ頬張った。」、日本人なら誰もがこれらの文を読んだ時、雨風が激しい様子、音を抑えた動き、勢いよく飲食している様子を容易に思い浮かべることができる。それはザーザー、ビュンビュン、ソロリソロリ、コソコソ、ゴクゴク、ムシャムシャ、これらの表現が雨風、静かな動き、飲食の様子があたかも目の前にあるかの様に、直接的に表現されているからである。いわゆるオノマトペと呼ばれるこれらの表現、日本語には数多くあり、日本語を豊かにする一つの要因となっていると言えるだろう。

ある音や状態を簡潔にそして具体的に表現することのできるこのオノマトペはテレビ、ラジオ、新聞、本、雑誌などいたるところで目に耳にすることができる。「フカフカのベッド」、「カサカサの肌がツルツルに」、「サクサクした歯ごたえ」。コマーシャルなどでよく耳にするこれらのフレーズをオノマトペ

を使わずに表現すると、「弾力があってしかも肌触りのよいベッド」、「水分の不足した肌が柔らかで滑らかな肌に」、「乾燥して軽い歯ごたえ」となる。長く説明がくどいこれらの表現に比べるとオノマトペを使った前者の表現の方が、インパクトがあり、一言でそのベッド、肌の様態、歯ごたえをわかりやすく伝えているのではないだろうか。
日本での生活では常に近くにありながら、日本語教育の現場においてはあまり注目される機会の多くないオノマトペについて、その分類、用法、また日本語学習者のオノマトペに対する理解度について考察していく。
. オノマトペ(擬態語)とは
「状態じょうたい副詞ふくし」で述のべた擬音語ぎおんごと擬態語ぎたいごをまとめてオノマトペ（onomatopoeia）と呼よぶ。オノマトペは日常にちじょう会話かいわで多用たようされるため，日本語にほんごを理解りかいする上うえでとても重要じゅうようである。以下いかは基本的きほんてきなオノマトペの例れいである（三上みかみ 2006 が提示ていじした 70 語ご。ここではすべてひらがなで書かかれている)。オノマトペは同おなじ語ごを繰くり返かえすもの（畳語じょうご，reduplicated word）が多おおい。
あっさり いらいら うっかり うろうろ うんざり がたがた
がっかり がやがや からから がんがん きちんと ぎっしり
きらきら ぎりぎり ぐっすり ぐっと くるくる ぐるぐる
1 動詞として
日本語の状況を表現する模倣の言葉は、古代から形成され、彼らは主に人々の感情や内なる感覚を照らし、加えて、日本語グラムの模倣の言葉は、単語の特定のカテゴリーの機能を果たさない、彼らは同じ単語によって実行される構文的機能を実行し、それが行われる文を結合します。connected.In すべての模倣語とは対照的に、状況を表現する模倣語は、独立したカテゴリの単語と文中の構文的に第二レベルの品詞の両方の機能に入ることが条件を示す模倣語は、主に副詞の機能を伴って文に入ってくる。以下では、状況を示す模倣語が述語の機能、文の場合、述語 または名詞)、述語に入ることを検討します。日本語における模倣語は、大黄状態の形成において大黄状態を形成するための設置とともに使用される形成方法とは別のものとして研究されている。 （浜 1986/1998、新田一 1978、喜多 1997)。
花子がはいと言いました。
かちかちと言う。
日本語では、状況を表す模倣語はすべての動詞と一緒に来て、副詞状態の機能を果たしますが、最も一般的な動詞は動詞ですが、″うう″と″する″が最も一般的な動詞です。また、ふく動詞は主に異なる音や動物 ovozini の表現に使用され、ふる音は主に無生物の状態の表現に使用されます。
最初の例に示されている動詞″ゆう″は、根の意味で翻訳されたときに言うことを意味しますが、模倣は″音を出す″という意味の単語と一緒に来ました。第二の例では、母音が一緒に来て、文中の副詞が述語として役立ったことを意味する単語を思いついた。タモリと Schourup が行った研究の結果によると、日本語の状況を特徴付ける模倣する言葉、″びっくりする″と″悲しい″は、動詞を持つ単語です星座の仕事では来ることはできません、彼らはいつも一緒に来て、動詞の機能を果たすために来るだけです。 （タモリ＆シュールップ。 以下では、述語の成就の状態を表現する模倣は、他の動詞を持つ言葉から来ていることがわかります。
まず、「ニコニコする」、「ムカムカする」、「ブラブラする」など「―する」を伴って動詞として使われる用法がある。これは一部の擬音語を除き、大部分は擬態語表現から成る。
ニコニコする
ペコペコする
ムカムカする
ムラムラする
チャラチャラする

ブラブラする
ドキドキする
グラグラする
ネバネバする
ゴロゴロする
ギトギトする
ウルウルする
要するに、日本語の状況を表現する模倣は、文中に二つの異なる述語、すなわち″語と語−語に語−″を追加することによって副詞の状況を作り、文自体に独立した意味でも副詞状態の機能を果たすことができ、状況を表現する模倣は、上記のように文中の単語をより副詞にする。
3.2 形容詞として
日本語の状況を表す模倣語は、他の言語での統語的使用の点で根本的に異なり、文の質的機能を次の点で決定する作業に来る 日本語、ケースの模倣単語が述語のタスクに来るとき、それぞれの模倣は、単語の意味の深い解釈から来ています。ストレスに応じて日本語の状況を表現する単語を模倣すると、な形容詞は接辞によって形成され、い形容詞は接辞によって形成される。
その形のきらきらしきを愛でて。
ここで吉良吉良は、源氏物語（源氏物語世紀）の作品における吉良吉良を表す擬音語のローディングを伴って、和文の柄の仕事から来ているが、そこでは発音されない柄の仕事を果たしている。
人も泣く月の顔のみきらきらとして。
また、状態を表す模倣語が文中で決定要因になるという事実についても前述しましたが、次に、それらがどのように合法化されているかを検討します。接尾辞″の″を加えることによって、格変化の状況を表現する行列式。
「ツルツル（の）お肌」、「ピカピカの一年生」など「―の」を伴って後ろに続く名詞を修飾したり、「喉がカラカラだ」、「熱でフラフラだ」など「―だ」が付き文末に来て形容詞的に使うこともある。
ツルツルのお肌
ピカピカの一年生。
ホカホカのカイロ
ピチピチのシャツ
ツンツンの頭
モジャモジャの髭
水がこぼれて床はビチョビチョだ
古い鍋はもうボロボロだ
緊張で体がガチガチだ
熱でフラフラだ
英語がペラペラだなど
―徹夜続きでくたくただ。
―赤ちゃんの手はぷくぷくだ。
―もう西瓜はうんざりだ。
―今日の天気はるんるんだ。
―このまくら、ぐにゃぐにゃだぜー
―水がこぼれて床はビチョビチョだ。
―古い鍋はもうぼろぼろだ。
―緊張で体がガチガチだ。
―熱でフラフラだ。
―英語がペラペラだ。
体積を表す模造大豆は、水の流れとその伝達を記述するようになり、決定する機能を果たしてきまし

た。
模倣は、この文で決定する仕事を果たした人の体（堅実で精力的な）手段を指すためにより頻繁に使用されます。
フラフラそれは暖かい、暖かい、灼熱のように表現されていますが、この模倣語は基本的に変化する状態を指しますが、ここでは述語はすでにその機能ペララボンは意味を表現するようになり、文の中でハンドル機能になりました。したがって、条件を表す模倣語は、自分自身から行列式を形成するためにそれらに追加を加えることによって作られるが、上記のような条件を表す模倣語は文中のスーザン副詞状態の機能に使用されるため、条件を表す模倣語は行列式の機能に入ることができない。
また、ケースを表す模倣語は自己決定式を形成することができないと考え、接尾辞πとπを追加することによって編みました。
さらに、もう一つの注目すべき側面は、既存のケースの模倣が、単語から述語を作成する別の 3 つの方法によって形成されることである。
3.3 副詞として
オノマトペは副詞ふくしとして使つかわれるほか，以下いかのような用法ようほうがある。
①　述語じゅつごとして
「～する」
・好すきな人ひとを見みてどきどきする。
・休日きゅうじつは家いえでのんびりする。
「～だ」
・彼女かのじょは英語えいごがぺらぺらだ。
・雨あめに濡ぬれて服ふくがびしょびしょだ。
②「の」を伴ともなって名詞めいしを修飾しゅうしょくする
・ぴかぴかの 1 年生ねんせい
・さらさらの髪。
「ガタガタ言う」、「キラキラと輝く」、「ピカピカに磨く」など「―と」や「―に」を伴い副詞的な用法をすることもある。「―と」をつけて副詞となるものは「と」がなくても自然な文であるが、「―に」が付く表現は「―に」を抜くと不自然な表現になる。
接尾辞“な”を追加することにより、このような追加の追加により、日本語の形容詞は形容詞と呼ばれ、動詞で終わる模倣が定義機能を果たす言葉の後に来る名詞である場合、基本的には曲のテキストでより三つのレイディである。
―へとへとに疲れる。
―あつあつな二人。
―ぶよぶよなからだ 。
この基底は、の単語に接尾辞″しい″を追加することによって形成されます。
―けばけば＋しい→けばけばしい
―とげとげ＋しい→とげとげしい
―たどたど＋しい→たどたどしい
それは接尾辞″い″の追加によって形成され、その基礎は異なるカテゴリーの単語に含まれる可能性があります。そのような方法で作られたダティビストは、まれに会うことができます。その問題のあるテーマは、模倣の単語が形容詞から模倣の単語になったのか、模倣が形容詞から形容詞になったのかはまだ科学者によって研究された。
―くどい→くどくど＋い
―のるい→のろのろ＋い
―ぼるい→ぼろぼろ＋い
―とろい→とろとろ＋い
―でかい→でかでか＋い

クルクル回る
ゴシゴシこする
スラスラ書く
スクスク育つ
ミシミシ軋む
ポロポロと落ちる
キラキラと輝く
サラサラと流れる
ダラダラと過ごす
ケタケタと笑う
ユサユサと揺れる
ピカピカに磨く
ガラガラにすいた電車
コチコチに固まる
キンキンに冷える
ビリビリに破る
トロトロに溶ける
結論として、状況を表す模倣語は、述語を形成するときに 4 つの方法を用いて形成されることを研究し、状況を表す模倣語だけでは自明な単語の組み合わせを形成できないと判断した。
3.4 名詞として
日本語で状態を表す模倣語は、一般的な模倣語のグループよりも広く使用することができ、すなわち、それを持つ仕事に来る模倣語の役割は非常にまれであるが、それらが状態を表し、音の模倣を表すとき、彼らは馬の仕事に到達することができる。
僕はこのわんわんが一番可愛いと思う。
いくつかの方法を通じて状況を表す模倣単語の文を持つという課題における適用を検討することができる。幼い子供に関連して使用されたときの状態を表す模倣語、すなわち幼い子供が何かについての情報を与えられ、彼の名前ではなく、状態を記述することによって、状態を表す模倣語が文の構成に含まれる作業に使用される。例えば:
—隣のワンワン
—ぽんぽんが痛い
つまり、文中の子犬は意味を表現するようになり、それを持っているという仕事を果たしています。
第二の文では、人は腹部の痛みが痛い、腹部の痛みが痛いことを意味し、腹部のメンバーが終わりに来て持っている機能に使用されています。
状況の表現を模倣する言葉は、単純なケースを持つ機能に適用することができます。例えば:
—ひらひらの付いたスカート
—目のちかちか
—いらいらが募る。
—のろのろ運転
—よちよち歩き
—ぶつぶつ言い
—がみがみ言い
—ひそひそ話し
また最近では「ドキドキが欲しい」「ヌメヌメの原因」など「ドキドキする物事」「ヌメヌメになってしまった原因」の後半部分を省略し「ドキドキ」「ヌメヌメ」の部分だけで全てを表す名詞的な用法も見られる。また他の名詞と結びつき複合名詞として新しい名詞になることもある。
ドキドキが欲しい

ヌメヌメの原因
コリコリがおいしい
顔のブツブツ
ガチャガチャを買う
ノロノロ運転
ピチＴシャツ
カンカン照り
バラバラ殺人
カリカリベーコン
シャカシャカジャージ
ピリ辛
チャラ男。
・いらいらが止とまらない／収おさまらない。
・きらきらがいっぱい
・（複合ふくごう名詞めいしとして）のろのろ運転うんてん，わくわく学校がっこう
オノマトペは表現効果ひょうげんこうかとして漫画まんがでも多用たようされる。

１．ばらばら一状態を表すオノマトペは、崩壊を意味する言葉の表現から来ており、通常は脆弱性の状態または物事のこぼれを示しています。また、日本語でも書かれており、作品、小説、ドラマで人々の死の状態を表現しています。ばらばらギャップは、述語、状況および述語の機能において文の中で構文的に来ることができる。
—状況語として
雨もばらばらと降って参りました。
—修飾語として
家族がばらばらになっています。
スーパの野菜のサイズはばらばらです。
—述語として
話がばらばらしている。
２．がんがん一日本語では、人の身体的状態や身体的傷害の痛みを表現するために使用され、主に負の状態を模倣する言葉で表現されていますがんがんでは、1)ハンマーで打ったときに出る音、2)強い速度で行われる動きの状態、3)人体の痛みの状態など、音の大きな出力を表現するときに使用される。
—状況語として
頭ががんがんとひびきだす。
—修飾語として
胸ががんがんに痛みます。
—述語として
頭ががんがんしていました。
３．きらきら一日本語では、通常光に関連して使用される状況の模倣は、単語を発音するときに使用されます。基本的に、肯定的な意味で来る模倣は、言葉で表現される。
—状況語として
星がきらきらと輝く。
さくさく一状態を表すオノマトペはまた、料理の音、その外観を記述するために使用され、人々が食べ物を食べている時間の状態を表現することに加えて、それはまた、表現するために使用される。
—状況語として
さくさくと軽やかな食管。
—修飾語として

油であげるとさくさくになります。
—述語として
食管がさくさくします。
５．にこにこ、にっかり一次の二つの模倣、にこにことにっかりは、同じニコルート（″明るい笑顔を作る″）で似た意味を持っています。 しかし、ニッコールが笑顔に移動すると、ニコニコは連続笑顔を意味します。 ニッコリは″文学には味がある″と述べている（1996 年 8 月 11 日）。 両方の模倣は、（大声で笑う）とにやにや（大声で笑う）に似た笑いのスタイルを記述することによって、動詞（笑う）に意味的な独創性を追加するために使う ．
—状況語として
心からにこにこと笑っていた。
—修飾語として
誰にでもにこにこな子もいる。
—述語として
赤ちゃんがにこにこしている。
日本語の状態を表すオノマトペは統語論的には文の構造は、主語、述語、修飾語、状況語との機能に来ることができる。
すべての状態を表すオノマトペは独立した意味でさえ、文中の統語論的意味を意味することもできると分析した。

Tema: O‘zbek va yapon tillarida unli va undosh harflarining talaffuzi xususida

テーマ：ウズベク語と日本語の母音と子音について

Theme: About the pronunciation of vowels and consonants in Uzbek and Japanese languages

TDSHU Yaponshunoslik fakulteti

Magistratura mutaxassisligi

Lingvistika (yapon tili) yo’nalishi

1-bosqich talabasi Soyipboyeva Zilola

Annotation

This article is mainly devoted to the problem of pronunciation of vowels and consonants in Uzbek and Japanese languages. The article also provides information on the differences in pronunciation of vowels and consonants. This article illustrates the pronunciation of sounds in Uzbek and Japanese with examples.

Annotatsiya

Maqolada o’zbek va yapon tillaridagi unli va undosh harflarining talaffuz muammosiga bag’ishlangan. Maqolada unli va undosh harflarining talaffuzdagi farqlari haqida ham ma’lumot berilgan. Maqolada o’zbek va yapon tillaridagi tovushlar talaffuzi misollar orqali yoritib berilgan.

Ma’lumki, o’zbek tilida nutq tovushlarini tasnif etishda bo’g’iz bo’shlig’ida joylashgan tovush paychalarining tebranishidan hosil bo’ladigan ovozning hamda o’g’iz bo’shlig’ida paydo bo’ladigan shovqinning ahamiyati kattadir. Shunga ko’ra, ular ikki katta guruhga bo’linadi:

1) unli tovushlar **2) undosh tovushlar**

Quyidagi belgilari orqali bir-biridan farq qiladi:

1) talaffuz qilinish usuli (unli tovush talaffuz qilinganda havo oqimi og’iz bo’shlig’idan erkin ravishda o’tadi, undosh tovush talaffuz qilinganda, havo og’iz bo’shlig’ida to’siqqa uchraydi);

2) ovoz va shovqinning ishtiroki (unli tovushlar faqat ovozdan iborat, undosh tovushlar talaffuz qilinganda shovqin eshitiladi, ba’zan shovqin va qisman ovoz eshitiladi);

3) bo’g’in hosil qilish xususiyati (unli tovushlar bo’g’in hosil qiladi, undosh tovushlar bo’g’in hosil qilmaydi).

O’zbek va yapon tillaridagi tovushlar haqida gapirishdan oldin, avvalo, ularning kelib chiqishi va tipologiyasi bilan tanishish lozim. Ma’lumki, tillarning geneologik tasnifi ana shu qardosh bo’lgan tillarni aniqlash maqsadida vujudga keladi. Yapon tili, bu tilning geneologik tavsiflanishi haqida olimlar uzoq davrdan beri bosh qotirib kelgan va hozirgacha bu izlanish davom etib kelmoqda. Ayrim manbalar shuni ko’rsatadiki, yapon tili Oltoy tillar oilasiga kirishi

taxmin qilinadi[68]. U alohida til guruhi hisoblanib, boshqa til guruhi tarkibiga kirmaydi. Yapon tilining sintaksisi, ayrim grammatik tuzilishlar Oltoy tillar oilasiga yaqinligini ko'rsatsa-da, fonetik jihatdan esa Avstro-Osiyo tilllariga ancha yaqindir[69]. O'zbek tili esa Oltoy tillar oilasi, turkiy tillar turkumiga kiradi. Tillarni tipologik jihatdan tavsiflashda esa, yapon tili haqida olimlar turlicha yondashadi. Olimlar (jumladan Alpatov) fikricha, yapon tili agglutinativ, flektivlik tiplarni o'zida qamrab olgan tillar sirasiga kiradi. Yapon tilida ot so'z turkumining ifodalanishi, shuningdek, grammatik qurilishlar deyarli barchasi o'zbek tili kabi agglutinativ tipga xos, flektivlik (rus tiliga xos tip) esa yapon tilining fonologiyasi va morfonologiyasida uchratish mumkin[70].

O'zbek va yapon tillari bir-biri bilan grammatik jihatdan o'xshash bo'lsa, ayrim fonologik farqlarini ko'rishimiz mumkin.

Hozirgi o'zbek adabiy tilida 6 ta unli fonema bor: **a, e, i, o, u, o'**. Ular quyidagicha tasnif qilinadi:

1) tilning gorizontal harakatiga ko'ra;
2) tilning vertikal harakatiga ko'ra;
3) lablarning ishtirokiga ko'ra.

1. **Tilning gorizontal harakatiga ko'ra unlilar ikkiga bo'linadi:**
   a) til oldi yoki oldingi qator unlilar: a, i, e;
   b) til orqa yoki orqa qator unlilar: u, o, o';

Bunday bo'linishining sababi shundaki, til oldi unlilari talaffuz qilinganda tilning oldingi qismi faolroq harakatga keladi. Til orqa unlilarini talaffuz qilganda esa tilning orqa qismi harakatga kelib, ko'pincha yumshoq tanglay tomon yo'naladi.

2. **Tilning vertikal harakatiga ko'ra unlilar uchga bo'linadi:**
   a) yuqori unlilar (tor) unlilar: i, u;
   b) o'rta (o'rta keng) unlilar: e, o';
   c) quyi (keng) unlilar; a,o.

Unli tovushlarning tilning vertikal harakatiga ko'ra tasnifida tilning tanglayga tomon ko'tarilishi va tushishi, og'izning ochilish darajasi hisobga olinadi.

3. **Lablarning ishtirokiga ko'ra unlilar ikkiga bo'linadi:**
   a) lablangan unlilar: o, u, o';
   b) lablanmagan unlilar: a, e, i.

Lablangan unlilarni talaffuz qilishda lablar faol ishtirok etadi, ya'ni ular oldinga intilib, doira shaklida bo'ladi. Lablanmagan unlilar talaffuzida esa, lablarning ishtiroki lablangan unlilar artikulyatsiyasiga nisbatan nofaolroq bo'ladi.

Yapon tilida nutq tovushlari unli va undoshga ajratiladi. Unli tovushlar o'pkadan chiqayotgan havoning og'iz, burun, bo'g'iz kabi nutq a'zolarida hech qanday to'siqqa uchramasdan talaffuz qilinadigan tovushlardir. Biroq, undoshlar nutq a'zolari orqali ayrim shovqinlar hosil qiladi va to'siqqa uchraydi.

---

[68] М. Т. Дьячок, В. В. Шаповал ГЕНЕАЛОГИЧЕСКАЯ КЛАССИФИКАЦИЯ ЯЗЫКОВ (Новосибирск, 2002. 32 с.

[69] В. М. Алпатов Теоретическая грамматика японского языка. Книга 1.. 2008г.

[70] В. М. Алпатов Теоретическая грамматика японского языка. Книга 1.. 2008г.

Unli tovushlarning tasniflash mezonlari.

Unli tovushlar **1) lab shaklining** (labning ochilish ochilmaslik), **2) til o'rnining** (old tomon yoki orqa tomon), **3) og'izning ochilishi** (og'izning ochilish darajasi keng yoki tor) ga ko'ra 3 guruhga bo'linadi.

Yapon tilida unlilar soni 5 ta: ア、イ、ウ、エ、オ. Yuqorida keltirilgan mezonlarga tayangan holda, unlilar quyidagicha tasniflanadi:

← 前舌[71] (old tomon) 後ろ舌[72] (orqa tomon) →

↑狭母音 (yopiq) **イ(□)** **ウ (□)**

エ (□) **オ(○)**

↓広母音 (ochiq) **ア(□)**

(○：円唇 (doira shakl) , □：非円唇 (doira shakl emas))

Yapon tilida unlilarning o'ziga xos xususiyati shundaki, og'izni deyarli ochmasdan, kuchsiz talaffuz qilinadi. イ(i) harfini tilni gorizontal holatga keltirmasdan talaffuz qilinadi, ウ(u) harfini talaffuz qilishda lablarni doira shaklda ochmaslikka ehtiyot bo'lish kerak (shuning uchun ウ unlisi og'iz bo'shlig'ini doira shaklida ochib talaffuz qilinadigan {u} emas, {uu} deb talaffuz qilinadi.

Demak, yuqoridagi faktlarga asoslanib o'zbek tili va yapon tilidagi unli harflarning tovushlari bo'yicha o'xshash va farqli tomonlarini ko'rib chiqamiz.

O'xshash tomonlari:

a) ikkala tilda ham ア(a), エ(e), イ(i) unlilari til oldi yoki oldingi qator (前舌) unlilari hisoblanadi;
b) ikkala tilda ham オ(o), ウ(u) unlilari til orqa yoki orqa qator unlilar (後ろ舌) unlilari hisoblanadi;
c) o'zbek tilidagi **a** unlisi lablanmagan, quyi keng unli hisoblanadi, yapon tilida ham ア(a) unlisi 広母音 va 非円唇 hisoblanadi.

Farqli tomonlari:

---

[71]「ぜんぜつ」という読み方もある。

[72]「あとじた」「こうぜつ」という読み方もある。

a) yapon tilidagi ウ**(u)** unlisi lablanmagan, ya'ni lablarni cho'zmagan holda talaffuz qilinadi, o'zbek tilida **u** unlisi lablangan unli hisoblanadi;
b) yapon tilida o'zbek tilidagi **o'** unlisiga teng keluvchi unli harf yo'q.

Undosh tovushlar tasnifi.

Hozirgi o'zbek adabiy tilida 24 ta undosh tovush bor: **b, v, g, d, j** (jo'ja so'zidagi kabi), **j** (jurnal so'zidagi kabi), **z, y, k, l, m, n, ng** (tong so'zidagi kabi), **p, r, s, t, f, x, ch, sh, q, g', h**. Undosh tovushlar un paychalarining harakati (taranglashish) holatiga va og'iz bo'shlig'ining qayerida to'siqqa uchrashiga , faqat shovqindan iborat bo'lishi yoki ovozning shovqinidan ustunligiga qarab bir-biridan farqlanadi va shunga ko'ra quyidagicha tasniflandi:

1) hosil bo'lish (artikulyatsiya) o'rniga ko'ra;
2) hosil bo'lish (artikulyatsiya) usuliga ko'ra;
3) ovoz va shovqinning ishtirokiga ko'ra;
4) tovush paychalarining ishtirokiga ko'ra.

Hosil bo'lish o'rniga ko'ra undoshlar uch asosiy guruhga bo'linadi:

a) lab undoshlari;
b) til undoshlari;
c) bo'g'iz undoshi.

Lab undoshlari bevosita lablar ishtirokida hosil bo'ladigan tovushlar bo'lib, ularga b, p, m, v, f undoshlari kiradi. Bu undoshlarni hosil qilishda lablar bir-biriga jipslashadi. Ba'zilarining talaffuzida esa yuqori lab pastki tishlar bilab jipslashadi. Shunga ko'ra, lab undoshlari o'z navbatida ikki guruhni tashkil qiladi: a) lab-lab undoshlar (b, p, m) ; b) lab-tish undoshlar (v, f).

Til undoshlari bevosita til ishtirokida hosil bo'ladigan tovushlar bo'lib, ularga quyidagilar kiradi: g, d, j (javob so'zidagi), j (vijdon so'zidagi), z, y, k, l, n, ng (ong so'zidagi), r, s, t, x, ch, sh, q, g' (jami 18 ta).

Bu undoshlar tilning qaysi qismida hosil bo'lishiga ko'ra bir-biridan farqlanadi. Masalan, d, j, n undoshlari tilning old qismi bilan tish va milklar orasida; k, g kabi undoshlar tilning orqa qismi bilan yuqori tanglay o'rtasida; y undoshi tilning o'rta qismi bilan yuqori tanglay o'rtasida hosil bo'ladi. Shunga ko'ra, til undoshlari quyidagi 4 guruhga bo'linadi:

1) til oldi undoshlari: d, j, z, l, n, r, s, t, ch, sh;
2) til o'rta undoshi: y;
3) til orqa undoshlari: k, g, ng;
4) chuqur til orqa undoshlari: q, g', x.

Bo'g'iz undoshi bitta h tovushidan iborat bo'lib, u bo'g'iz bo'shlig'ida un paychalari o'rtasidagi tor oraliqda hosil bo'ladi.

Hosil bo'lish usuliga ko'ra undoshlar uch guruhga bo'linadi:

1) portlovchilar;
2) sirg'aluvchilar;
3) portlovchi-sirg'aluvchi.

Portlovchi undoshlar hosil bo'lishida havo oqimining portlash va portlash bilan birga qisman sirg'alishini kuzatish mumkin. Masalan, b, p undoshlari hosil bo'lishda havo oqimi ikki lab vositasida hosil qilingan to'siqqa ma'lim zarb bilan urilib portlashidan vujudga kelsa, ch va j undoshlarining hosil bo'lishida havo oqimi portlash bilan bir qatorda qisman sirg'alishni ham sezish mumkin. Shuning uchun ham portlovchi undoshlar hosil bo'lishdagi to'liq va to'la bo'lmagan portlshni e'tiborga olgan holda ularni quyidagi ikki guruhga ajratish mumkin:

1) sof portlovchilar: b, g, d, k, t, q;
2) qorishiq (affrikat) portlovchilar: ch, j.

Sirg'aluvchi undoshlar ikki nutq a'zosining o'zaro yaqinlashishi va havo oqimining ana shu nutq a'zolari tor oralig'idan sirg'alib o'tishi orqali hosil bo'ladi. Bular jami 10 ta: v, f, j, z, y, s, x, sh, g', h.

Portlovchi-sirg'aluvchi undoshlar bir vaqtning o'zida ham portlash, ham sirg'alish jarayonining ro'y berish natijasida hosil bo'ladi. Ularga **m, n, ng, l, r** undoshlari kiradi. Shuningdek, **m, n, ng** undoshlari talaffuz qilinganda havo oqimining bir qismi burun bo'shlig'idan sirg'alib chiqadi. Shunga ko'ra, bu undoshlar burun tovushlari deb ham yuritiladi. Bulardan l undoshi yon tovush, **r** esa titroq tovush deb yuritiladi.

Ovoz va shovqinning ishtirokiga ko'ra undoshlar ikkiga bo'linadi:

1) sonorlar;
2) shovqinlilar.

O'zbek tilida sonor (lotincha so'z bo'lib, "ovozdor" demakdir) lar beshta bo'lib, m, n, ng, l, r kabi undoshlarni o'z ichiga oladi. Qolgan undoshlar shovqinlilarga mansub.

Tovush paychalarining ishtirokiga ko'ra undoshlar ikkiga bo'linadi:

1) jaranglilar: b, v, z, d, j, j(dj) g, g', y, m, n, r, l, ng;
2) jarangsizlar: p, f, s, t, sh, ch, k, q, x, h.

Yapon tilida undoshlar tasnifi.

Undosh tovushlar o'pkadan chiqayotgan havoning og'iz, burun va bo'g'iz kabi nutq a'zolarida to'siqqa uchrashi natijasida hosil bo'ladigan tovushlardir. Ushbu to'siqlarni hosil qiluvchi nuqta 調音点 (tovush nuqtasi), to'siqlarning qandayligini bildiruvchi nuqta 調音法 (tovush holati) deb ataladi. Shuningdek, undoshlarni talaffuz qilish vaqtida vibratsiya hosil qiluvchi undoshlar 有声音 (ovozdor), vibratsiya hosil qilmaydiga undoshlar 無声音 (ovozsiz) deb yuritiladi. Demak, undosh tovushlar uch guruhga ajraladi:

a) ovozdor va ovozsizligiga ko'ra;
b) tovush o'rniga ko'ra;
c) tovush holatiga ko'ra.

Nutq a'zolari. Tovush o'rni va tovush holati.

1) 唇 (lablar)
2) 歯 (tishlar)
3) 歯茎 (milk)

4) 硬口蓋 (qattiq tanglay)
5) 軟口蓋 (yumshoq tanglay)
6) 口蓋垂 (tilchak)
7) 咽頭 (tog'aylar)
8) 声門 (un paychalari)

Tovush holatiga ko'ra,

1) **破裂音** (portlovchi) : havoni zarb bilan til orqali qattiq talaffuz qilishdan hosil bo'ladigan tovush;
2) **鼻音** (burun tovushi) : burun orqali hosil bo'lgan tovushlar;
3) **震え音** (titroq tovush) : titrab talaffuz qilinadigan tovushlar;
4) **弾き音** (shovqinli tovush) : til uchini milkka tegib talaffuz qilinuvchi tovushlar;
5) **摩擦音** (tor tovushlar) : nutq a'zolarining tor ochilib talaffuz qilinishidan hosil bo'lgan tovushlar;
6) **接近音** (o'rta tor tovushlar) : nutq a'zolarining tor ochilib yengil talaffuz qilinuvchi tovushlar, lekin tor tovushlardek juda tor talaffuz qilinmaydi;
7) **破擦音** (portlovchi-qorishiq) : portlovchi tovush kabi hosil bo'ladi.

Yapon tilida undosh tovushlar quyidagicha tavsiflanadi:

		両親	歯茎	歯茎硬口蓋	硬口蓋	軟口蓋	口蓋垂	声門
破裂音	無声	p	t			k		
	有声	b	d			g		
鼻音	有声	m	n			ŋ	N	
弾き音	有声		r					
摩擦音	無声	ɸ	s	ɕ	Ç			h
	有声		z	ʑ				
接近音	有声	w			j	w		
破擦音	無声		ts	tɕ				
	有声		dz	dʑ				

Demak, o'zbek tili va yapon tilidagi nutq a'zolari o'xshash. Shuningdek, o'zbek tilida bo'lgani kabi yapon tilida ham til undoshlari, lab undoshlari, burun undoshlari mavjud. Bundan tashqari, hosil bo'lish holatiga ko'ra, har ikki tilda ham jarangli va jarangsiz, portlovchi va sirg'aluvchi undosh tovushlar mavjud.

Xulosa

Yuqorida keltirilgan ma'lumotlardan shuni xulosa qilishimiz mumkinki, o'zbek tili va yapon tili fonologik jihatdan bir-biriga o'xshash til hisoblanadi. Nutq a'zolarining ishtiroki, hosil

bo’lish o’rni va holatiga ko’ra turlarga ajratilishi ikkala tilga ham xos belgi hisoblanadi. Tovushlarning qaysi nutq a’zolari orqali hosil bo’lishi, jarangli va jarangsizligi, portlovchi va sirg’aluvchiligi jihatdan o’xshash til hisoblanadi. Bundan keying ishlarda fonologik tomoni bilan birga morfologik, ya’ni har ikkala tildagi so’zlar asosi va unga qo’shiladigan qo’shimchalarni taqqoslashni maqsad qilib qo’ydik.

Adabiyotlar ro’yxati

1. Ona tili. 5-sinf (2019), N.Mahmudov, A.Nurmonov.
2. М.Т.Дьячок, В. В. Шаповал ГЕНЕАЛОГИЧЕСКАЯ КЛАССИФИКАЦИЯ ЯЗЫКОВ (Новосибирск, 2002. 32 с.)
3. В. М. Алпатов Теоретическая грамматика японского языка. Книга 1.. 2008г.
4. В. М. Алпатов Теоретическая грамматика японского языка. Книга 2.. 2008г.

Background on the Functions of the Newest English loanwords of Youth Communication on Japanese Websites

Alimova Munisa

Ташкентский Государственный Университет Востоковедения.

Факультет японоведения. Специальность японская лингвистика. Магистрант 1-курса

Алимова Муниса

E-mail: alimovamona0507@gmail.com

Tashkent State University of Oriental Studies. Faculty of Japanese Studies. Specialty Japanese linguistics 1st year undergraduate

Annotation

Key words: Functions of the latest English loanwords, youth communication, Japanese websites.

This article leaves behind a wide range of contentious issues for further study. The process of the influence of borrowings on the Japanese language is a rather important linguistic phenomenon, which, of course, requires in-depth research work.

There is probably no language in the world that does not contain loanwords from others. Moreover, along with the globalization of the world, the process of borrowing words is increasingly deepening and spreading. The Japanese language is one of the leaders in the content of foreign words.

The Japanese language is one of the leaders in the content of foreign words. In this language, in addition to words of Japanese (wago) and Chinese (kango) origins, there is a category of words borrowed from other languages - gairaigo.

История вопроса функций новейших английских заимствований молодёжного общения на японских веб-сайтах

Ключевые слова: Функции новейших английских заимствований, молодёжное общение, японские веб-сайты.

План:

- История возникновения заимствований, их проникновение в японский язык.
- Предыдущие научные исследования
- Вывод

История возникновения заимствований, их проникновение в японский язык

Вероятно, нет в мире такого языка, в котором бы не встречались заимствования из других. Причём вместе с глобализацией мира процесс заимствования слов всё более углубляется и распространяется. Японский язык является одним из лидеров по содержанию иностранных слов.

В данном языке, помимо слов японского (ваго 和語) и китайского (канго 漢語) происхождений, существует категория слов, заимствованных из других языков — гайрайго (外来語).

Koyuugo・固有語-исконно японские слова

Родные слова (коюго) относятся к словам, которые не являются заимствованными словами (иностранные слова) и уникальны для данного языка. В японском языке этому соответствует японский (Ямато). В примере предложения на японском языке「わたくしは学校にいく」«Я хожу в школу» заимствованным словом является только существительное «школа», а другое «ватакущи» (местоимение) «iku» (глагол) «ва» «ни» (частица) - японские слова, которые являются родными.

Gairaigo・外来語- слово иностранного происхождения/ заимствованное слово.

Shakuyougo・借用語

Заимствованное слово (Shakuyogo, немецкий: Lehnwort) - это лингвистический термин, который представляет собой слово, которое непосредственно включено в другой язык из другого языка.

Большая часть таких слов записывается знаками катаканы. Однако часто можно встретить сочетание катаканы с иероглифами, например ソ連時代 (soren jidai — эпоха Советского Союза),アメリカ人 (amerikajin — американец), オープンする(o:pen suru — открывать), 消しゴム(keshigomu — ластик). Также

нередки случаи, когда заимствованные слова приобретают совершенно иной смысл, нежели в языке, откуда они родом. Например, слово クリアー(kuria: — clear) в японском означает не прилагательное «чистый», а причастие, говорящее о том, что «что-то прошло без происшествий».

Из-за японского транскрибирования английские слова порой искажаются так, что не всегда удаётся узнать первоисточник. Например, мало, кто догадается с первого раза, что ワーク (wa:ku) — это work.

История заимствований 1-португальский:

- В 1543 году португальцы выбросили на берег Танегасима и представили оружие Японии.
- В 1549 году в Японию прибудет иезуитский миссионер Франциск Ксавьер. Христианская миссия начинается. В 1639 году был издан указ об изоляции сёгуната Токугава, положивший конец торговле с Португалией. Поэтому до сегодняшнего дня осталось несколько иностранных слов.
- Пуговицы, хлеб, кастелла, темпура, открытки, конкурсы и т. Д.

История заимствований 2-Испанский:

- Испания начала торговлю после 1592 года, примерно на 50 лет отставая от Португалии. Кроме того, прекращение торговли произошло на 15 лет раньше, чем в Португалии.
- Поэтому кажется, что иностранных слов было мало. Кроме того, поскольку произношение похоже на португальское, трудно сказать, с какого языка происходит заимствование.
- Шабон.
- Танго, фламенко, болеро и т. Д. Пришли из латиноамериканской музыки.

История заимствований 3-голландский:

- Даже в период изоляции торговля с Нидерландами была разрешена через фабрику Dejima в Нагасаки.
- Олово, пробка, насосы, газ, компасы, кофе, пиво и т. Д.
- Во времена Токугавы Ёсимунэ запрет на иностранные книги был снят, голландские исследования стали популярными, а западные стипендии стали популярными в Нидерландах. Поэтому были введены термины естествознания. Спирт, линзы, капельницы, вафли, экстракты, холера.

История заимствований 4-английский:

- В конце сёгуната Токугава военные термины, термины кораблестроения и т. Д. Пришли из английского. С открытием страны вместо нидерландского языка стало популярным изучение английского языка.
- После эпохи Мэйдзи переговоры с Великобританией и Соединенными Штатами стали активными, английский стал широко изученным, и многие слова пришли из английского языка в качестве заимствованных.
- Сегодня многие английские слова используются как заимствования.

Английский язык проникает во все сферы и давно уже стал интернациональным, поэтому многие направления вынуждены пользоваться гайрайго (особенно английского происхождения). По некоторым данным, в компьютерной лексике используется 99% заимствований, в маркетинге 73% и 80% в торговле.

Также английский язык довольно труден по произношению для японца, в языке которого нет отдельно произносимых согласных, кроме ん, отсутствует звук «л», ударение тоновое, а не силовое, как в русском или европейских языках, и т. д.

Но, рассуждая о степени проникновения английских слов в японский язык, следует иметь в виду, что их количество очень сильно зависит от жанра, к которому относится текст. Есть области, в которых гайрайго составляют большую часть используемых слов. По подсчетам разных исследователей, к гайрайго относятся 53 % терминов менеджмента, 75 % терминов маркетинга, 80 % торговых терминов, 99 % компьютерной терминологии, 97 % слов в названиях парфюмерных и косметических товаров. К темам, где активно используются такие слова, относятся спорт, туризм, современная музыка, кулинария, бытовая техника, мода. Велико количество гайрайго в молодежных и женских журналах, в рекламе. В языке рекламных объявлений употребление гайрайго ассоциируется с современностью и прогрессом. Например, реклама автомобилей, где противопоставлялись старые и новые модели, сопровождалась надписями, в которых слово вчера было написано по-японски (kinoo), а слово завтра передано с помощью гайрайготоомороо (tomorrow). Поскольку для записи таких слов в японском чаще всего применяется слоговая азбука катакана, то профессии, связанные с употреблением многочисленных гайрайго, стали называть «катаканными профессиями». Это, например, дизайнер интерьера, модельер высокой моды и тому подобные.

1. Предыдущие научные исследования

В текстах на другие темы гайрайго используется куда меньше. Как пишет японовед В.М. Алпатов: «За пределами сфер потребления или высоких технологий американизмов не так уж много. Страницы газет, посвященные спорту или шоу-бизнесу пестрят катаканой, а их же первые страницы, где речь идет об экономике, политике, происшествиях, катакану или латинский алфавит почти не содержат» .

В так называемую базисную лексику гайрайго проникают куда реже. Как правило, их использование связано с ситуациями, нетипичными для японской культуры. В.М. Алпатов привел такой пример. Один японец, рассказывая о том, что сам он в СССР не был, а вот жена его туда ездила, употребил слово waifu (англ. wife). Казалось бы, тут нет никакой необходимости использовать гайрайго. Однако этот случай — путешествие жены без мужа — не вписывается в стереотип традиционной японской культуры, поэтому употребить в нем японское слово жена kanai, говорящий не решился. Ведь даже буквальный смысл этого слова, как говорят лингвисты, его внутренняя форма, означает «внутри дома».

Другой исследователь японского языка Дж. Стенлоу пишет, что японское местоимение «ты», используемое в обращениях жены к мужу, современные японки не могут употребить по отношению к бойфренду, поэтому ему говорят yuu (англ. you).

Интересно, что активность в использовании современными японцами гайрайго, вопреки опасениям Китта Икки, не приводит к вытеснению японского языка английским. Более того, японцы могут и не знать, как привычное им слово - гайрайго произносится или пишется по-английски. Они удивляются, узнав, что фамилия человека, известного им как Sumiisu, на самом деле Smith.

Знание большого числа гайрайго облегчает японцам освоение английского языка, но оно же имеет и обратную сторону. Иногда японцы могут считать свои гайрайго обычными английскими словами и пытаться использовать их, говоря по-английски. Например, они могут употребить слово rimokon «пульт дистанционного управления», не подозревая, что это слово создано из remote control в Японии, а в США и Великобритании неизвестно. Словом sutoobu (из англ. Stove «печь») японцы могут назвать электрический обогреватель, чего американцы не сделают.

С. В. Неверов отмечал: «Важнейшим событием в истории развития японского языка явилось заимствование японцами в VI-VII вв. китайской иероглифической письменности, а вместе с ней и значительного числа китайских текстов, содержавших совершенно незнакомые для Японии понятия

высокоразвитой к тому времени китайской науки, культуры, политики, экономики, права и государственного устройства. Новые для японцев понятия были выражены китайскими словами, чуждыми японскому языку по своему звуковому и морфологическому составу, но постепенно усваивавшимися японским языком, уровень развития которого в тот период не позволял передать эти понятия на базе исконно японской лексики». [73]

Ядзаки (1964) утверждает, что постоянное изобилие заимствований из западноевропейских языков является результатом «слепого» восхищения по отношению к Западной цивилизации, которое ускорилось после окончания Второй мировой войны.

Распространение изучения английского языка в школах подталкивало японцев использовать новые заученные элементы английского языка в японском языке. Если даже человек не понимал значения слов, прозвучавших в диалоге, он мог вести себя так, как будто он понимает, боясь показаться недостаточно образованным. Ядзаки считает, что такое отношение ускоряло процесс заимствования.[74]

В 1969 году начал работу спутник Intelsat 3, осуществляющий трансляцию через Индийский океан. Таким образом, была создана первая в мире глобальная спутниковая система. В связи с этим, вне зависимости от местонахождения стала возможной связь с любой точкой земного шара. Америка создала так называемую «информационную магистраль». Одновременно с такой коммуникационной революцией коммуникационная революция - замена перемещения самих людей движением сообщений (посылаемых людьми сигналов), т. е. физические перемещения людей заменяются информационными связями между ними. английский язык в за относительно короткий период стал стандартным языком мультимедийных сетей, так как информационные технологии разрабатывались в первую очередь для англоязычных стран. Этот фактор также повлиял на рост количества гайрайго в японском языке. Данный феномен имеет место не только в Японии, но и во Франции, Германии, и даже Китае.

Информация настолько быстро разносится по всему миру, что недостаточно времени переводить заимствованные слова на родной язык. Это особенно свойственно журналистике, где необходимо обработать большое

[73] Рыбин В. В. Иностранные слова в японском языке: фонетические особенности русскоязычных заимствований. СПбГУ.2009. - С.100

[74] Shimada, Maiko. Functions of western loanwords in Japanese newspaper articles. The University of British Columbia, 2003.

количество информации в статьи за ограниченное время. В таких случаях, калькирование является неудобным способом, так как нет времени для того, чтобы стандартизировать кальку через СМИ.

Таким образом, самым лёгким способом заимствования является транслитерация слов на слоговую азбуку катакану с добавлением его объяснения японцам тогда, когда она употреблено впервые. Это потому, что катакана «…даёт возможность и свободу написания английского слова на родной письменности без какой-либо необходимости изучения написания знаков и не зная его произношения в оригинале».

С тех пор как английский язык стал лингва-франка Функциональный тип языка, используемый в качестве средства общения между носителями разных языков в ограниченных сферах социальных контактов, в области техники, наличие элементарного запаса слов помогает японцам, как обмениваться информацией, так и конкурировать или сотрудничать с другими странами.[75]

2. Вывод

Из комплексного изучения заимствований из европейских языков в современном японском языке, а именно, истории их происхождения, факторов распространения заимствованных слов вытекают следующие выводы:

1. Японский язык является одним из лидеров по содержанию иностранных слов. В данном языке, помимо слов японского (ваго) и китайского (канго) происхождений, существует категория слов, заимствованных из других языков — гайрайго.

2. Большая часть заимствованных слов записывается знаками катаканы. Однако часто можно встретить сочетание катаканы с иероглифами.

3. Изучили истории заимствований португальского, испанского, голландского и английских языков.

4. Рассмотрели несколько предыдущих научных исследований.

В заключении отметим, что тема доклада оставляет за собой большой круг спорных вопросов для дальнейшего изучения. Процесс влияния заимствований на японский язык представляет собой достаточно важным языковым явлением, что, безусловно, требует углубленных научно-исследовательских работ.

[75] (Кэй, 1995). Kay, Gillian. English loanwords in Japanese. World Englishes 14(1). 1995.

Вышеуказанные факторы связаны между собой, их все возможно свести к выводу, что японцы всегда положительно относились ко всему новому и иностранному.

СПИСОК ЛИТЕРАТУРЫ

1. 中国，華中師範大学 2012 年 3 月 28 日（水）借用語とその用法
名古屋大学大学院国際言語文化研究科・教授玉岡賀津雄
ktamaoka@lang.nagoya-u.ac.jp http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/~ktamaoka/.

2. 知淑徳大学論集 一コミュニケーション学部・コミュニケーション研究科篇一 第 7 号 2007 153－162 現代漢語における外来語の借用
一文化的視点から一 厳 洋※1 外来語研究における意味分析

—「ムード」と「雰囲気」の類義分析による事例研究— 佐藤 琢三.

3. В.М. Алпатов. Заимствования из английского языка и жанровые особенности в японском языке Жанры речи. Вып. 5. Жанр и культура. Саратов, 2007. С. 345–351.

4. САЛОВА Анна Юрьевна. НЕОЛОГИЗМЫ ЯПОНСКОГО ЯЗЫКА КАК ОТРАЖЕНИЕ ГЛОБАЛИЗАЦИОННЫХ ПРОЦЕССОВ В МИРЕ 2017год, Диссертация.

5. Алпатов В.М. Япония: язык и культура. -М.: Языки славянских культур, 2008.-208 с.

6. Рыбин В.В. Иностранные слова в японском языке: фонетические особенности русскоязычных заимствований // Известия РГПУ им. А.И. Герцена № 103. СПб., 2009. С. 99-105.

7. Kay, Gillian. English loanwords in Japanese. World Englishes 14(1). 1995.

8. Shimada, Maiko. Functions of western loanwords in Japanese newspaper articles. The University of British Columbia, 2003.

9.Маевский Е.В., Рысина Н.Г. Гайрайго - японская транскрипция иностранных слов. -М.: Муравей-Гайд.- 48 с.

UZBEK-JAPAN
STUDENT ACADEMIC FORUM II

FORUM AGENDA

TASHKENT
3 March, 2022

Dear_____ !

You are cordially invited to the Uzbek-Japan Student Academic Forum on 3 March 2021 at Tashkent State University of Oriental Studies.

The opening of the forum will begin at 11:00 (Tashkent time) in the conference hall of the Tashkent State University of Oriental Studies, on the 4th floor, Shakhrisabz Street, 25.

PARTICIPATING UNIVERSITIES AND ORGANIZATIONS*:

1. *Aichi Prefectural University (Japan)*
2. *Juntendo University (Japan)*
3. *University of Tsukuba (Japan)*
4. *KanazawaUniversity (Japan)*
5. *Tashkent State University of Oriental Studies (Uzbekistan)*
6. *Tokyo University of Foreign Studies (Japan)*
7. *Tohoku Gakuin University (Japan)*
8. *Kansai University (Japan)*

** Forum proceedings include 20 students' publications, 9 participants are guest speakers.*

PLENARY SESSION

March 3, 2022

OPENING CEREMONY

Meeting ID: **842 8095 8364**
Passcode: **471881**

11:00 – 11:05 *Dr.* ***Sayfullayev Durbek,*** *Vice-rector for scientific affairs and innovations, Tashkent State University of Oriental Studies*

Moderator: **Turdaliyev Obidjon**, Graduate student, Faculty of Japanese Studies, TSUOS.

11:10 – 11:25 **YASUHARU Higure,** Doctoral student, University of Tsukuba

Theme: *Collocations in a Textbook of Automobile Maintenance:Toward Training Foreign Automobile Mechanics in Japan*

11:25 – 11:40 **ABDUJABBOROV Ibrohimjon,** Graduate student, TSUOS.

Theme: *Degree of discomfort felt when refused in Japanese and Uzbek*

11:40 – 11:55 **AKI Kanebako,** Graduate student, Aichi Prefectural University

Theme: *"A study of the educational content of the teaching of Spanish- heritage language at primary school level:*

Focusing on classroom practice based on the content of the SDGs

11:55 – 12:10 **FUKUSAWA Mitsuki,** Graduate student, Tohoku Gakuin University.

Theme: *Establishment and Transformation of Festivals:*

A Case study of the Hanagasa Festival in Yamagata.

12:10 – 12:25 **IBRAGIMOVA Zulayho,** Graduate student, Tokyo University of Foreign Studies

Theme: *The role of higher education in achieving the SDGs*

12:25 – 12:40 **SUN Nianqi,** Graduate student, Kansai University.

Theme: *:Comparative study of Born Global Companies*

—Some Suggestions for Born Global Companies from Japan—

12:40 – 13:00 **DISCUSSIONS**

13:00-13:15 **Yukari Nishioka,** Doctoral student, Juntendo University.

Theme: *The Current Situation and Issues of Nursing Support for Family Members as Surrogate Decision-Makers of Elderly Cancer Patient with Decision-making Difficulty*

13:15-13:30 **YANG Feiyue,** Graduate student, Kansai University

Theme: *A study on the development of experiential marketing in retail business*

- mainly in department stores-

13:30-13:45 **ERGASHOV Kholmirza,** Graduate student, TSUOS

Theme: *The use of compound adverbs in conversation between learners and native speakers of Japanese.*

13:45-14:00 **MAGARA Yuki,** Graduate student, Tohoku Gakuin University.

Theme: *Diverse choices of farmers toward agricultural policies: A case study of the Katayose Urushitachi district in Shiwa Town, Iwate.*

14:00-14:15 **SOATOVA Barno**, Undergraduate student, TSUOS

Theme: *Importance of nonverbal communication.*

14:15-14:30 **TOKINO Kanako,** Undergraduate student, Kanazawa University

Theme: *Analysis of Japanese Language Learning Materials from the Perspectives of Nursing Care Technical Intern Trainees' needs*

- Comparing the content of the learning materials to the results of Can do statements of the Japanese language that the nursing care technical intern trainees want to learn –

14:45-15:00 **ESHONKHOJAYEVA Mukarramxon,** Graduate student, TSUOS

Theme: *Semantic analysis of proverbs and phrases related to the cat lexeme in Japanese and Uzbek languages.*

15:00-15:15 **DISCUSSIONS**

15:15-15:30

Concluding remarks:

Dr. OMONOV Qudratulla, *Vice-rector for work with youth, Tashkent State University of Oriental Stud*

UZBEK-JAPAN
STUDENT ACADEMIC FORUM PHOTOS

UZBEK-JAPAN STUDENT

ACADEMIC FORUM II

“2-**O‘ZBEK-YAPON TALABALAR FORUMI**”

ILMIY TO‘PLAM

論文集

Tashkilotchi: Toshkent davlat sharqshunoslik universiteti

主催：タシケント国立東洋学大学

Mas’ul muxarrir:
M.S. Nadjimxodjaev – Yapon filologiyasi kafedrasi o‘qituvchisi

Tahrir hay’ati:
D.B. Sayfullayev – TDShU ilmiy ishlar va innovatsiyalar bo‘yicha prorektor, tarix fanlari doktori (DSc)
E.O.Matchonov – Yaponshunoslik fakulteti dekani
N.T.Xalmurzaeva – Yapon filologiyasi kafedrasi mudiri, PhD., dotsent
S.Reiko – Yapon filologiyasi kafedrasi dotsenti

Mazkur ilmiy to‘plamga 2022-yil 3-mart kuni Toshkent davlat sharqshunoslik universitetida o‘tkazilgan “O‘zbek-Yapon talabalar forumi” ning ilmiy maqolalari kiritilgan.

“O‘zbek-Yapon talabalar forumi” Toshkent: TDShU, 2022. – 167 b.